

山瀧内田俊卯次夫編	山瀧内田俊卯次夫編	山瀧内田俊卯次夫編	山瀧内田俊卯次夫編	山瀧内田俊卯次夫編
作新昭和童謡第三集	作新昭和童謡第四集	作新昭和童謡第五集	作新昭和童謡第六集	作新昭和童謡第七集
並編	並編	並編	並編	並編
製判	製判	製判	製判	製判
26	26	26	26	26
二五	二五	二五	二五	二五
株明治圖書	株明治圖書	株明治圖書	株明治圖書	株明治圖書
月六	月六	月六	月六	月六
▲船玉外十篇、(第二集)春の公園、今日は雨ふり、寒い朝外九篇。(第三集)學校の門、▲通りやんせ外十篇。(第四集)大日本、樺の木と櫻の實、雲のきれめ、毛線の靴外八篇。▲(第五集)をどり、あぢさい、きやうだい、富士の山、運動會、毛毬歌外六篇。(第六集)雨▲と風、私のうち、天氣のよい日、日本の花、子守歌、はれつき外六篇。				

舞踊

伊藤 熹朔
ミチオ・イトウ舞踊寫真集
四六倍判 24
四〇 日日書房
月八
▲伊藤道郎氏の新舞踊寫真とその解説。

音楽舞踊年鑑・辭典

音樂世界社編	音樂世界社編	音樂世界社編	音樂世界社編
昭和七年版	昭和七年版	昭和七年版	昭和七年版
洋四六	洋四六	洋四六	洋四六
布入判	布入判	布入判	布入判
294	256	412	368
一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	二、三〇
敬文館	文教書院	敬文館	太陽堂
月二十	月十	月二	月六
▲音樂關係人名錄、音樂關係團體一覽、西洋音樂年代表、作歌者一覽其他。	▲樂界時事、演奏會日誌、作曲と出版界、過去十年樂壇年表其他。附自由日記。	▲音樂關係人名錄、音樂關係團體一覽、舞踊關係人名錄、樂界記錄外十二部。附自由日記。	▲近來非常に一般化してきた音楽及び舞踊に關しての辭典。

追補

東伏見邦英	足立源一郎	長谷川昇	石川寅治	林柳波	長谷山峻彦
寶雲	硯枝洋	硯枝洋	石川寅治	可愛い童謡	雛菊童謡
上編	新編	新編	上編	四六倍判	四六倍判
製入判	布入判	布入判	製入判	布入判	布入判
603	131	94	27	93	90
三、五〇	一、二〇	一、二〇	二、五〇	一、五〇	四、五〇
民友社	寶文館	寶文館	美術研究社	シンフォニー	シンフォニー
月五	月五	月五	月五	月五	月五
▲秋篠寺、三月堂、靈山寺、唐招提寺講堂内の諸佛外古社寺や佛像の研究三十篇。	▲洋畫の基礎的な諸項に就て述べたもので、洋畫の種類、素描其他。	▲人體を描く上の一一般知識を説けるもので、石膏素描、油繪具と材料其他。	▲浴後、チューリップ外原色版八圖及び青い花瓶の襪外原色版十六圖。	▲本居長世、小松清作、佐々木すぐる外同氏の作曲になる林氏の童謡五十篇を収む。	▲田舎の春、小鳥の音楽會、夕日に落ちる、一つ星外四十六篇の童謡作曲集。

歴史・傳記(史學一般・考古學)

著者	書名	形態	頁数	定價	送料	發行所	發行月	内容大意
早稻田大學部編	史學	第一冊	327	一、〇〇〇	〇、〇〇	新建社	一月一十	▲史學管見(浮田和民)歴史事實に關する私見(野々村戒三)外九篇。
廣島史學研究會編	史學	第一卷第一號	517	三、〇〇〇	〇、〇〇	中文館	一月十	▲雜誌「史學研究」第一卷全三冊の合本で、西洋史研究の使命(新見吉治)其他。
廣島史學研究會編	史學	第二卷第三號	178	六、七〇	〇、〇〇	中文館	一月四	▲章學誠の史學大要(岡崎文夫)中世の奈良(魚澄徳五郎)外四篇。
廣島史學研究會編	史學	第三卷第一號	171	八、七〇	〇、〇〇	中文館	一月七	▲神護寺領莊園に於ける成立と統制(西岡虎之助)外四篇及彙報を收む。
濱田耕作	通論考古學	洋四六判	280	二、八〇〇	〇、〇〇	刀江書院	一月八	▲通俗考古學の名著を新らしく改訂して刊行せるもの。
森本六爾	飛行機と考古學	洋四六判	74	二、七〇〇	〇、〇〇	東京會考	一月四	▲一見新古の兩端に立つ如く見られる飛行機と考古學の兩者を取扱つて其關係を提示す。
大野延太郎	考古學史中の文化	洋四六判	445	二、〇〇〇	〇、〇〇	春陽堂	一月八	▲先史時代の遺跡を基礎に當時の旅行記、發掘せし遺物其他に就て詳述す。

七、歴史・傳記

評好 にめたの者究研樂音育教 評好

井上武士	樂典詳論	送料・二、〇〇	定價・一、〇〇	武藏野音樂學校校長	對位法教科書	送料・〇、八〇	定價・一、〇〇	東京高等師範學校教授
水口廣生	兒童發聲指導の實際	送料・一、〇〇	定價・一、〇〇	澤田立大宮高等女學校	音樂教育の眞使命	送料・〇、八〇	定價・一、〇〇	東京高等師範學校教授
工藤富次郎	唱歌教授法要領	送料・一、〇〇	定價・一、〇〇	武藏野音樂學校校長	初等作曲法	送料・〇、八〇	定價・一、〇〇	東京高等師範學校教授
福井直秋	伴奏の作り方	送料・一、〇〇	定價・一、〇〇	武藏野音樂學校校長	音樂の樂器の編成	送料・〇、八〇	定價・一、〇〇	東京高等師範學校教授
福井直秋	唱歌の歌方と教へ方	送料・一、〇〇	定價・一、〇〇	武藏野音樂學校校長	唱歌科の一時	送料・〇、八〇	定價・一、〇〇	東京高等師範學校教授
林幸光	樂典諸問題と解答	送料・一、〇〇	定價・一、〇〇	天王寺師範學校校長	活用を西洋樂譜の要領	送料・〇、八〇	定價・一、〇〇	東京高等師範學校教授
下總皖一	和聲學實習課題の解例	送料・一、〇〇	定價・一、〇〇	武藏野音樂學校校長	主とせる洋樂譜の要領	送料・〇、八〇	定價・一、〇〇	東京高等師範學校教授
下總皖一	和聲學實習課題	送料・一、〇〇	定價・一、〇〇	武藏野音樂學校校長		送料・〇、八〇	定價・一、〇〇	東京高等師範學校教授
德山健生	新曲と聽音	送料・一、〇〇	定價・一、〇〇	武藏野音樂學校校長		送料・〇、八〇	定價・一、〇〇	東京高等師範學校教授

〇八五一東京替振 店書社商益共 資合區芝市京申
六五〇四田三話電

歴史・傳記(言語學・神話學・民俗學・傳説)

鳥居きみ子	土俗學上より觀たる蒙古	布面四六	1159	六、三〇	六文館	二月二十	▲内外蒙古及び喀喇沁に於ける研究を二編に分け收めた書。改訂版。
清野謙次編	明治初年北海道千島アイヌ	洋面四六	304	二、八〇	岡書院	四月	▲明治初年に於ける北海道及び千島に關する旅行記及びアイヌに關する見聞録を收む。
西村眞次	櫻皮	上四六倍判	52	三、〇〇	造船協會	六月六	▲英文「日本古代船舶研究」の第四部「皮船」の第四編をなし、「Kanwa Bune」の研究。
西村眞次	日本古代船舶研究第四部	洋面四六倍判	248	一、五〇〇	造船協會	六月六	▲英文「日本古代船舶研究」の第四部四冊の合本で、「MAYUSHI KAWABA」外三篇。
高橋健自	鏡と劔と玉	上菊	230	二、三〇	富山房	月一十	▲三種の神器に關する考説をなした著者獨特の研究。

歴史・傳記(日本史)

有坂與太郎	日本雜祭考	洋面四六	241	三、五〇	建設社	月一	▲古今の雜祭の研究で、雜祭の史的考察、地的考察、法制上より見たる雜祭、寫眞卅餘。
相馬二郎	變態處方箋	上四六	591	二、八〇	特殊文獻資料研究會	月一	▲變態的な情事のさまを記述した書で、變態嫉妬考、性的犯罪の種々相外甘篇。
佐藤隆三	江戸の口碑と傳説	背四六	160	一、三〇	郷土研究社	月一十	▲江戸時代の情趣と風韻とを傳ふる口碑傳説を收めたもので、茶碗屋敷外七十四篇。
藤澤衛彦	日本傳説第一卷	洋面四六	420	二、五〇	六文館	月一十	▲酒類童子物語、人買船、兒が淵、苜蓿石童、阿古耶姫、眞間の手兒奈外四篇。
藤澤衛彦	日本傳説第二卷	洋面四六	383	二、五〇	六文館	月一十	▲八百姫と雪女、棄老養老譚、羊太夫、高麗王、羽衣天女外三篇。
藤澤衛彦	日本傳説第三卷	洋面四六	354	二、五〇	六文館	月九	▲日本民族傳承の特異なる物語を收めたもので、月に住む生物其他。
藤澤衛彦	日本傳説第四卷	洋面四六	386	二、五〇	六文館	月一十	▲道成寺清姫譚、蛇淫考、雷の躰取譚、菅公怨雷考、不死鳥談叢外二篇。
佐佐木喜善	聽耳草紙	布面四六	582	四、八〇	三元社	月一	▲聽耳草紙、鬼婆と小僧、蛇女退治、虎猫と和尙、天狗、きりなし話其他昔話百七十七番

竹内 榮喜	伊藤 藏平	權藤 成郷	瀧川 政次郎	三浦 周行	藤澤 直枝	魚澄 惣五郎	東方書院編	細川 龜市	下澤 瑞世	龍居 松之助	福原 武	京城帝國大學 法文學部編	京城帝國大學 法文學部第二部 第三編
元寇の研究	日本國家の成立過程	日本農制史談	律令の研究	本令集解釋義	信濃國分寺の研究	古社寺の研究	時代佛教史料史蹟	日上代佛教の社會經濟	日支世紀比較文化史	日本文明史講話	日本社會文化史概論	日本文化叢考	日本文化叢考
洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判
175	244	244	819	894	100	574	370	252	981	310	278	470	470
二、五〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	六、五〇〇	八、五〇〇	一、〇〇〇	五、〇〇〇	四、五〇〇	一、五〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
雄山閣	白揚社	純心社	刀江書院	内外書社	新井大正堂	星野書店	東方書院	白揚社	輝文堂	雄山閣	興亞學塾	刀江書院	刀江書院
月九	月一十	月二十	月九	月四	月二十	月六	月十	月十	月一十	月四	月六	月九	月九
▲元寇戦役、元軍上陸に關する新研究、弘安役に於ける志賀島地位外五篇。	▲我が國中古の根本法典たる律令の原文に關する研究で、本邦律令の沿革外三篇、附録。	▲神武東征と其以前、鎌倉幕府の興隆、農村生活の不安外十二篇。附支那概觀其他。	▲技術的發展、家族制度の發展過程、大化の改新の諸問題外一章にて論述。	▲前編國分寺建立以前の佛教の概況及國分寺本編信濃國分寺、後編信濃國分寺附近の史談。	▲孝謙天皇の天平勝寶九年施行せられた養老の令を註解した大著で卷四より成る。	▲王朝時代の寺院制度と國分寺の興廢外十三篇及び附録京都等特寺跡外十九篇。	▲彫塑、繪畫、工藝外五項に分ち日本佛教の史料及史蹟を收録す。	▲上代佛教の物質的基礎外四篇にて論述、奈良朝寺院の物質的基礎外四篇にて論述。	▲支那及び歐羅巴と細かに比較對照して文化の推移發達を系統的に叙述せる日本歴史。	▲支那及び歐羅巴と細かに比較對照して文化の推移發達を系統的に叙述せる日本歴史。	▲神話に始まる國史、勢力を東に擴張せる天孫民族外五十一篇にて講述。	▲日本社會文化史の觀念、日本社會文化の發展段階、民族制度の時代外七章にて論述。	▲支那文學の馬琴の作品に及せる影響（麻生磯次）佛師定朝（田中豐藏）外三編。

歴史・傳記（日本史）

幸田 成友	松崎 實太郎	木下 奎太	濱田 青陵	種畑 雪湖	石田 傳吉	德富 猪一郎	德富 猪一郎	德富 猪一郎	德富 猪一郎	三浦 周行	小林 博	石川 恒太郎
和蘭夜話	日本廿六聖人殉教記	日本書翰	天正遣歐使節記	江戸時代の交通文化	近世日本文化年代記	近世日本國民史(第六)	近世日本國民史(第六)	近世日本國民史(第六)	近世日本國民史(第六)	明治維新と現代支那	趣味の幕末秘史	浪人史
洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋四六倍判 布判	洋三六倍判 布判
335	442	157	464	600	206	557	685	543	397	350	659	122
二、八〇〇	二、一〇〇	一、八〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇	一、三〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	一、五〇〇	一、八〇〇	二、八〇〇	六、五〇〇
同文館	岩波書店	第一書房	岩波書店	刀江書院	地方改良協會出版部	民友社	民友社	民友社	日本書院	刀江書院	大同館	春秋社
月九	月二十	月六	月四	月七	月二十	月三	月八	月二十	月二十	月九	月九	月三
▲和蘭夜話、西洋古本屋覗き、日本に關する最近の目録二部外十四篇の論文集。	▲日本と比律賓と通交始めの事、二十六人大殉教の事外三篇。	▲千五百九十一年及び千五百九十二年迄のイヌ・フロイスの書翰を譯出す。	▲天正年間九州の大夫、大村、有馬三侯が歐羅巴に差遣した四使節の行程を記述す。	▲江戸時代に於ける交通に關する歴史を文化史的に述べたるもの。	▲近世日本一百年の文明史で、仁孝天皇一御代三十年記外五篇。	▲阿部政房の幕閣、水戸齊昭の京畿防備意見日米新條約外十五篇。上五篇。	▲安政日米條約締結の折衝記事を取めたもので、幕府の外交諸問外十八篇。上五篇。	▲孝明天皇の御事、京都政治上の中心たらんとす外十六篇。	▲續篇は日本國史上より觀る維新、小栗上野介の外國語の能力外五十二篇。	▲博士が支那の各地に於てなした明治維新史に關する講演集。附録明治法制史外一篇。	▲新選組の京上り、寺田屋騒動の經過、囚はれの上洛の外七十五篇より成る幕末秘史。	▲浪人の生活に關する研究に主力を注げるもので、浮浪篇外二篇。

歴史・傳記（日本史）

徳富猪一郎	修史餘録	布四六 裝入判	二、〇〇	民友社	月一	▲維新史の骨髄、歴史の生命、維新史の前提としての日本史の概念外五篇。
堀田璋左右編	國史新辭典	洋四六 布入判	五、五〇 二、四〇	雄山閣	月四	▲上代より現今に至る迄の國史に關する事件地名其他約一萬二千餘語を收拾して解説す。
桑原記念會士	東洋史論叢	洋四六 布入判	三、〇〇 四、五〇	弘文堂	月一	▲執筆者四十五大家、夫々その特有の視角より眺めたる東洋史に關する一大論文集。
中山久四郎編	考東洋歴史	洋四六 布入判	五、五〇 二、四〇	立川書店	月二	▲上古史、中古史、近古史、近世史の四篇六十七章にて詳述。
佐藤久四郎編	支那古代社會史論	洋四六 布入判	三、三〇 一、四〇	内外社	月二十	▲中國社會の歴史的發展段階、周易の時代的背景と精神的生産外三篇。
藤枝文夫著	支那封建社會史	上四六 裝判	六、五〇	四海書房	月五	▲附録として虎子氏の「支那商業資本社會の發端」を附す。
野原四郎譯註	世界史論講	布四六 裝入判	五、一〇〇 一、八〇	岩波書店	月七	▲故坂口博士の論文集で、進講録草案、古代國家觀、近世史論義外二篇。
坂口昂	世界古代文化史	青四六 布入判	特、八〇〇 四、〇〇	東京堂	月二十	▲先史時代、アジャ文化、エジプト文化、ロツパ文化、支那文化其他五章。
西村眞次	西洋史新話	洋四六 布入判	二、〇〇 一、四〇	博文館	月一十	▲史實を總括し系統的に叙述せるもので、中世史及び近古史の二篇。
岡本峻	西洋史新話	洋四六 布入判	二、〇〇 一、四〇	博文館	月一十	▲下巻はルネッサンス前後より筆を起せるもので、近古史外二篇。
淺野利三郎	西洋史新話	洋四六 布入判	七、五〇 二、四〇	寶文館	月二	▲古代—希臘、近世諸國家の發達、自由思想の發達、世界大戰外十四章。
大野類	西洋史新話	洋四六 布入判	四、五〇	青年教育會	月一十	▲偉人と歴史とに對する興味深い西洋史の新話を網羅す。上巻はテレーの勃興外二篇。

世界史・西洋史

東洋史

箕作元八	西洋史新話	洋四六 布入判	二、〇〇 一、四〇	博文館	月一十	▲偉人と歴史とに對する興味深い西洋史の新話を網羅す。上巻はテレーの勃興外二篇。
箕作元八	西洋史新話	洋四六 布入判	二、〇〇 一、四〇	博文館	月一十	▲下巻はルネッサンス前後より筆を起せるもので、近古史外二篇。
原勝郎	西洋史新話	洋四六 布入判	七、五〇 二、四〇	寶文館	月二	▲古代—希臘、近世諸國家の發達、自由思想の發達、世界大戰外十四章。
村川堅固	西洋史新話	洋四六 布入判	四、五〇	青年教育會	月一十	▲偉人と歴史とに對する興味深い西洋史の新話を網羅す。上巻はテレーの勃興外二篇。
東京女子大學教授	西洋史新話	洋四六 布入判	二、〇〇 一、四〇	博文館	月一十	▲下巻はルネッサンス前後より筆を起せるもので、近古史外二篇。
廣瀬哲士	西洋史新話	洋四六 布入判	三、三〇 一、四〇	同文館	月九	▲故原博士が大學の講義に備へられし西洋中世史概説の諸篇と宗教改革史の一篇を收む。
西田宏譯	西洋史新話	洋四六 布入判	三、三〇 一、四〇	同文館	月九	▲ギリシヤ史の太古時代、ミケネ時代、ギリシヤ文化の高潮期外十一篇。
朝日融溪	西洋史新話	洋四六 布入判	三、三〇 一、四〇	同文館	月九	▲ゲルマン民族移動時代の佛蘭西、封建時代の佛蘭西外四章。附録佛蘭西史年表。
落合二郎	西洋史新話	洋四六 布入判	三、三〇 一、四〇	同文館	月九	▲最初の五百年、メログエ王朝時代、カロロ王朝の盛衰外九章にて詳述。
太宰衛門	西洋史新話	洋四六 布入判	三、三〇 一、四〇	同文館	月九	▲古代獨逸民族の出自・郷土・系統・風俗を記述せるもので、日耳曼諸民族外一章。
淡徳三郎譯	西洋史新話	洋四六 布入判	三、三〇 一、四〇	同文館	月九	▲中世紀の世態、文藝復興の黎明、文藝復興の思想解放論外十章にて詳述。
クロボトキン著	西洋史新話	洋四六 布入判	三、三〇 一、四〇	同文館	月九	▲英國革命、米國獨立、希臘獨立、佛蘭西革命、伊太利革命、露國革命の六篇。
淡徳三郎譯	西洋史新話	洋四六 布入判	三、三〇 一、四〇	同文館	月九	▲世界の革命史實を簡単に編述せるもの。附録「日本革命論」。
クロボトキン著	西洋史新話	洋四六 布入判	三、三〇 一、四〇	同文館	月九	▲革命の二大潮流、一七八九年初頭の農民蜂起、都市の叛亂外卅一章。
淡徳三郎譯	西洋史新話	洋四六 布入判	三、三〇 一、四〇	同文館	月九	▲下巻は九月事件より熱月九月—反動の勝利までを收む。附年表、索引。

歴史・傳記(歴史参考書)

内藤 堯	各國國旗の由來と國祭日	上四六 製判	320	一、八〇	同文館	月十	▲國旗の重要性、日章旗の掲揚と取扱方、祝祭日の由來等六章。及五十餘國の國旗の説明。に迄及ぼせる書で、第一巻は世界戦争其他。
横川次郎	ドイツ大革命史	洋四六 布入判	416	一、〇〇	共生閣	月十一	▲ドイツアルシヨア革命前後よりカッブ叛亂に迄及ぼせる書で、第一巻は世界戦争其他。
木村 武三	文檢史的事項の解説	洋四六 布入判	412	二、五〇	文化書房	月九	▲日本の部(神代、大和時代外三章)東洋の部(上古時代外三章)
歴史教育研究会編	高等専門學校日本史の問題	並四六 製判	115	四、二〇	西東社	月十	▲過去數十年來の各高等學校及専門學校等の入試問題九百六十二題を集録せるもの。
柴田 親雄	最新模範 日本史	洋四六 布判	495	一、五〇	教育研究会	月一	▲各編各章の排列を大體中等學校教科書の順序に據つて記述せるもので、太古以下五編。
蘆田 逸次	最新模範 日本史	洋三六 布判	467	一、四〇	文花堂	月九	▲記述の形式に於て全體を總括問題と特殊問題の二編にて述べたもので、上古史外四編。
西村爲之助	日本史 講義	並四六 製判	112	六、五	青甲社	月四	▲神代より蘇我氏滅亡まで、大化改新より平氏滅亡までの二編。
中等文科學會編	本位 日本歴史の要點	洋四六 布判	330	一、〇〇	光世館	月一	▲受驗立場より觀て形に表はし眼に訴へ觀察し統覺的形式を示したり。
山本 義夫	眼目を受驗學習東洋史	洋新四六 布判	267	一、〇〇	東京開成館	月一	▲東洋史を明快に説明し且つ其の間々に適宜註釋を加へた學習受驗參考書。
三省堂編輯所編	受驗本位の西洋歴史	洋三六 布判	420	一、三〇	三省堂	月一	▲重要事項には表解詳説註釋を施して敘述せる受驗參考書で、上古史其他。
林 與一	最新模範 西洋史	洋四六 布判	530	一、八〇	教育研究会	月二	▲文部省制定の教授要目に準據し總ての史實を網羅解説す。上古史外四部。
金子 直衛	管式修了程度西洋史	洋四六 布入判	439	一、九〇	慶文堂	月二十	▲難解の西洋史を最も簡明に記載せる參考書で、上古史、中世史外三編。

歴史・傳記(史話・史談)

中島孤鳥	性愛史	並四六 製判	554	一、七〇	早稻田大學出版部	月七	▲宗教のために命を献げた少女ドロテアの戀外二十五篇を譯述す。
小松 綠	維新革命秘話	布四六 製入判	426	二、〇〇	千倉書房	月十	▲外國に傳はつた最初の日本物語、日本最初の國際條約外百卅一篇。
富士三六編	世界革命實話全集	並四六 製判	129	六、五〇	古津社	月十一	▲世界に於ける革命文獻から最も重要にして最も興味ある部分を抄録編纂したもの(發售)
藤田 鏡造	明治百話	上四六 製入判	556	一、四〇	四條書房	月十	▲首斬朝右衛門、御國替と御國入、明治思出、淺草新地と猿若町外九十六篇。
中里 機庵	開港末の羊娘情史	並四六 製判	484	一、五〇	赤爐閣	月二	▲らしやめんの起原及び事情等を詳述せるもので、横濱遊廓と華魂喜遊の憤死外九篇。
千葉 龜雄	新日本仇討	布四六 製入判	569	二、五〇	天人社	月二	▲婦人の仇討廿篇を始め明治大正徳川戰國時代の仇討に關する百數十篇を収む。
岩井大慧編	掌中東西年表	上油 製珍	276	二、五	四海書房	月五	▲ゲエスト・ポケットにすら這入る東西年表。
山梨縣教育會編	歴史讀本	並四六 製判	160	八、三	朗月堂	月九	
後藤 捷三	眼目を受驗學習西洋史	洋新四六 布判	430	一、三〇	東京開成館	月二十	▲主として實業補習青年訓練所の教科用に充て編纂せるもの。
宮田 勝三郎	西洋史の覺え方と解説	並三六 製判	512	一、〇〇	右文書院	月十	▲覺え方の要領、西洋史の一覽表、新案覺え方文化的記事、等他三項目の特色三附録あり。
菅原 憲校訂	西洋史 講義	並四六 製判	112	六、三	青甲社	月四	▲下巻は歐洲に於ける列國の活動、專制主義と國民主義の争闘の二編。
明治大學教授	西洋史の覺え方と解説	並三六 製判	512	一、〇〇	右文書院	月十	▲覺え方の要領、西洋史の一覽表、新案覺え方文化的記事、等他三項目の特色三附録あり。
東洋立第七中學校教授	眼目を受驗學習西洋史	洋新四六 布判	430	一、三〇	東京開成館	月二十	▲主として實業補習青年訓練所の教科用に充て編纂せるもの。

下條三郎	田村友三郎	安川隆治	大月隆伏	細井肇	黒田禮二	大佛次郎
新編 江戶城總攻撃	手記 血の爆弾	血けむり	見たる日露戦争	女王関妃	廢帝前後	ドレフユス事件
上四六	洋四六	並四六	並四六	布四六	洋四六	布四六
製入判	布判	製入判	製入判	製入判	布判	製入判
400	321	312	259	375	649	275
一〇六	一、五〇	二、五〇	一、〇〇	二、〇〇	一、八〇	一、三〇
大進堂書店	教育研究會	刊行名會	刊行名會	月刊社	中央公論社	改造社
月六	月六	月四	月二	月三	月一	月九
▲江戸擾攘篇、江戶城總攻撃篇、脱走隊篇、彰義隊篇、上野戦争篇、外數項篇。	▲日露戦争の歴史者田村氏の従軍手記で、開戦當時、門出外七篇。	▲日露戦争の回顧録で、戦争が天誅か、征途の月、旅順攻圍外十八項より成る。	▲日露戦争従軍記で、動員下令以下四十四項附録戦争と悲話哀話。	▲女王関妃を中心とした朝鮮歴史物語で、女王の悩み以下八十七項。餘録一篇。	▲獨逸共和國成立の動機をピスマルク帝國の構成の中に求めた革命史論で、鐵と血と其他	▲密書、行けユダ! 悪魔島、最後の切札外五項にて有名なドレフユス事件を描く。

日本人傳記

寺門咲平	廣瀬無聲	阿部芳春	大久保龍	宿利重一	宿利重一	櫻井忠温	東郷元	眞影會	渡邊盛衛	大塚榮三	芳賀八千穂	高橋勝介	高橋勝介
先賢の佐久間象山	山縣大貳先生事蹟考	正受老人	鳴呼大楠公	乃木	乃木	人・乃木將軍	東郷元帥寫眞傳	有馬新七先生傳記及遺稿	郡是の川合信水先生	大西郷と床次	大井支洞翁と鳩山一郎	婦人鑑鳩山春子女史	婦人鑑鳩山春子女史
上四六	大圖編和	洋四六	上四六	並四六	並四六	布四六	布四六	布四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六
製入判	製入判	布判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	布判	布判	布判	布判	布判
352	124	374	416	486	454	168	189	394	313	234	246	246	273
一、三〇	二、〇〇	二、三〇	二、三〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	三、〇〇	二、一〇	一、〇〇	一、三〇	一、〇〇	一、〇〇	一、三〇
西澤書店	朗月堂	新野大正堂	先進社	春秋社	春秋社	天人社	博文館	海外社	岩波書店	三友堂	三友堂	三友堂	三友堂
月五	月十	月六	月四	月九	月九	月八	月六	月四	月二十	月二	月六	月六	月六
▲開國論の一大先達として巨星の如く輝いた佐久間象山の生涯を説けるもの。	▲勤王の先驅山縣昌貞の事蹟を明かにせるもの。故郷を去る「學問及著書」外三十餘篇。	▲第一編行録、第二編附録、第三編附録、第四編附録、圖版四十九。	▲補正成の精忠義烈の有様を叙述した大楠公傳で、薫樹、風雲來外九編。	▲自刃前の思出で、年譜、陸軍少佐に任ず、善通寺時代外七篇より成る乃木將軍傳。	▲其の最後の日、年譜、阿七さんの頃、結婚前其他七篇より成る乃木夫人傳。	▲人間としての乃木將軍に就て語つたもので他に那須野日記及陣中日記の一節外一篇。	▲皇室よりの御下賜品及び東郷元帥に關する資料數百點を撮影し解説を施せるもの。	▲有馬新七の勤王事蹟を敘述し其遺稿を網羅せるもので、傳記、遺稿の二篇。	▲川合信水氏の人物性行悟道等を紹介せるもので、青年時代の先生外十一篇。	▲床次竹二郎(南州以後の偉材外廿四項)大西郷(私學校物語外十七項)。	▲翁と鳩山君との關係及び兩氏の傳記逸話等の大略を記述せるもの。	▲長子大に次子を名法博に育成し他方教育界に貢獻せる偉婦人春子刀自の傳。	▲長子大に次子を名法博に育成し他方教育界に貢獻せる偉婦人春子刀自の傳。

歴史・傳記(日本人傳記)

橋	輝	政編著	野口英世書簡集と母の生涯	洋四六	布入判	159	一、 〇〇	文獻協會	月二十	▲野口英世博士の醫師の第一歩に入つた明治卅一年より昭和二年に至る絶筆迄を収む。
後	藤	狂夫	我郷土の進めろ志賀重昂先生	並四六	並製判	180	四、 〇〇	警眼社	月七	▲先生の生立より世界を股にしての南船北馬の先生の一生並所論の概要逸事餘聞等。
與	良	松三郎	物語 豊田織機王	布四六	並製判	518	一、 二〇	興風書院	月八	▲叩き大工から千萬長者の豊田王國を海の内
關	豐	作	雜誌 野間清治傳	並四六	並製判	182	四、 〇〇	新聞解放社	月九	▲雜誌 野間清治氏の傳で、酒呑みの父を諫めた野間少年外四十一項。
荒	木	武行	評人物 野間清治論	並四六	並製判	234	一、 〇〇	全線社	月九	▲雜誌 野間清治氏の評傳で、時代を作るもの、野間氏の印象外五篇。
邊	見	勇彦	邊見勇彦馬賊奮闘史	上四六	並製判	486	一、 二〇	先進社	月二十	▲我が特別任務班滿洲馬賊隊義勇軍を組織して活躍せる邊見勇彦氏の血涙史。
關	豐	作編	不出世 朝鮮總督宇垣一成	布四六	並製判	94	六、 〇〇	新聞解放社	月九	▲少年李次から朝鮮總督宇垣一成まで、宇垣將軍の總監親任まで外四編。
日	高	南市	政治 歴代大臣物語	背四六	革入判	1236	二、 八〇	カオリ社	月六	▲歴代國務大臣の忍苦力行の跡を述べたもので、大臣と評傳外二篇。
藤	原	楚水	現代財界人物	並四六	並製判	308	一、 五〇	東洋經濟出版部	月四	▲大川平三郎、各務謙吉其他財界の巨頭廿數氏が如何にして今日の地位を得たかを述ぶ。
國	民新聞政治部編	明日を待つ彼	運・純・根て行く	布四六	並製判	310	一、 二〇	千倉書房	月七	▲政界官界實業界學界藝術界思想界等各方面の人々を拉し來つて描けるもの。
野	澤	嘉哉	運・純・根て行く	洋四六	布判	327	一、 五〇	萬里閣	月三	▲財界二十人物の出世談で、田中平八、高島嘉右衛門、兩敬其他。
長	沼	依山	子嗣 實業王となるまで	洋四六	布入判	450	一、 八〇	荻原屋文館	月一十	▲奮闘的事業家 淺澤榮一翁の一生を述べたもので、榮一の誕生外八十八篇。
北	林	惣吉	物語 野間清治傳	布四六	並製判	317	一、 五〇	千倉書房	月二	▲北林惣吉、今西兼二其他數十氏の淺野翁道想談で、眞の事業家、大なる労働者の二部。

歴史・傳記(世界人傳記)

澤	田	謙	世界十傑傳	布四六	並製判	509	一、 二〇	講談社	月九	▲現代世界を指導する英雄兒を選んだものでヒンテンブルグ、ケンテイイ外八篇。
岡	本	修助	偉人の面影	並四六	並製判	272	一、 五〇	改造社	月二	▲レンツシグ、ゲーテ、シラー、クライストヘツベル、ハイネ其他の人物評傳。
新	渡	戸	偉人	上四六	並製判	418	一、 二〇	日實本業社	月一十	▲偉人の解、佛蘭西の柱石アルジョア氏、新興國ポランドの偉物外人物印象記卅篇。
竹	内	文	現代名士立志成功傳	上四六	並製判	302	一、 二〇	昭文閣	月五	▲武藤山治以下現代の名士廿三氏の奮闘立志傳。
北	林	惣吉	女一人の心	布四六	並製判	184	一、 八〇	千倉書房	月二	▲内助の一念に終始された淺野翁夫人の生涯を述べたもので、幼き頃外六篇。
虞	美	人	女一人の國	布四六	並製判	392	一、 二〇	内外社	月七	▲關東、東海道、九州方面から出た著名な女性に就て記述したもの。東京以下十四項。
虞	美	人	續女一人の國	布四六	並製判	441	二、 二〇	内外社	月七	▲續篇は關西、東北、北海道、中國、北信、四國の五篇より成る。
德	富	猪一郎	わが母	上四六	並製判	228	二、 〇〇	民友社	月二十	▲蘇峰氏自身の母堂に對しての記憶を綴つたもので、私の出生まで外十一篇。
佐	山	榮太郎	人間句佛	布四六	並製判	307	一、 五〇	大阪屋號	月一十	▲重疊波瀾を極めた人、句佛上人の受難史を小説化するもの。
片	山	潜	自傳	布四六	並製判	249	三、 〇〇	改造社	月二十	▲生立ちの記、東京監獄にて少年時代の追憶社會問題の探求外卅一章。
松	永	左衛門	自敘傳 松永安左衛門	上四六	並製判	239	一、 〇〇	昭文閣	月五	▲東邦電力社長松永安左衛門氏の赤襟々な自叙傳。
竹	内	文	何が私をかうさせたか	並四六	並製判	424	一、 〇〇	春秋社	月七	▲朝鮮での私の生活、村に還る、虎口へ、性の渦巻、父よさらば、新聞賣子。

藤浪剛一	西村爲之助	水野城東編	高倉忍	井關孝雄	早坂麟二	和氣律次郎	廣畑恒五郎	古莊國雄	岡田忠一	岡田忠一	松本悟朗	米野豊一	浦山平	松本悟朗	鹽津誠作	廣野光吉	大竹博吉	清澤洩	別府一郎	齋藤博	鶴見祐輔	尾池義雄	大野俊一	桑田智	フイツシャー		
東西沐浴史話	幕末及現代史	江戸城風雲回顧録	怪傑ヒツト	ヒツト	尖世界人名辭典	犯罪王カボネ	空のリンダバグ	蔣介石	ムツソリニ自叙傳	トーマス・マサリツク	ロイド・チョーイジ	カイツル・ウイール	クレーマン	ルーズヴェルト	世界人傳記(2)	エチソン	マクドナルド	ナボレオン	ナボレオン	ナボレオン	ナボレオン	ナボレオン	ナボレオン	ナボレオン	ナボレオン	ナボレオン	わが想ひ出より
洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋三六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六		
207	108	196	39	271	385	404	114	146	268	132	150	290	363	252	305	255	327	312	161	412	567	278	367	380			
一、二、三、四、五	一、二、三、四、五	一、二、三、四、五	二〇	一、五〇	一、三〇	一、三〇	三、五〇	六、四〇	六、五〇	六、四〇	六、四〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	二、八〇		
瀨尾書店	日本文書院	人文書院	育社	先進社	歐亞社	改造社	婦女界社	上方屋	上方屋	上方屋	上方屋	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	三省堂	改造社	岩波書店	講談社	春秋社	春秋社	春秋社	春秋社	平凡社			
五月	五月	五月	十月	九月	十月	八月	八月	十月	十月	十月	十月	六月	六月	六月	六月	六月	六月	六月	八月	二月	八月	十月	一月	八月			
▲江戸城に起つた事件並に變遷の真相を描けるもので、太田道灌と徳川家康外廿八篇。	▲幕末史(家定―大政奉還約十五年) 現代史(王政維新約六十年)の二編を収む。	▲沐浴と思想、表現、羅馬のカラカラ浴室、風呂屋と湯屋外四十一篇。	▲海外現存人物中各方面に於ける第一人者と目すべき人物を採録す。	▲新興ドイツの巨人アドルフ・ヒットラーの全貌を描けるもので、民族と階級外七篇。	▲彼の生立と其人物、ヒットラー黨の綱領、青年とヒットラー運動外七篇。	▲市俄古の殺人業者アル・カボネに就て述べたもので、アルの素描、犯罪の都外十一篇。	▲生ひ立ち、大西洋横断飛行、中米親善飛行リンダバグの言葉外三篇。	▲人間としての蔣介石、蔣介石の事業、蔣介石の思想其他より成る蔣介石の言行録。	▲チエツコスロバキヤ第一次の大統領となつたマサリツクに就き述べた書。	▲伊國首相ムツソリニの自叙傳で、硫黄分を含む土地、権力征服の道程外十一篇。	▲英國の持つ政治家第一流の地位に置かるべきロイド・ジョージに就て述べた書。	▲激しい個性を世界の意識上に印象するムツソリニの傳記。ルーズヴェルト併載。	▲フランス政界の虎と云はれたクレマンソオの生涯で、指揮の統一外十四篇。	▲世界大戦の重要な立役者前カイゼル・ゲイヘルム二世の回想録。獨逸皇帝書翰併載。	▲國際的妖術術者マタ・ハリ。の傳記で、不幸な結婚とその破綻外十五篇。	▲「わが生活」から(青年時代外四項)鋼鐵の男スターリン(南部戦線外十七項)。	▲レニンの生涯と事業より譯出。	▲現在アメリカを代表するフォードの傳記で機械人フォード二篇。	▲エチソンに會ふ、少年時代の理想、エチソンの功績、エチソンの天才外七篇。	▲大英帝國の勞働宰相マクドナルドの傳記で、梅壇の匂ひ、巢立ち外卅一篇。	▲英傑ナボレオンの眞面目な述べたもので、明暗交錯、蛟龍池を出づ外十五篇。	▲ナボレオンに對する正確な傳記で、ナボレオンの誕生、父母の事ども外八十一篇。	▲佛蘭西大革命の領袖の一人で又あらゆる人物を裏切つたフーシェの生涯の研究。	▲蛋白質研究の大家エミール・フイツシャーの自叙傳で、幼き日のことども外七篇。			

藤浪剛一	西村爲之助	水野城東編	高倉忍	井關孝雄	早坂麟二	和氣律次郎	廣畑恒五郎	古莊國雄	岡田忠一	岡田忠一	松本悟朗	米野豊一	浦山平	松本悟朗	鹽津誠作	廣野光吉	大竹博吉	清澤洩	別府一郎	齋藤博	鶴見祐輔	尾池義雄	大野俊一	桑田智	フイツシャー	
東西沐浴史話	幕末及現代史	江戸城風雲回顧録	怪傑ヒツト	ヒツト	尖世界人名辭典	犯罪王カボネ	空のリンダバグ	蔣介石	ムツソリニ自叙傳	トーマス・マサリツク	ロイド・チョーイジ	カイツル・ウイール	クレーマン	ルーズヴェルト	世界人傳記(2)	エチソン	マクドナルド	ナボレオン	ナボレオン	ナボレオン	ナボレオン	ナボレオン	ナボレオン	ナボレオン	ナボレオン	わが想ひ出より
洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋三六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	
207	108	196	39	271	385	404	114	146	268	132	150	290	363	252	305	255	327	312	161	412	567	278	367	380		
一、二、三、四、五	一、二、三、四、五	一、二、三、四、五	二〇	一、五〇	一、三〇	一、三〇	三、五〇	六、四〇	六、五〇	六、四〇	六、四〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	一、六〇	二、八〇	
瀨尾書店	日本文書院	人文書院	育社	先進社	歐亞社	改造社	婦女界社	上方屋	上方屋	上方屋	上方屋	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	三省堂	改造社	岩波書店	講談社	春秋社	春秋社	春秋社	春秋社	平凡社		
五月	五月	五月	十月	九月	十月	八月	八月	十月	十月	十月	十月	六月	六月	六月	六月	六月	六月	六月	八月	二月	八月	十月	一月	八月		
▲江戸城に起つた事件並に變遷の真相を描けるもので、太田道灌と徳川家康外廿八篇。	▲幕末史(家定―大政奉還約十五年) 現代史(王政維新約六十年)の二編を収む。	▲沐浴と思想、表現、羅馬のカラカラ浴室、風呂屋と湯屋外四十一篇。	▲海外現存人物中各方面に於ける第一人者と目すべき人物を採録す。	▲新興ドイツの巨人アドルフ・ヒットラーの全貌を描けるもので、民族と階級外七篇。	▲彼の生立と其人物、ヒットラー黨の綱領、青年とヒットラー運動外七篇。	▲市俄古の殺人業者アル・カボネに就て述べたもので、アルの素描、犯罪の都外十一篇。	▲生ひ立ち、大西洋横断飛行、中米親善飛行リンダバグの言葉外三篇。	▲人間としての蔣介石、蔣介石の事業、蔣介石の思想其他より成る蔣介石の言行録。	▲チエツコスロバキヤ第一次の大統領となつたマサリツクに就き述べた書。	▲伊國首相ムツソリニの自叙傳で、硫黄分を含む土地、権力征服の道程外十一篇。	▲英國の持つ政治家第一流の地位に置かるべきロイド・ジョージに就て述べた書。	▲激しい個性を世界の意識上に印象するムツソリニの傳記。ルーズヴェルト併載。	▲フランス政界の虎と云はれたクレマンソオの生涯で、指揮の統一外十四篇。	▲世界大戦の重要な立役者前カイゼル・ゲイヘルム二世の回想録。獨逸皇帝書翰併載。	▲國際的妖術術者マタ・ハリ。の傳記で、不幸な結婚とその破綻外十五篇。	▲「わが生活」から(青年時代外四項)鋼鐵の男スターリン(南部戦線外十七項)。	▲レニンの生涯と事業より譯出。	▲現在アメリカを代表するフォードの傳記で機械人フォード二篇。	▲エチソンに會ふ、少年時代の理想、エチソンの功績、エチソンの天才外七篇。	▲大英帝國の勞働宰相マクドナルドの傳記で、梅壇の匂ひ、巢立ち外卅一篇。	▲英傑ナボレオンの眞面目な述べたもので、明暗交錯、蛟龍池を出づ外十五篇。	▲ナボレオンに對する正確な傳記で、ナボレオンの誕生、父母の事ども外八十一篇。	▲佛蘭西大革命の領袖の一人で又あらゆる人物を裏切つたフーシェの生涯の研究。	▲蛋白質研究の大家エミール・フイツシャーの自叙傳で、幼き日のことども外七篇。		

西村爲之助	日本史講義	並四六製判	110	二、四〇	日協本會	月五	▲下巻は近古史(鎌倉時代外三期)近世史(江戸時代初期外一期)の二編より成る。
橋村博	日本歴史精義	洋四六布判	584	一、五〇	駿々堂	月五	▲文部省で編成された教授要目を標準として記述せるもので、上古史外四編。
早坂二郎	誰が世界大戦を製造したか	上四六製入判	409	一、七〇	先進社	月五	▲先史時代、シリアと其の近隣、中世史の概要宗教改革と宗教戦争外十一章。
天臺宗門	大戦後の世界史	洋四六布入判	224	二、八〇	泰文社	月五	▲世界大戦製造の工程を暴露せるもので、暗殺戦争伯爵外十二項。
御遠忌事務局編	圓城寺之研究	布四六倍判	718	二、〇〇	星野書店	月五	▲世界大戦後の歴史で、世界地圖の新訂、平和の過渡期外二編。

八、地理・紀行

著者	書名	装幀	頁數	定價	發行所	月行發	內容大意
小川英男	自然地理學演習	洋四六布入判	232	二、五〇	古今書院	月六	▲デーグイスの自然地理學演習の邦譯で、説明書と附圖の二部より成る。
テラ重英	人種地理學	洋四六布入判	268	二、八〇	古今書院	月二	▲世界の一般環境構成、變化して行くアジアの環境、日本種族の源外十七章。
高尾常盤	國家地理學概論	洋四六布入判	326	三、〇〇	目黒書店	月六	▲最近驚くべき發達を來たした國家地理學に就て論述せるもので、國家の條件外一章。
東京帝國大學地理學教室	初等經濟地理學	洋四六布入判	222	一、〇〇	古今書院	月二十	▲地理學の新傾向、經濟地理學の理論、經濟地理學の研究法の三篇にて論述。
京都帝國大學教授	日本經濟地理學	洋四六布入判	151	一、〇〇	岩波書店	月二	▲總論、經濟地理學の概念、經濟地理學の研究課題、經濟地理學の概念、經濟地理學の研究課題、經濟地理學の概念、經濟地理學の研究課題。
小田内通敏	日本風土と生活形態	洋四六布入判	47	二、五〇	鐵塔書院	月八	▲陸軍航空本部並に下志津陸軍飛行學校の撮影にかゝる航空寫眞五十二圖に説明を施す。
文部省調査官	地理學	洋四六布入判	108	六、四〇	青年教育會	月一十	▲氣候、空氣中の水蒸氣、日照と雲量、日本近海の流れ外四十一章。
山崎直方	山崎直方論文後集	洋四六布入判	668	六、五〇	古今書院	月五	▲下巻は地震及び地塊運動、考古學及び人類學其他に關する卅二論文を收む。

國松久彌	フリードリッヒ・ラッセル —その生涯と學說—	洋四六 布入判	一、二〇 八〇	古今書院	月九	▲人類地理學者として名聲あるラッセルの學說體系を解説論述す。
耕崎正男編	最近地理學文獻目錄 第一輯	洋四六 布入判	一、〇〇 〇〇	古今書院	月二十	▲雜誌及び特殊刊行物より地理學に關せる文獻を輯録せるもので、本質論外四篇。
高木菊三郎	日本地圖測量小史	洋四六 布入判	一、〇〇 〇〇	古今書院	月二	▲我國に於ける地圖的測量の變遷を闡明し其他に及べるもので、我國測量の創始時代以下。
香川幹一	地形學入門	布四六 裝入判	一、〇〇 〇〇	古今書院	月十	▲地形學、侵蝕地形及び構造地形の三編にて論述せる地形學入門書、邦語及歐語索引。
加賀谷文治郎	ブロックダイアグラムの描き方	洋四六 布入判	一、〇〇 〇〇	古今書院	月六	▲平行透視による基本ブロックの構成、地貌表現の手法外六章にて説述。
工藤貞吉著	國際地理學の主張	洋四六 布入判	一、〇〇 〇〇	啓文社	月三	▲國際地理學の主張を各方面より力説し次に國際地理學の教材を分類して詳細に叙述す。
佐々木清治	郷土の地理的研究法	洋四六 布入判	一、〇〇 〇〇	中興館	月一十	▲郷土の地理的認知の問題、郷土人口、氣候材料の整理外二篇にて論述。
三澤勝衛	郷土地理の観方	布四六 裝入判	一、〇〇 〇〇	古今書院	月十	▲信州地域のもつ其地域性の究明で、地理學の本質、地理教育の二編。
東木龍七	郷土地理野帳	布三六 裝入判	一、〇〇 〇〇	古今書院	月九	▲郷土地理野帳の使命、郷土地理調査の準備法、郷土地理調査の主要項外二篇。
小林房太郎	最大日本地理精義	布四六 裝入判	一、〇〇 〇〇	南光社	月二十	▲上巻は日本地理學と地方誌上篇の二編より成るもので、領土及領海其他。
山本熊太郎	概観日本地理	布四六 裝入判	一、〇〇 〇〇	古今書院	月五	▲下巻は九州地方、臺灣地方、北海道地方、樺太地方外二章を収む。

柴田親雄	最新簡明日本地理	洋四六 布入判	一、〇〇 〇〇	健文社	月二	▲各編各章の終に重要参考問題を掲げ複雑なる地理的事情を簡明に記載せる参考書。
山本熊太郎	地理區に日本の地理	布四六 裝入判	一、〇〇 〇〇	古今書院	月二十	▲地理區を設定せる綜合的の地理教材を披瀝せるもので、樺太地方外九章。
堀江賢二	東京府地誌	洋四六 布入判	一、〇〇 〇〇	古今書院	月十	▲東京府の陸地部に就いて記載せるもので、概説、大東京地誌外一編。
三島政行編述	東京地誌葛西	洋四六 布入判	一、〇〇 〇〇	地誌刊行會	月三	▲第二巻は葛西志卷之十二より卷之十九までを収めたもの。
三島政行編述	東京地誌葛西	洋四六 布入判	一、〇〇 〇〇	地誌刊行會	月七	▲三島政行氏が編纂した「葛西志」の復刻で、卷之二十より始る。
渡邊重春	豊前志	洋四六 布入判	一、〇〇 〇〇	地誌刊行會	月十	▲總論、田川郡、企救郡、京都郡、仲津郡、築城郡外四卷より成る。
唐橋世濟	豊後志	洋四六 布入判	一、〇〇 〇〇	地誌刊行會	月五	▲「豊後國志」の復刻及び「簡釋豊後風土記」を附載す。
藤田元春	國民世界地理	洋四六 布入判	一、〇〇 〇〇	富山房	月九	▲下巻はヨーロッパ北アメリカ洲、南アメリカ洲の三篇。
野口保興	世界經濟地理	洋四六 布入判	一、〇〇 〇〇	A C M 蘆	月五	▲經濟地理の本領及生業と環境の關係、農業及工業に關する事項に就て詳説。
西田卯八	世界文化の地理的研究	洋四六 布入判	一、〇〇 〇〇	地誌刊行會	月五	▲世界文化の總てが地理的原因に依つて其結果を生じたことを論述せるもの。
帷子二郎	世界地理	洋四六 布入判	一、〇〇 〇〇	古今書院	月六	▲西ヨーロッパ及中央ヨーロッパに就て述べた書。附索引。
佐藤弘	綜合歐羅巴地誌	洋四六 布入判	一、〇〇 〇〇	共立社	月二	▲歐羅巴洲位置並びに一般構成、内部組織並びに表面構成外五章にて論述。

地理参考書

香川 幹一	三省堂編輯所編	浅井 治平	北村 實	鐵道省	名古屋新聞社編	網島 定治	交通協會編	ビュローロイスト編	鐵道省運輸局	日本旅行會編
文檢地理科短期受驗法	受驗本位の日本地理	眼目を受驗學習外國地理	受驗主眼點をつかむ最新外國地理	日本案内	中部日本大觀	ワボク大東京案内	交通大東京地典	旅程と費用概算	日本名所集	日本名勝旅行辭典
洋四六判	洋三六判	洋四六判	上四六判	布四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	布三六判	布三六判	布三六判
310	396	402	424	454	172	575	704	640	200	107
一、八〇	一、三〇	一、三〇	一、五〇	二、〇〇	一、三〇	一、五〇	二、九〇	一、三〇	二、三〇	一、五〇
大明堂	三省堂	東京開成館	文啓社	博文館	新名古屋	竹田弘文堂	交通協會	博文館	協本會	日本旅行會
五月	六月	七月	五月	五月	六月	六月	六月	七月	二月	七月
▲地理科受驗の豫備知識、文檢地理科の研究範圍外三章にて論述。	▲人文事項に重きを置いて詳解を施せるもので、地方誌其他。	▲諸種の經濟狀態並に各國の現狀を懇切に解説した學習受驗參考書。	▲新制度に依る外國地理の參考書。	▲静岡愛知岐阜山梨長野福井石川富山新潟及び三重滋賀の一部に及べる案内記。	▲大名古屋を中心としてその周圍をめぐる中部日本の現狀を紹介せるもの。	▲大東京を一万分一乃至二萬分一に縮圖して精密な地番を挿入し案内記及索引を附す。	▲大東京十五區八十四ヶ町村番地と全交通機關との聯絡を瞭然とせる地典。	▲汽車汽船發着時間賃金自動車並旅館宿泊料其他の費用を概算せる案内書。	▲停車場及び鐵道沿線設置の名所案内標記載事項を収録し名所地への交通狀態を摘記。	▲日本全國の温泉山岳河川溪谷名勝古蹟其他を五十音順に排列し諸多の必要事項を説く。

山岳案内・紀行

冠松次郎	麻生武治	各務良幸	吉原良三	鳥屋政一	北尾録之助	鐵道省	鐵道省運輸局	岸本水府	河口由次	共同研究會編	大阪市教育會編	三行案内	三行案内
日本アルプス大觀	山岳	大觀	探勝趣味の旅	箱根と日光	近畿	温泉案内	スキ	京阪神盛り場風景	西旅日記	新近畿行脚	近畿關西旅行案内	關東東北旅行案内	關東東北旅行案内
八寸五分判	四六倍判	四六倍判	洋四六判	上四六判	上四六判	布三六判	並四六判	並三六判	並四六判	布三六判	布三六判	二折六式判	二折六式判
87	112	112	408	208	326	688	38	105	154	882	48	48	48
三、七〇	二、八〇	二、八〇	一、八〇	一、三〇	一、二〇	一、三〇	二、三〇	二、〇〇	八、五〇	一、四〇	二、五〇	二、三〇	二、三〇
木星社	木星社	木星社	康文社	大阪出版社	創元社	博文館	行日協本會	誠文堂	開隆堂	創元社	三省堂	三省堂	三省堂
六月	二月	二月	五月	九月	一月	四月	一月	四月	五月	十一月	九月	九月	九月
▲黒部峡谷を中心とした立山々脈、後立山々脈の山岳と溪谷の寫眞集。別冊解説。	▲日本アルプス、歐洲アルプス、ヒマラヤ等の寫眞五十六種に解説を収めた書。	▲主として大和河内に屬する土地の紀行で、現代大和風景、法隆寺晚景、紀見峠外甘篇。	▲時世の觀察と史論に重きを置き隨所に漫畫漫文を配せる箱根と日光の紀行文集。	▲著者が親しく足跡を印した旅行記で、東海道五十三次草鞋の旅外廿六篇。	▲日本に於ける温泉を鐵道線路別に網羅排列せる案内書。	▲全國主要スキー地の案内書にして尙スケートの適地をも附記せり。	▲大阪、京都、神戸の盛り場を網羅してその風景を描けるもの。	▲名所舊跡案内、感想録、ノート、スタンプ帖等を兼ねた關西案内書。	▲大関を中心にして阪神沿線に記述し順次右廻りに各郊外電鐵の線路沿線別に記述す。	▲名所舊跡案内、感想録、ノート、スタンプ帖等を兼ねた關西案内書。	▲大関を中心にして阪神沿線に記述し順次右廻りに各郊外電鐵の線路沿線別に記述す。	▲大関を中心にして阪神沿線に記述し順次右廻りに各郊外電鐵の線路沿線別に記述す。	▲大関を中心にして阪神沿線に記述し順次右廻りに各郊外電鐵の線路沿線別に記述す。

地理・紀行(山岳案内・紀行)

冠松次郎	後立山連峯	布四六	434	二、三〇	第一書房	月六	▲黒部流域を中心とする後立山連峯の記録で、後立山連嶺概観其他。
熊澤正夫	上高地	洋四六	290	二、三〇	刀江書院	月六	▲登山の中心として又優秀なキャンプ地としての上高地に就て述べたもの。
平賀文男	南アルプスと其溪谷	洋三五	266	一、六〇	朋文堂	月六	▲山岳登山口登山道行程の個々に亘つて其の概要を記載せる南アルプスと其溪谷案内書。
山形縣山林會	南アルプスと奥秩父	洋四六	321	二、三〇	改造社	月七	▲甲斐の諸高山に對し日本山岳登山概史外十五事項より成る調査考證を編めるもの。
小松榮	富士とアルプス	布四六	177	一、三〇	白林社	月六	▲山の詩、山の科學及び高山の特異なる動植物その他に解説を加へたものを集録。
松尾秀一	武蔵アルプス	並四六	134	六、五〇	隣人之友社	月十	▲熊に會つた話、鹽谷の思ひ出、高尾山から和田峠、大丹波川紀行外八篇。
菅沼達太郎	東京近郊の山と溪谷	洋四六	336	一、五〇	大村書店	月十	▲近郊の登山準備に就て、桂川の北、大菩薩連嶺其他より成る案内書。
河畑棟材	東京附近の山々	洋三六	284	一、六〇	朋文堂	月六	▲東京附近の山々に就ての時間記録と費用概算を示せるもの。
河畑棟材	奥秩父と其附近	洋三六	269	一、六〇	朋文堂	月八	▲奥秩父と其附近の山々に遊ぶ人の爲めに要する費用の概算及所要時間を算出せる書。
角田吉夫	越國境	洋四六	337	二、四〇	大村書店	月九	▲上越國境及び其附近の山岳に關する案内と紀行を収めたもの。
田部重治	と高原	洋四六	246	一、三〇	大村書店	月七	▲時や高原を中心とする紀行及山に關する隨筆集で、秩父を憶ふ其他。
東京帝國大學	劍澤に逝ける人	洋四六	193	二、一〇	梓書房	月一	▲窪田田部松平土屋及び案内者福松兵次六氏の劍澤小屋遭難の記録と遺稿を収む。
大泉黒石	と峽谷	洋四六	256	二、五〇	二松堂	月五	▲峽谷の大觀、吾妻峯谷、千曲川、鬼怒峽谷、荒川峯谷外十七篇。

地理・紀行(山岳案内・紀行)

池田博	山へ溪谷へ	洋四六	449	二、三〇	健文社	月七	▲日本アルプスの山や谷に就ての案内書で、大町より入る溪谷と山其他。
河田植	山に	洋四六	285	一、八〇	山と溪谷社	月四	▲河田氏の山旅の記録で、天城の東端、大岳山の思出と宿帳其他。
横井春野	一日二日の山の旅して	洋四六	193	一、二〇	人文書房	月七	▲東都近傍の山々に關する紀行集で、奥多摩溪谷、北日本アルプス其他。
金星堂編	登山・キャンプ適地案内	上四六	263	一、〇〇	金星堂	月六	▲登山、キャンプ地としての適地を紹介せるもので、東海道沿線其他。
三輪武五郎	登山とキャンプ	洋四六	360	二、一〇	刀江書院	月七	▲登山とキャンプの方法を具體的に述べて、新らしき登山家の便益とせる書。
黒田初子	山之素描	並四六	270	一、五〇	山と溪谷社	月十	▲登山に就ての注意、準備を説き東海道、房總方面其他の山岳を紹介せる書。
黒田初子	山之素描	並四六	270	一、五〇	山と溪谷社	月十	▲山の素描及び山の紀行集で、元且槍岳に登る霧ヶ峰と美ヶ原其他。
納富重雄	山の鍵	洋三六	212	六、八〇	古今書院	月六	▲登山の第一厄は天候變、登山の第二厄は風外四篇にて登山者の心得を説述。
日本山岳研究會編	山の日記	洋四六	370	一、〇〇	日本山岳會	月五	▲登山経歴、自由日記、登山の注意、高山植物採取規定其他を収めた日記。
朋文堂編	山の手帳	洋四六	228	四、四〇	朋文堂	月七	▲登山の注意、登山携帶品目録、高山植物園譜、日記欄其他より成る山の手帳。
日本山岳研究會編	登山の日記	布四六	275	五、三〇	大文館	月七	▲山の寫眞、登山の準備、キャンプの仕方、登山紀行文其他を収めた登山日記。
吉田博	高山の美を語る	並四六	204	一、三〇	日實業社	月六	▲美的方面から觀た山の美に就て述べたもので、日本篇、外國篇の二篇。
大木篤夫	西蔵を越えて	上四六	366	一、五〇	博文館	月六	▲エグエレスト探險記録で、山の挑戦、第一回探險と登攀外一部。

滿蒙支那案内・紀行

藤田信道 譯著 ヒマラヤ處女峰登攀史	木下 糾 米國アルプス踏破記	中村 秋季 米國本土ホイットネ征服記	山と溪谷社編 一九三二年度アルペンカレンダー	今村 忠助 滿	玉井 莊雲 内外蒙古の横顔	胡沙 征人 謎の國外蒙古	滿鐵地質調査所 滿洲地及接續地形圖	中溝新一編 趣味の滿洲	中日文化協會編 滿蒙風景寫真帳	石田 吟松 滿洲畫帖	佐倉 豚二 麗色極東地帯
布判 272	洋四六 布判 213	洋四六 布判 174	並菊 製判 54	洋四六 布判 175	布四六 裝入判 312	布四六 裝入判 471	尺三 寸八 寸四 尺四 寸八	上新 菊 製判 228	横菊 製判 37枚	二帳油 粘入珍 製判 356	並四六 製判 135
二、〇〇	二、五〇	一、五〇	一、三〇	六〇	二、八〇	一、六〇	二、〇〇	一、四〇	六、五〇	二、〇〇	一、七〇
山と溪谷社	世界堂	新生堂	山と溪谷社	カオリ社	海外社	赤爐閣	滿鐵	化中協日會文	化中協日會文	化中協日會文	大阪屋號
月六	月七	月九	月二十	月一十	月七	月六	月三	月一	月九	月十	月二
▲ウエツターホルンの初登攀、マツターホルンフルツケン山腹外十一篇。	▲水河の靈峯、靈爾亞の絶頂、加奈陀落機山の週間外三篇。圖版九十九圖。	▲アメリカアルプスと言はれるマウント、ホイットネの征服記で、麓迄外三篇。	▲北は千島のアライト鳥より南は臺灣新高山に至る本邦最初の日本山岳カレンダー。	▲朝鮮篇、滿洲篇、支那篇、蒙古篇、滿洲里等に分け寫眞を載せて紹介した書。	▲蒙古紀行記で、バインタラ出發以下三十二項より成る。	▲外蒙古の探検書で、命懸けの庫倫潜入、國民黨の反亂外十八篇。	▲滿洲を中心として朝鮮、北支、蒙古、露領沿海、黑龍州に亘る地形圖。	▲これまでに滿洲に遊ばれし知名士の發表せられし文章、詩歌を集めたものである。	▲滿蒙の風景をグラビヤ印刷したものである。	▲筆者のスケッチを縮寫彩色印刷せる畫帖にて滿洲彩々、滿洲處々の二部より成る。	▲ハルビンを舞臺としての物語を収めたもので、露領娘子軍裏話外十二篇。

植民地案内・紀行

菅野 秀雄 農務労働南洋ダバオ案内	杉田 祥夫 大南洋へ	島崎 新太郎 南洋へ！ 一、飛鳥を踏破して！	有吉 明 南米事情	石川 達三 最近南米往來記	野田 良治 南米の核心に奮闘せる同胞を訪ねて
並四六 製判 187	並四六 製判 366	並四六 製判 333	並四六 製判 49	上菊 製入判 211	洋四六 布入判 422
一、〇〇	一、五〇	一、五〇	二、五〇	一、五〇	一、三〇
日實業社	大倉廣文堂	新時代社	育社協會	昭文閣	博文館
月三	月九	月四	月二	月二	月一十
▲最近のフイリツピン・ダバオの事情を詳細に紹介せるもの。	▲南洋の眞事情に關する知識を述べたもので南洋の展望、英領南洋の現勢外十八篇。	▲見聞した有りのまゝの南洋を詳細に敘述せるもので、南へ！南へ！外四篇。	▲ブラジルの話(有吉明)アルゼンチンの話(内山岩太郎)の二篇を収む。	▲神戸を出るまで、南米の迷兒、聖市夜情外五十一篇にて南半球の眞實を述べ。	▲前篇にてアマゾンヤを概説し後篇にて民族發展の基礎を築ける同胞の奮闘振りを述べ。

有川 貞雄	ブラジルへ行け	並四六製判	434	一、五〇八	文化書房	月六	▲ブラジルの国情及び我が移民の實際の状況を詳述せる書で、日本民族の移住性外八章。▲第一篇アマゾンの巻第二篇東海岸の巻第三篇西海岸の巻第四篇パナマより本國へ。
石原喜久太郎	南米紀行	洋四六布入判	450	一、八〇四	博文館	月一十	
新津 米造	あへぐ 歐米	上四六製入判	327	一、二五〇	雄文閣	月八	▲歐米滞在中の著者の見聞録で、ジョンブルの裸像、獨逸の印象外三篇。
浅野 研眞	ヨーロッパ新風景	並四六製判	418	一、二五〇	正和堂	月二	▲浅野氏の異國巡禮の記録で、ヨーロッパの道、フランス雜記外一部。
井上 越	印祖國を出て	布四六製入判	768	五、五〇二	明治圖書	月五	▲祖國を出て、英國の秋、巴里物語、瑞西の山水、南歐紀行外四篇。
外山 福男	遊記 自治と産業	洋四六布入判	390	一、五〇二	二松堂	月二	▲自治、教育、産業等を中心とせる歐米視察記で、日本からマルセイユへ外十七篇。
三浦 耀	建築・風景	並四六製判	256	一、二〇八	岩波書店	月九	▲獨逸の新建築を見る、伊太利雜記、北歐風景、除夜の伯林より外三篇。
長田 新	獨逸だよ	上四六製入判	237	一、二〇二	目黒書店	月四	▲フレibel遺跡巡り、鐘の音と説教、獨逸精神の片影外十九篇より成る獨逸印象記。
勝本清一郎	赤色戦線を行く	並四六製判	372	一、〇〇八	新潮社	月一	▲ウラザオと豚、第二の赤都から其他マルク主義者勝本氏の海外旅行記滞在記十一篇。
中條百合子	新しきシベリアを横切る	並四六製判	334	一、三〇八	内外社	月二	▲モスクワ印象記、赤い貨車、モスクワの辻馬車、スモリヌイに纏る赤旗三篇。
藤田 敏郎	海外在勤四半世紀の回顧	洋四六布入判	304	二、〇〇二	教文館	月九	▲海外在勤各地に於て偶發したる事實を蒐録せるもので、孔雀の輸送法其他。
占部百太郎	聖地紀行	上四六製入判	167	一、二〇二	大同山書店	月五	▲著者の「聖地」を中心とした地中海沿岸各地旅行の記事を収めたもの。

小山 莊一郎	猛獸境探検記	布四六製判	451	一、〇〇〇	講談社	月九	▲印度叢林に猛獸を生捕る、人外の魔境アマゾン外三篇より成る猛獸探検記。
バツクスリ著	魔術國	上四六製判	379	一、五〇八	博文館	月七	▲人跡未踏の原始境中央亞米利加マヤに就ての覺え書で、新らしい土地で外十六章。
レストロン著	サマルカンドの赤い星	上四六製判	387	一、五〇八	博文館	月六	▲トルキスタン地方の紀行譯で、鐵路トルキスタンへ、棉花帝國外四章。
大木篤夫著	南支那の彩帆隊	上四六製判	400	一、五〇八	博文館	月六	▲米國新聞雜誌團から派遣された冒険記者リナスの體験記。
大木篤夫著	千夜一夜の國へ	上四六製判	384	一、五〇八	博文館	月六	▲アラビアンナイトの國の獵奇行で、ベズイン人に交つて其他。
大木篤夫著	赤道直下の寒帯	上四六製判	395	一、五〇八	博文館	月七	▲ムーン山の境奥に怪歌奇鳥珍樹を獵し原始的生活を蠻人と共にした著者の冒険日記。
西田與四郎編	世界地理圖集	洋四六布入判	216	三、〇〇〇	東洋圖書株式會社	月五	▲亞細亞篇、歐羅巴篇、大洋洲、阿弗利加、亞米利加篇の三篇に分け收めた地圖集。
西龜正夫	農業地理學	洋四六布入判	379	三、一〇〇	古今書院	月五	▲農業と環境との關係の理論と實際に就て論述せるもので、農業の要素外五章。
北村 實	主眼點をつかむ 最新外國地理	洋四六布入判	366	一、五〇六	文啓社	月五	▲新たに制定された文部省の教授要目に準據して説述せる参考書で、世界外七編。
安東 義喬	往新拓入アルゼンチン	並四六製判	79	四、〇〇〇	海外社	月五	▲亞國の情勢を説き邦人の投資入植より教養機關の設置を提唱せるもの。

◇新刊二種◇

イェリネツク 一般國家學 第一卷

早稲田大學 講師 大西邦敏
政治學士 水垣進 共譯
菊版上製箱入二四〇頁
定價貳圓・送料廿四錢

我が公法學界に於て、殆んどの研究者が、其の指針として熟讀の必要を持つ「Tallinek Allgemeine Staatslehre」は、斯學の權威たる中野教授指導の下に早稲田大學に於て研究せられたる。ある兩氏の手に依り、時間と努力とを各ます譯出せられ、茲に公刊せられるに至つたのである。本書は原著者の名辭名句を巧みに邦語に譯出し、原著書を離れて一讀イェリネツクの斯學に於ける偉大なる業績を知ると共に、又我學界の全面を會得し得るのである。唯一般學生に對してのみならず、我憲法學、政治學の文獻に満足し得ない一般の識者に對しても亦、本書の寄與する所は大なる可しと信じ敢へて江湖に推薦する次第である。

中央大學 講師 大野信三 著

菊版上製箱入頁五〇〇頁
定價金參圓五拾錢・送料廿四錢

經濟科學原論

九、政治・社會

(A) 政治・軍事

著者	書名	装帧體數	定價送料	發行所	月行發	內容大意
政治學博士 五來	欣造 現代の政治	洋函四六 布入判	一、三〇	社會書房	月六	▲政治とは何か、社會、國家、皇室、代議政體、政黨外四章にて論述。
喜多壯一郎	街頭政治學	洋函四六 布入判	一、〇〇	木村書房	月一十	▲政治現象の一切を大正、昭和へかけて述べたもので、大正政變の序幕其他。
藤井新一	社會的 政治學論評	洋函四六 布入判	四、一〇	新晃社	月五	▲政治を社會學的に觀則批判せるもので、社會學的國家理論と其批判外四編。
山本宣治	山本宣治全集(8) 政治論文集	洋函四六 布入判	一、〇〇	ロゴス書院	月三	▲議會闘争篇、政治闘争篇、雜篇に分けて廿六篇を収めた論文集。普及版。
佐々弘雄	政治の貧困	布四六 裝判	一、五〇	千倉書房	月二	▲政治の貧困、政治理論、政治の實際等三篇にて論述。
竹下文隆	民衆の政治批判	並四六 裝判	六〇	巖松堂	月三	▲政治の概念、民主政治の障礙、政黨の政策的對立外十九章にて論述。

政治・社會(政治一般)

四一七

四一六

發行所 東京 牛代 早稲田 敬文堂書店 電話 五三七五

政治・社會(政治一般)

明大學會編	高木八尺	葛岡常治	内田宗一	内田久郎	山田徹	近藤榮藏	森喜一	尾崎行雄	高須芳次郎	徳富猪一郎	中山忠直	里見岸雄
明治大學創立五十年記念論文集	米國政治史序説	勞働黨内紛と英國政變	帝國主義	帝國主義發達史論	帝國主義の没落	帝國主義とは何か	日本金融資本政治の解剖	日本は何うなる?	日本は世界を征服せん	現代日本と世界の動き	日本人の偉さの研究	日本興廢の前夜
洋装六	洋装六	洋装六	洋装六	洋装六	洋装六	洋装六	洋装六	洋装六	洋装六	洋装六	洋装六	洋装六
385	469	34	252	285	232	104	315	45	275	404	344	128
三、五	四、八	二、五	六、三	六、三	一、二〇	六、三	一、〇〇	二、五	一、三	二、〇	一、八〇	四、〇
明大學會	有斐閣	育社	改造社	改造社	東堂書店	無産社	白揚社	東亞振興會	先進社	民友社	先進社	春秋社
月一十	月七	月十	月一	月一	月二	月六	月四	月七	月二	月五	月九	月一十
▲國民經濟と世界經濟(河津暹)ハレー教授の價值論に就て(栗原信一)外七篇。	▲北米に於ける植民地の起源及特質、革命前に於ける北米英國植民地の状態外二章。	▲勞働黨の内紛を中心として觀察せるもので英國共産黨、獨立勞働黨外三章。	▲生産の集中と獨占、金融資本と金融寡頭支配、帝國主義の批判外七章。	▲帝國主義の經濟學、イギリスの擴大、ドイツの擴大、フランスの擴大外八章及附録。	▲征服と開拓、帝國主義國家の循環、帝國主義國家の没落の三編にて論述。	▲日本に對する材料を基礎として編まれた帝國主義に對する解説書。	▲日本金融寡頭政治への諸過程、日本金融寡頭政治への現段階の二篇にて論述。	▲獨露の興亡と我が國との對比、根本的に誤つて居る教育制度外十七篇。	▲日本對世界、粗上に載せた現代西歐文明、アメリカの將來は悲觀か樂觀か外七章。	▲世界の動きと維新史の教訓、大和民族の天職、人間本位と人物本位外講演筆記十篇。	▲日本人の科學的才能は世界一、日本人はなぜ強くて利巧か外三章。	▲餓死せんとする日本、間違ひだらけの建直し運動、悲境打開の根本原理外三章。

政治・社會(政治一般)

大谷隼人	菊池彌三郎	中野正剛	大塚小一郎	志村榮太郎	竹越與三郎	室伏高信	箕浦春浪	朝日新聞社編	友枝高彦	森本厚吉	久原房之助	田所輝明
日本の危機	天皇と新日本建設	沈滯日本の更生	更生日本を描く	世界の動きと日本精神の進展	明日はどうなる	新日本パンフレット(一)	破産か建設か大衆よ何處へ行く	朝日新聞社編	公民の知識	公民の知識	久原一家言	政治演説辭典
洋装六	洋装六	洋装六	洋装六	洋装六	洋装六	洋装六	洋装六	洋装六	洋装六	洋装六	洋装六	洋装六
231	252	118	222	456	276	98	202	360	156	294	50	216
一、三	一、〇	四、〇	三、〇	一、八〇	一、八〇	三、〇	六、〇	一、〇〇	四、五	一、五〇	四、〇	四、〇
森山書店	日本書院	千倉書房	誠文堂	關東出版社	平凡社	夜明け社	刷新社	朝日新聞社	普青年教育會	四條書房	富山房	白揚社
月二十	月九	月七	月六	月二十	月二十	月二十	月六	月八	月一十	月一十	月五	月八
▲日本民族生存の危機と根本原因、日本の國是と其の國策外十章。追記滿洲事變。	▲國民悉く良政治家たれ、青年の理想政治、官尊民卑打破外三十六篇。	▲營利主義と政治意識、イデオロギイを確立せよ、農民生活の窮迫外十二篇。	▲地球上に起つた大渦、現代日本の行詰り、財界不況の六原因と五打開策外四章。	▲皇國の使命(小笠原長生)國防上より見たる帝國の海軍(佐藤鐵太郎)外八篇。	▲現代日本の姿、日本の再發見と奪還、私有財産は盗品なりや外十五篇。	▲どこへ行く、フアツシヨ化の世界、ヒットラーと國民社會主義外二章。	▲維新前後に於ける世界各國の變亂と我日本の歐洲進出外七部。	▲社會黨、憲政黨、自治黨、經濟黨、國際黨の五篇にて説述。索引!	▲社會一般論、皇位と皇室、我が國の歴史、政治と道徳、其他四章。	▲公民の新知識としての講義及講演を蒐集せるもので、學問の實際化(若槻禮次郎)其他。	▲日本趣味の提唱と産業新制度案、ものとはなにか外一篇。	▲有産階級の政治と政治機構を對象とした總論及露露資料からなる各論十四篇を収む。

政治・社會(行政)

來間 恭	馬場 恒吾	濱田 紫山	伊豆 富人	北條爲之助編	朝日新聞社編	近江 哲藏	肥田 理吉述
日本政黨暗闘史	政界人物風景	濱口内閣を中心として	安達さんの心境を語る	更生濱口首相	朝日民衆講座(25) 打開の途を討ねて	満天下を震撼せしめたる 鐵道省減俸大騒動の真相	朝鮮疑獄の審かれる迄
洋四六 製判	洋四六 製判	洋四六 製判	洋四六 製判	洋四六 製判	洋四六 製判	洋四六 製判	洋四六 製判
297	532	234	73	216	126	149	255
一、三〇	一、五〇	一、八〇	四、三〇	六、五〇	二、三〇	四、三〇	一、〇〇
天人社	中央公論社	改進社	千倉書房	大成通信社	朝日新聞社	カオリ社	山東社
月一	月六	月三	月二十	月三	月六	月六	月四
▲黨人暗闘のさまじくを描ける政黨裏面史で國會開設まで、大隈板垣の争ひ外六篇。	▲第二次若槻内閣論、樞密院の清算、濱口雄幸と其内閣外廿二篇。	▲首相の遺難、民政黨を中心として、婦人參政權問題、道路と交通外十章。	▲老政治家の心境、協力内閣の論議、何が安達を躍らせたか外五篇。	▲兎漢に狙撃されてよりの濱口首相が更生に至るまでを述べたもの。	▲五月十五日及六月二日の二回朝日新聞社主催で開いた行財政整理座談會速記の概要。	▲濱口内閣減俸案の經過外廿章にて鐵道省減俸大騒動の真相を暴露せるもの。	▲山梨事件の立者肥田氏が政界の裏面を物語つたもので、政權奪取行進曲其他。

政治・社會(國際・外交)

自治研究同人	警察研究同人	高橋 雄	松原 一雄	内藤 智秀	齋藤 良衛	松原 一雄	青木 節一	本多 熊太郎	社會教育協會編	外務省情報部編	外務省情報部編
自治研究 全集第七卷	警察研究 第二卷	警邏勤務論	國際問題	最近の歐米國際關係	最近支那國際關係	國際關係通鑑	國際聯盟	國際聯盟軍縮本會議と日本	國際聯盟と滿洲事變	國際聯盟概説	國際事情
洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判
1740	1560	150	214	89	233	426	294	57	41	128	611
六、三〇	五、六〇	一、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	二、〇〇	六、〇〇	四、〇〇	二、五〇	二、〇〇	三、〇〇
良書普及會	良書普及會	良書普及會	雄風館	東洋圖書株式會社	式合資會社	盟國協會	盟國協會	朝日新聞社	外交時報社	社會教育協會	國際協會
月二十	月二十	月八	月二	月二十	月二十	月六	月一十	月九	月二十	月一	月二十
▲地方自治行政に關する法理及事務の實際を檢討考査せる自治研究の昭和六年度。	▲警察行政及事務に關する法理並に取扱の實際を檢討考査せる研究の昭和六年度。	▲概念—意義—巡行、觀察、判斷、執行、報告—勤務位置—機能—犯罪防止—民衆の保護等。	▲國民一般の關心事たる國際問題に就て論述せるもので、外交の軌道外七篇。	▲一九二七年より三一年に至る迄の國際關係について述べた書で、イギリス關係外七章。	▲國民革命進行中の民族運動と國際關係、北伐完成後の國際關係外一章。	▲日本を中心として、支那を中心として、國際聯盟を中心として外二篇。	▲國際聯盟の組織、國際法の發達、軍備縮小問題、政治的紛争の處理外十六章。附四章。	▲國際聯盟と軍縮の關係、主要別國の態度、軍縮本會議の展望外二篇。	▲國際聯盟の組織と機能(山川端夫)日支問題と聯盟理事會の經過(松田道一)外一篇。	▲聯盟規約の解析、聯盟の組織及活動、司法裁判所、労働機關、附録—國際聯盟規約。	▲最近の國際事情二十四題目を掲載す。

政治・社會(支那事情・滿蒙問題)

國際聯盟事務局編	本多熊太郎	米田實	小室誠	林勇	渡邊新五郎譯	松原一雄	ヤドクリ著	大阪毎日新聞社譯	アストン著	隅井幸次譯	ベセドフスキー著	東城亨譯	ガビツト著	安藤明道譯										
聯盟政治と現勢	世界の動きと日本の立場	現代の外交と國際關係	幣原外交の本質暴露	支那人の外交秘史	外交及外交史研究	ブラツク・チエンパ	英國の機密室	日本をスパイにする	阿片問題	支那の軍事情	支那の社會主義	支那の起ちあがる	支那問題講話	支那問題講話										
洋函編	並四六	洋函編	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六										
布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判										
430	146	317	327	164	222	790	466	304	352	332	193	153	205	126										
三、五〇	四三〇	二二〇	一、五〇	四三〇	一、五〇	五、三〇	一、〇〇	一、〇〇	一、五〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇										
巖松堂	千倉書房	朝日新聞社	社會書房	山洲堂	先進社	丸善社株	大阪毎日社	社會書房	萬里閣	日本評論社	大同館	三省堂	新潮社	科學研究社										
月二	月九	月三	月六	月十	月一十	月二十	月八	月一十	月五	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十										
▲國際聯盟創立以來の事業の記録で、國際紛争の處理外十三章。附現行國際聯盟規約。	▲歐洲大戰の由來と其の眞意義、國際聯盟の本質、日本特殊の環境外四篇。附録二篇。	▲太平洋に於ける主要な諸問題を検討せるもので、太平洋の形勢外二章。	▲外交及び國際關係に就て叙述せるもので、現代外交の特徴外七章。	▲幣原外交に禍せらるゝ日本、華府會議前に於ける幣原大使の大失敗外七十三篇。	▲元明以前の中日外交、五四以前の中日外交五四以後の中日外交外一章。	▲滿蒙昨今の時局は外交史實の重要性を自ら語る。	▲米國はいかにして外交秘電を盗んだかを物語つたもの。	▲歐洲大戰中の著名な二三の出来事を主としてそれに關聯せるアストン卿の秘密勤務を描述	▲ソヴエイトのベセドフスキー代理公使が東京へ轉任してから大使館を脱走する迄の實録	▲阿片問題が國際的に何んな現状にあるかを説けるもので、阿片史瞥見外八章。	▲支那の現在に就て論述せるもので、支那と環境、舊政治の崩壊外八章。	▲支那を知る上に於て必要なる一般軍情に就て述べたもので、軍隊の沿革外廿二章。	▲支那國民性無理解の實情、排日宣傳の裏に動く國情、滿洲獨立國承認の名案外十七章。	▲一九二五年より一九二九年迄の黨生活の歴史と反對派の誤算の總覽。	▲支那革命及び孫文主義に就て究明せるもので、孫文自叙傳、支那革命史其他。	▲支那の社會組織を通俗的に説けるもので、支那人とは何ぞや外七篇。	▲支那の現代文明とその方向及び日本の立場に就て論述せるもので、新支那風景外五篇。	▲支那問題に關する體系的な解説書で、支那革命の歴史外十篇。	▲政治、外交、經濟其他の各方面から支那及び支那人の正體を解剖せるもの。	▲脱線せる日支關係、滿蒙問題、滿蒙開發の業績、日本人に對する苦言外六篇。	▲現在支那が國民教育に使用して居る教科書中より排日記事を選びて翻譯せるもの。	▲現在支那が國民教育に使用して居る教科書中より排日記事を選びて翻譯せるもの。	▲軍事行動を中心としたる報導宣傳、國際聯盟及び外國輿論に關する報導宣傳外五篇。	▲滿洲事變其他に對する對支關係の如何なるものであるかを平易に説述す。

政治・社會(支那事情・滿蒙問題)

多賀宗之	後藤朝太郎	日刊大衆新聞編	武田照	山口高爾教授	西山榮久	室伏高信	プロレタリア科學研究所	長野朗	佐藤安之助	保々隆矣監修	東亞經濟調査局編	大泉忠敬編著	大泉忠敬編著	經大對支聯盟
支那の軍事情	支那の民情	支那の社會主義	支那の起ちあがる	支那問題講話	支那問題講話	支那問題講話	支那問題講話	支那問題講話	支那問題講話	支那問題講話	支那問題講話	支那問題講話	支那問題講話	支那問題講話
並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六
布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判
136	103	181	442	101	340	298	296	126	205	153	193	53	53	53
四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇
兵林館	千倉書房	大衆新聞社	大同館	三省堂	新潮社	科學研究社	千倉書房	日本評論社	邦文社	東亞經濟局	先進社	先進社	先進社	先進社
月九	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十
▲支那を知る上に於て必要なる一般軍情に就て述べたもので、軍隊の沿革外廿二章。	▲支那國民性無理解の實情、排日宣傳の裏に動く國情、滿洲獨立國承認の名案外十七章。	▲一九二五年より一九二九年迄の黨生活の歴史と反對派の誤算の總覽。	▲支那革命及び孫文主義に就て究明せるもので、孫文自叙傳、支那革命史其他。	▲支那の社會組織を通俗的に説けるもので、支那人とは何ぞや外七篇。	▲支那の現代文明とその方向及び日本の立場に就て論述せるもので、新支那風景外五篇。	▲支那問題に關する體系的な解説書で、支那革命の歴史外十篇。	▲政治、外交、經濟其他の各方面から支那及び支那人の正體を解剖せるもの。	▲脱線せる日支關係、滿蒙問題、滿蒙開發の業績、日本人に對する苦言外六篇。	▲現在支那が國民教育に使用して居る教科書中より排日記事を選びて翻譯せるもの。	▲現在支那が國民教育に使用して居る教科書中より排日記事を選びて翻譯せるもの。	▲軍事行動を中心としたる報導宣傳、國際聯盟及び外國輿論に關する報導宣傳外五篇。	▲滿洲事變其他に對する對支關係の如何なるものであるかを平易に説述す。	▲滿洲事變其他に對する對支關係の如何なるものであるかを平易に説述す。	▲滿洲事變其他に對する對支關係の如何なるものであるかを平易に説述す。

政治・社會(支那事情・滿蒙問題)

滿川龜太郎	東洋問題十八講	並四六製判	404	三、五〇	白鳳社	月二	▲奪回途上の亞細亞、米國獨立百五十年、黃白人種闘争の史的觀察外十五講。
大谷光瑞	支那事變と我國民之覺悟	並四六製判	144	三〇	東京支那社	月十	▲我權益は毀損され我國民は殺害さる、我權を抑服し我帝國の誠意を示せ外十講。
久保田覺己	對支時局論(パンフレット) 日本は何うすれば良いか	並四六製判	32	二〇	平野書房	月十	▲支那は滿蒙に於て領土權を主張し得る根拠ありや、支那から見た日本の國論外十二章。
黒龍會編	最新亞細亞大觀	洋函編布入判	732	六、〇〇	黒龍會	月二十	▲亞細亞各國の現勢を詳述せるもので、支那亞細亞露西亞外五章。
三浦悅郎	亞細亞の火藥庫	上四六製判	242	一、〇〇	先進社	月九	▲重大化しつつある滿蒙問題の實相と支那及ソ聯邦並に米國極東政策の内容を檢討す。
三浦悅郎	極東新時局	並四六製判	281	六〇	日東書院	月二十	▲東洋永遠の炬火帝國の國是、山積せる滿蒙諸懸案の解剖外九章。
松岡洋右	東亞全局の動搖	並四六製判	149	四五	先進社	月九	▲序論、對露外交、對支外交、滿蒙問題、結言の五章にて論述。
中里介山	日本の一平民として支那及支那國民に與ふる書	並四六製判	106	四〇	春陽堂	月二十	▲日本の一平民としての著者が支那及び支那國民に就て痛論せる書。
松岡洋右	動く滿蒙	上四六製判	393	一、五〇	先進社	月七	▲動く滿蒙、滿蒙に對する認識と政策の確立外十二章。附録滿蒙に關する主要條約及契約。
長野朗	滿蒙の清算	並四六製判	101	四〇	千倉書房	月十	▲日本の生命線としての滿洲を縱横に解剖せる書、國民の生活と滿洲外三篇。
室伏高信	滿蒙論	並四六製判	164	四〇	夜明け社	月十	▲滿洲の印象、滿蒙は日本の人口問題を解決する外九章及附録。一發禁止。
木下猛	滿洲事變の正視	並四六製判	50	二二	育社協會	月十	▲所謂滿洲事變、滿洲事變の誘因、特殊權益の實體外二章。附録關係條約文抄。
松田雪堂	滿洲事變の真相	並四六製判	234	六五	文化書房	月二十	▲滿洲事變の真相、國際聯盟に於ける滿洲事變、事變直前の滿蒙財政外四篇。

政治・社會(支那事情・滿蒙問題)

細野繁勝	滿蒙の重大化と實力發動	並四六製判	221	五〇	巧藝社	月七	▲國際日本の正視、對支外交の退轉、死活線上の滿蒙外四章にて論述。
内藤隈南	滿蒙血の清算	並四六製判	133	四五	先進社	月十	▲滿蒙とは何ぞや、三度鮮血を以て清算せよ外三章。附録滿洲事變の概要。
長野朗	滿蒙併呑か獨立か?	並四六製判	111	四三	千倉書房	月十	▲滿蒙の古代に遡り近時の日米露支關係を述べ將來に於ける解決の大本を推論せるもの。
長野朗	滿蒙に於ける列強の侵略戦	並四六製判	136	四三	千倉書房	月十	▲滿蒙に於ける列強葛藤の中心たる鐵道問題の真相を論述せる書。
朝日新聞編輯部	滿蒙の諸問題	上四六製判	156	六〇	朝日新聞社	月五	▲滿蒙の地位と重大性、滿蒙に於ける我が國の特殊地位外六章。
佐々井一晁	滿蒙の經濟資源と我が權益	並四六製判	56	二〇	中央聯合會	月十	▲最近の正確なる資料に基づき、一々實例と數字を擧げて簡明直截に記述せるもの。
佐々井一晁	滿蒙問題の檢討	並四六製判	128	二五	中央聯合會	月十	▲我が特殊權益の由来より中華民國の權益蹂躪の實狀を述べ、今次の事變に及んである。
佐々井一晁	滿蒙問題と内外への警鐘	並四六製判	100	二〇	奉公會	月十	▲滿洲事變と善後所置其他二十六章にて事件の基礎知識を説く。
大井哲	滿蒙問題の解決	並四六製判	31	二〇	問題研究所	月十	▲國際聯盟を叱し英米の干渉を斥け我權益を擁護して滿蒙問題解決の途を提唱す。
拓殖大學教授	滿蒙特殊性の解剖	並四六製判	32	二〇	興亞閣	月十	▲滿蒙の特殊性を歴史的解剖的に研究したるもの。
村田正治	滿蒙と日本の將來	並四六製判	200	四〇	兵用圖書株式會社	月二十	▲滿蒙問題を著者は軍事上より見て現在並將來を解く。
阿部東光	遅かりし滿蒙天意必然	並四六製判	100	四〇	豫防時代社	月二十	▲帝國の活路は滿蒙にありと叫び、國民の蹶起を促した肉弾篇とも云ふべきもの。
内田良平	滿蒙の獨立と世界紅十字會の活動	並四六製判	135	六五	先進社	月二十	▲滿蒙獨立國建設の眞諦を論述せるもので、日支の共同國防と共存の基礎外三篇。

政治・社會(支那事情・滿蒙問題)

米野 豐實	新滿蒙國策の提唱 吹えん軍部	並四六製判	167	四〇	朝風社	月二十	▲光は大陸より、國際聯盟の再認識を要す、滿蒙は中華民國に非ず外十章。
橋 樸編	滿洲と日本	並四六製判	173	六〇	改造社	月二十	▲支那の展望、滿洲資本主義の發達段階、朝鮮人の生存權外十一章にて論述。
村田 正治	滿蒙と日本の將來	並四六製判	104	四〇	兵用圖書株式會社	月二十	▲滿蒙の權益、滿蒙を繞る列強の政策と其軍備、國際聯盟とは何ぞや外五章。
瀨原 三茂郎	滿洲十字軍を起せ	並四六製判	140	四〇	時事新報社	月二十	▲滿洲事變は何故起つたか、ジューネーヴを繞る外交戰、滿洲十字軍を起せ外四章。
佐藤 清勝	滿洲問題と我大陸政策	洋四六布判	335	一〇〇	春秋社	月二十	▲世界の將來、日本の將來、大陸政策の基調大陸經營外四章及び結論。
小片 中山	日本無難は滿蒙問題をどう見る	並四六製判	128	四〇	先進社	月二十	▲滿蒙は經濟的樂園である、民衆の敵張學良政權、國際經濟戰の動向は？外八篇。
梨本 祐淳	滿蒙重要懸案の解説	並四六製判	176	八〇	日本書院	月二十	▲滿蒙懸案に對する認識を新にせるもので、鐵道懸案交渉問題外十八篇。
佐田 弘治郎	吾人は滿蒙に發展し得ざるや	上四六製判	211	八〇	先進社	月二十	▲對滿蒙行詰打開案に就て論述せるもので、在滿邦人不振原因の檢討其他。
大谷 光瑞	吾が同胞に訴ふ	並四六製判	151	四〇	近代社	月二十	▲滿蒙問題と國民の覺悟(德富蘇峰) 國難に處して(大谷光瑞) 外二篇。
竹内 榮喜	箭は弦を放る	並四六製判	100	四〇	賢文館	月二十	▲滿蒙問題の根本の歴史より最近の錦州問題まで時局を解説、滿蒙鐵道大地圖を附す。
水鳥 莊介	滿洲事變早わかり	並四六製判	97	四〇	防帝協會	月二十	▲滿洲事變に於ける帝國の國防、軍備の概要其他を平易に述べたもの。
「つはもの」編	滿洲事變の生んだ美談 第一話	並四六製判	158	四〇	發行所の	月二十	▲滿洲事變が生んだ感激嘆賞に値すべき美談佳話を収録せるもの。
東亞經濟調查局	滿洲 讀本 昭和七年版	並四六製判	381	一〇〇	東亞經濟調查局	月二十	▲滿洲の展望、滿洲の支那人、滿洲の日本人産業界の現状外五篇。附滿洲關係特殊條約抄

政治・社會(列國事情)

中山 文化協會	滿蒙 年鑑 昭和七年版	並四六製判	536	一、五〇	中日協文會	月二十	▲地理、政治、經濟、交通、社會、藝術、スポーツ等一切を含み、滿蒙地圖を附録とす。
東亞經濟調查局編	MANCHURIA YEAR BOOK 1931. Second Report on Progress in Manchuria to 1931.	洋四六布判	347	六、〇〇	東亞經濟調查局	月二十	▲英文で書かれた滿洲の地理、歴史、經濟、政治、産業等全般に互る年鑑。
高 山 洋吉譯	世界政局の動き	並四六製判	132	四〇	希望閣	月一	▲「歐洲聯盟案(フリー)自由貿易より保護貿易(ヴァルガ)外四篇を譯述。
米 田 實	世界の大勢	洋四六布判	397	一、五〇	朝日新聞社	月三	▲世界の動きを知るや知らずや、米人と帝國主義の史實外二十章。
若槻 禮次郎	歐洲に使用して	洋四六布判	143	二、〇〇	日本書院	月四	▲國論を背後に歐洲に使用し、折衝の經過を列國全權が調印する迄の権柄折衝の經過を述ぶ。
新 明 正道	歐洲の危機	洋四六布判	445	二、〇〇	日本評論社	月五	▲危機に重疊されつゝあるヨーロッパ社會の現狀勢に就て論述せるもので、獨逸篇其他。
池 崎 忠孝	大英帝國日既に没す	並四六製判	302	一、五〇	先進堂	月三	▲大英帝國日既に没す、英米並び立たす外六篇。附録印度革命の歩みたる道。
早坂 二郎譯	英國の危機	上四六製判	311	一、八〇	先進社	月六	▲英國の事情を觀察せるもので、第十九世紀に於ける英國外二編。
室 伏 高信	フアツシヨ治下の伊太利	並四六製判	226	六〇	平凡社	月二十	▲フアツシヨ下の伊太利、フアツシヨの人口政策、伊太利における金融機關外十九章。
安 江 仙弘	革命運動を暴く ユダヤの地を踏みて	布四六製判	328	一、四〇	章華社	月二十	▲猶太の建國運動と猶太民族の狀態に就て述べたもので、猶太の地を踏みて外二篇。

政治・社会(勞農ロシア事情)

紀俊夫	鶴見祐輔	カイザリング著 伏高信譯	愛知謙三著	福永恭助
アメリカから来たレボ	現代米國論	綜合アメリカ論 アメリカの精神分析	アメリカ帝國	挑むアメリカ
並四六製判	布四六製判	上四六製判	洋四六製判	布四六製判
202	383	603	362	492
八〇	一、八〇	二、〇〇	二、三〇	二、〇〇
人格社	日本評論社	萬里閣	春陽堂	日本評論社
月五	月五	月二	月五	月五
▲現代アメリカとその思想及國民の實情に就て述べたもので、事業企業投資其他。	▲隣那米國の世相に就て述べたもので、經濟篇、政治篇外二篇。附録米國旅行心得。	▲繁榮アメリカの真相を解剖せるもので、アメリカに於ける自然と人生との交流外一編。	▲アメリカ合衆國の歴史的發展の跡を忌憚なく暴露せるもので、帝國の進路外十八篇。	▲用意周到に武裝された合衆國の正體、日米問題の經緯等を取扱つたもの。

勞農ロシア事情

高山洋吉著	ソヴェエト同盟の内外状態	モロトフ著	ソヴェエト同盟に於ける文化革命	モロトフ著	ソヴェエト同盟の内外状態
並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判
355	317	70	101	148	132
九〇	八〇	四〇	四〇	四〇	四〇
白揚社	叢文閣	希望閣	希望閣	希望閣	希望閣
月八	月二十	月一	月一	月一	月一
▲ソヴェエト同盟の内外情勢に關するモロトフの演説を収めたもの。一發售禁止。	▲文化五ヶ年計劃について(シユルギン)外三篇。一發售禁止。	▲ソヴェエト同盟に於ける社會防衛方法、在監者の權利と義務外十四章。	▲國家とは何であるか?、ソヴェエト權力の階級的性質外二章。	▲ソヴェエト憲法の意義と性質、地方に於ける權力と地方的權力外八章。	▲道徳と法、階級社會に於ける道徳、プロレタリア道徳は存在するか外八章。

政治・社会(勞農ロシア事情)

廣岡光治譯編	モロトフ著	高松洋吉著	伊藤徳太郎著	安田徳太郎著	尾瀨敬止	小池四郎譯	カウツキ著	野村平譯	茂森唯士	茂森唯士	佐野英	モロトフ著	加藤哲夫譯	ソヴェエト同盟の極東進出
ソヴェエト同盟の内外状態	ソヴェエト同盟に於ける文化建設	ソヴェエト同盟に於ける文化革命	ソヴェエト同盟の内外状態	ソヴェエト同盟の内外状態	ソヴェエト同盟の内外状態	ソヴェエト同盟の内外状態	ソヴェエト同盟の内外状態	ソヴェエト同盟の内外状態	ソヴェエト同盟の内外状態	ソヴェエト同盟の内外状態	ソヴェエト同盟の内外状態	ソヴェエト同盟の内外状態	ソヴェエト同盟の内外状態	ソヴェエト同盟の内外状態
並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判
458	282	346	355	200	36	294	266	294	294	294	250	223	180	376
一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	二、〇〇
叢文閣	ソヴェエト同盟に於ける文化建設	ソヴェエト同盟に於ける文化革命	叢文閣	鐵塔書院	育協會	先進社	木星社	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	希望閣	叢文閣	日本評論社
月五	月二十	月二十	月一十	月十	月九	月七	月二十	月五	月五	月五	月三	月一十	月八	
▲農業政策の前提、理論一九一七年—一九二一年の農業政策外八章。	▲集團農業運動史、集團農業の意義と任務、集團農業の現状の三編、附録土地法。	▲過去から何を相續したか、文化五ヶ年計劃の二年間の實績について外廿二章。	▲ソヴェエト同盟の内外情勢に關してなしたモロトフの演説集。	▲五ヶ年計劃の話を極めて平易に述べたもので、五ヶ年計劃の偵察隊外十二編。	▲五ヶ年計劃は生る、その特質、眞に五ヶ年計劃とは何か、實績外四篇。	▲ロシアに於ける農業革命、工業に於ける社會革命外二章。	▲ソヴェエト同盟に於ける社會主義文化建設に關するクセラ及エルゲルスの論文譯述。	▲ソヴェエト革命後十餘年間に於ける文學演劇映畫美術其他の發展に就て論述せるもの。	▲ソヴェエト農業的發展と協同經營農場運動農業社會化の理論的基礎外三章。	▲社會主義建設と黨政策の概要、ソヴェエト同盟共産黨の現勢力外一章。	▲ソヴェエト同盟の新段階について、社會主義の建設と成長の諸困難の二篇六章。	▲社會主義競争と衝撃隊運動、産業經濟計劃のための競争經驗外五篇。	▲ソヴェエト同盟の極東進出	▲ソヴェエト同盟の極東進出

政治・社會(勞農ロシア事情)

荒川實藏	同	シナイサイザイ	シナイサイザイ	並四六	製判	245	一、〇〇	六〇	南北書院	月七	▲苦心慘憺たる資金調達(グラジシ) 数々の同志を想ふ(ゴルブコフ) 外五篇。
海野利夫	サウエート	ロシアの運動	ロシアの運動	並四六	製判	99	三、五	四〇	希望閣	月二	▲労働者農民の子供の状態とロシア少年運動の決定的發展段階外二篇。
時國理一	ソヴェト	ロシアの科學	ロシアの科學	洋四六	布入判	169	一、〇〇	八〇	同人社	月四	▲科學と組織、レニングラードに於ける科學モスクワの印象外廿四章。
村田亨	ロシア	共産黨發展小史	共産黨發展小史	並四六	製判	87	四、〇	三〇	希望閣	月四	▲黨の歴史における三つの時期、労働者團から社會民主黨へ外二章。
南登書房	ロシア	大革命史	大革命史	並四六	製判	670	一、五〇	八〇	南登書房	月五	▲第三卷は十月革命遂行の經過を取扱つたもので、諸事件の經過外六章。改訂版。
田畑三四郎	ロシア	共産黨史	共産黨史	並四六	製判	256	六、〇	六〇	白揚社	月五	▲一九〇五年の第一ロシア革命を中心としたホルシエグイキの活動其他を収む。
田畑三四郎	ロシア	共産黨史	共産黨史	並四六	製判	256	六、〇	六〇	白揚社	月五	▲革命の機構、内的諸勢力の影響の下における革命の展開其他三章より成る。
近藤榮藏	露國	革命前後	革命前後	並四六	製判	212	四、〇	三〇	解放社	月九	▲一月九日、労働者代表會議、労働階級の再起、二月革命と労働者外四章。
荒川實藏	ロシア	革命の發展過程	革命の發展過程	並四六	製判	428	一、〇〇	六〇	共生閣	月六	▲ロシア革命を通じて行はれた歴史的過程を説明批判せる書で、革命運動の第一歩其他。
塚本小太郎	ロシア	革命の秘密	革命の秘密	並四六	製判	241	六、〇	六〇	歐亞社	月九	▲運送船ピエフオード號の航海日記、ソヴェットの土を踏みて外十八篇。
姫田嘉男	露國	皇帝スターリン	皇帝スターリン	並四六	製判	270	一、二〇	六〇	先進社	月八	▲全ロシア專制君主スターリン及革命の老将トロツキイ等の内面生活に至る迄暴露す。
吉田嘉男	ニコライ	二世最後の日	二世最後の日	並四六	製判	261	一、〇〇	六〇	ソヴェト研究会	月七	▲露國皇帝一家の悲劇的運命(シリヤル)ニコライ二世最後の日(サイコフ)の二部。
ソグエイト	ロシア	文化史概論	文化史概論	並四六	製判	320	一、〇〇	八〇	岩波書店	月十	▲現代に至る迄のロシアの經濟及び政治の發達に就て論述せるもの。

政治・社會(拓殖・植民・國防・軍縮・兵事)

國防・軍縮・兵事

早坂二郎	露西亞	スパイする	露西亞をスパイする	並四六	製入判	346	一、二〇	三〇	新潮社	月三	▲英國共産黨の幹部ジョン・グイダーがロシアの生活その思想活動振り等を實寫せるもの
中平亮	ロシア	の嘘	これがモスクワだ!	並四六	製判	265	六、〇	六〇	天人社	月一	▲行詰つたサウエイト・ロシアの研究で、十一月革命の本質、強制労働外十三章。
大竹博吉	ロシア	の半面	これがモスクワだ!	並四六	製入判	344	一、五〇	三〇	内外社	月四	▲革命時代に於けるモスクワの生活を描いた雑文集で、モスクワ街頭風景外七篇。
中島久萬吉	ロシア	の半面	これがモスクワだ!	並四六	製判	71	四、〇	三〇	マサリ社	月二	▲ロシアの他の半面を直視せよ、金融國策と外國貿易の國營外三章。
露西亞通信社	ソヴェト	現勢資料	ソヴェト現勢資料	並四六	製入判	1011	五、〇〇	二〇	通露信社	月七	▲勞農ロシアの現狀を最も公正に紹介せるもので經濟問題並五ヶ年計畫外六部。
露西亞事情	ソヴェト	現勢資料	ソヴェト現勢資料	並四六	製入判	569	二、〇〇	四〇	東亞經濟調査局	月九	▲概観、地理、第三インターナショナル、協同組合其他より成るソヴェイト聯盟年鑑。
桶富士松編	北海道	と拓殖	北海道と拓殖	並四六	製判	43	二、五	三〇	東亞振興會	月七	▲北海道の使命(鎌田榮吉) 北海道の拓殖(水野練太郎) 其他。
陳崑樹	臺灣	統治問題	臺灣統治問題	並四六	製判	206	四、〇	三〇	寶文堂	月三	▲臺灣統治策、臺灣參政運動の二章六節にて論述。特製一冊五十錢。
拓務省拓務局編	最近の	海外移住地	最近の海外移住地	並四六	製判	354	二、八〇	四〇	明文堂	月二十	▲移民教育(松井鎌吉) 我國の現狀と海外發展(岡實) 外八篇。
文部省實業事務局	最近の	海外移住地	最近の海外移住地	並四六	製判	353	二、八〇	四〇	明文堂	月二十	▲主として加州に於ける移民問題を中心とする日米問題を網羅せるもの。
藤岡紫朗	北米	移民の栞	北米移民の栞	並四六	製判	360	三、一〇	六〇	大日本圖書株式會社	月三	▲世界各國の植民活動の推移變遷、各時代の社會思潮の特色等を一貫せる見地を以て敘述

和野	石丸	大島	佐藤	山川	池崎	保科	四王	石丸	石丸	馬込	中川	柴田	財田	村田	恢弘	櫻井	宇山	森	海軍省	國部	軍事				
中尉	少佐	少佐	少佐	博士	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐			
龜治	一男	高精	慶治郎	端夫	忠孝	貞次	天延孝	藤太	藤太	健之助	龍一	善治郎	有終	懋磨	弘會	忠温	熊太郎	權吉	編纂	和一郎	攻究會				
帝國	國防	國防	國防	國防	國防	國防	國防	國防	國防	國防	國防	國防	國防	國防	國防	國防	國防	國防	國防	國防	國防	國防			
の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の			
防	防	防	防	防	防	防	防	防	防	防	防	防	防	防	防	防	防	防	防	防	防	防			
106	206	150	167	248	320	234	46	422	394	614	356	38	650	125	150	109	100	185	400	200	110				
三	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二			
天人社	春秋社	春秋社	日本書院	盟國協同會	先進社	千倉書房	東海聯合會	春秋社	先進社	南北書院	春秋社	育協會	有終會	一進堂	兵林館	誠文堂	水明書院	丸善社	兵用圖書	川流堂	書一二三店				
月一	月二十	月二十	月一	月一	月一	月一	月三	月九	月六	月九	月二十	月七	月五	月一十	月一	月三	月四	月二十	月十	月八	月二十				
▲東亞の新形勢と帝國陸軍の使命以下十項にて帝國國防の根本義を高唱せるもの。	▲我が陸軍の輪廓と内容を最も興味深く紹介せるもので、寫眞及論説の二部。	▲我が海軍の備の眞諦を紹介せるもので、寫眞及び論説の二部より成る。	▲國防の重大性を我陸軍の現狀によつて論述した書で、軍備縮少危険外六章。	▲陸軍縮小の論據及びその反駁、大戦後の世界の實相外二篇。附録。	▲會議の模様、條約の内容、英米の態度、我主張、附録―不戰條約、倫敦條約、華府條約。	▲今次軍縮會議の眞相を知らんとする一般人の爲に説述せる書で、日本と軍縮會議其他。	▲ワシントンノ勝利、ロンドンノ敗北、一三六年の日本海軍外十二章にて述ぶ。	▲空の國防上より觀たる我が國の弱點と防空施設、國民の心得べき防空常識外六章。	▲國難切掛けの國民の覺悟を説述したるもの。	▲日米將に戦はんとす、日米果して戦ふか？日米若し戦はば外三篇。	▲一九三一年より同三三年に亘る日米戦争の豫想記で、戦前の日米支關係外廿章。	▲日支間に於ける從來の關係を譯し中村大尉慘殺以後の經緯を詳説す。	▲近代の陸・海・空軍を有するソヴェートの軍隊を解剖せる書で、勞農赤軍の現狀其他。	▲プロシヤの陸軍大將クラウゼヴィツの遺著「戦争論」の全譯で、戦争の本質を論ず其他。	▲戦争を徹底的に批判し明快なる解決を下さるもので、戦争を製造する外三部。	▲日本、米國、英國、佛國、伊太利、獨逸の六ヶ國の海軍近情に就て論述。	▲我が國及び列國海軍の現狀と世界の海運の現狀とを正確なる資料によつて編輯。	▲海軍の任務戦争か革命か艦隊の編制倫敦會議に於ける諸問題華府會議條約其他。	▲平和の檢討、戦争の脅威國心に立つ日本、軍備決定の基礎要件外四章にて論述。	▲漫畫から生れた戦争、最初の軍人飛行家、血痕のある軍旗外八十篇。	▲世界大戦當時の歐洲各都市の空襲慘狀を説き延いて國民防空の緊要を説く。	▲戦時に於ける潜航艇の活躍振を一目睹然化する。	▲海軍陸戦隊式陸戦隊の參考に資せしものなり點を明示し陸戦隊の參考に資せしものなり。	▲戦術研究上最も肝要なる戦場の波瀾曲折に處する統帥指揮に重きを置きたる參考資料。	▲第一類、情況、第七類迄情況、情況の綜合觀察を收む。

平田	馬込	中川	柴田	財田	村田	恢弘	櫻井	宇山	森	海軍省	國部	軍事
少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐
晋作	健之助	龍一	善治郎	有終	懋磨	弘會	忠温	熊太郎	權吉	編纂	和一郎	攻究會
勞農赤軍	戦争	戦争	戦争	戦争	戦争	戦争	戦争	戦争	戦争	戦争	戦争	戦争
の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
軍	軍	軍	軍	軍	軍	軍	軍	軍	軍	軍	軍	軍
346	614	356	38	650	125	150	109	100	185	400	200	110
一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二
先進社	南北書院	春秋社	育協會	有終會	一進堂	兵林館	誠文堂	水明書院	丸善社	兵用圖書	川流堂	書一二三店
月二十	月九	月二十	月七	月五	月一十	月一	月三	月四	月二十	月十	月八	月二十
▲近代的陸・海・空軍を有するソヴェートの軍隊を解剖せる書で、勞農赤軍の現狀其他。	▲プロシヤの陸軍大將クラウゼヴィツの遺著「戦争論」の全譯で、戦争の本質を論ず其他。	▲戦争を徹底的に批判し明快なる解決を下さるもので、戦争を製造する外三部。	▲日本、米國、英國、佛國、伊太利、獨逸の六ヶ國の海軍近情に就て論述。	▲我が國及び列國海軍の現狀と世界の海運の現狀とを正確なる資料によつて編輯。	▲海軍の任務戦争か革命か艦隊の編制倫敦會議に於ける諸問題華府會議條約其他。	▲平和の檢討、戦争の脅威國心に立つ日本、軍備決定の基礎要件外四章にて論述。	▲漫畫から生れた戦争、最初の軍人飛行家、血痕のある軍旗外八十篇。	▲世界大戦當時の歐洲各都市の空襲慘狀を説き延いて國民防空の緊要を説く。	▲戦時に於ける潜航艇の活躍振を一目睹然化する。	▲海軍陸戦隊式陸戦隊の參考に資せしものなり點を明示し陸戦隊の參考に資せしものなり。	▲戦術研究上最も肝要なる戦場の波瀾曲折に處する統帥指揮に重きを置きたる參考資料。	▲第一類、情況、第七類迄情況、情況の綜合觀察を收む。

政治・社會 (社會學・社會史)

皆川 庄五郎	小 戰 例 集	洋編 半 布裁	180	三〇	兵用圖書	月 十	▲下士官の爲の書で小部隊の指揮者として原 則の研究上有力なる資料。
陸軍省 編纂	騎 兵 操 典	並四六 製判	400	四三	兵用圖書	月 二十	▲陸軍騎兵科の基礎教科書にして教練に實兵 指揮に戦闘に必要な事項を説く。
早川 政之輔	飛行兵必携 術科編	洋四六 布裁	800	一、五〇	兵用圖書	月 二十	▲航空兵の志願手續より入營前後の案内、飛 行機一切の證明を述べた教科書。
佐々木 一雄	新時代の軍隊生活	並四六 製判	276	六〇	新日本書房	月 九	▲新時代の軍隊教育及兵營生活に就て述べた もので、入隊の日各個教練其他。
水本 虎三郎	入營者の爲め 附・陸軍部内成功案内	並四六 製判	83	四三	帝國軍事 教育研究社	月 九	▲徴兵及現役志願兵として入營する者の爲に 述べた書で、入營者の爲めに其他。
國際軍事研究会編	軍事 年鑑 昭和六年版	並四六 製入判	630	一、六〇	朝風社	月 六	▲帝國々軍の現勢及び最近列國軍備の大勢を 明かにせるもの。

(B) 社會

社會學・社會史

淺野 研 眞 著	社會學概論	洋編四六 布入判	215	一、〇三	白鳳社	月 四	▲社會學の誕生と發達、社會學の對象と方法 社會學の諸部門外一章にて論述。
柳 澤 泰 爾 述	公民社會學	並四六 製判	213	一、〇〇	人格社	月 一	▲人口及び食料問題、都市及び農村問題、機 械過程の弘布、家庭の變革及五章。
社會學研究会譯	文化社會學研究(卷一)	並編 製判	369	一、五〇	同文館	月 七	▲知識社會學の問題(樺俊雄譯)史的唯物論 とイデオロギー論(坂田太郎)譯外二篇。
日佛會館編	日佛文化	並編 製判	292	一、〇〇	同文館	月 九	▲杉山直治郎、植村琢、田邊壽利、古野清人 佐藤秀三、井日孝親の諸論文集。

政治・社會 (社會評論・社會思想・文明批評)

社會評論・社會思想・文明批評

海野 幸 德	次の社會	洋編四六 布入判	445	二、〇〇	赤爐閣	月 八	▲次の社會の科學的展望で、次の社會、個人 的原理外十四章。
海野 幸 德	貧乏と奴隷	洋編四六 布入判	449	二、〇三	赤爐閣	月 九	▲階級問題解決の基礎原理研究で、貧乏と奴 隷、奴隷の出現外十二章。
海野 幸 德	閑の偶像	洋編四六 布入判	449	二、〇三	赤爐閣	月 八	▲人間の謎、社會の偶像、閑の偶像の正體、 社會的地位分配の方法外十一章。
野原 希 聖 註	支那封建社會史	布編四六 裝入判	142	八五	四海書房	月 五	▲支那封建制度及びその崩壊過程を説明し た書で、支那の地理と民族外七章。
森川 龍 夫 著	アメリカ社會勞動史	洋編四六 布入判	342	二、三〇	春陽堂	月 三	▲アメリカ資本發達に對する唯物史觀的研究 で、植民の原因外二十三章。
細川 龜 市	日本原始共產體の研究	洋編 布判	215	一、五〇	白鳳社	月 七	▲日本原始共產體の存否に關する諸學說、日 本原始共產體の兵制外四章。
櫻井 庄 太郎	日本封建社會史	並四六 製判	165	四六	白鳳社	月 四	▲初期封建社會に於ける階級關係、武士の農 民採取外二章にて論ず。
荒川 實 藏 譯	民族の起原及發達	並四六 製判	144	四三	第三書院	月 一十	▲第一期における民族問題、帝國主義時代に おける民族問題外二篇。
荒川 實 藏 譯	古 代 社 會	布編半 裝裁	436	六五	改造社	月 四	▲下巻は家族の觀念の發達、財産の觀念の發 達外一篇にて論述。
荒川 實 藏 譯	古 代 社 會	布編半 裝裁	410	一、〇五	改造社	月 二	▲發明及び發見によれる智力の發達、政府の 觀念の發達の二篇十三章を収む。
里見 岸 雄	日本社會科學	洋編四六 布入判	263	二、〇〇	春秋社	月 九	▲社會科學に對する一般的注意、科學として の認識論外十一章にて論述。
田邊 壽 利	フランス社會學史研究	洋編四六 布入判	418	二、〇〇	刀江書院	月 十	▲パスカールと社會學、十八世紀フランス社會 學、フランドルと現代社會學外一篇。人名索引。

政治・社會（社會評論・社會思想・文明批評）

田川大吉郎	社會改良史論	洋四六布判	726	二、三〇	敦文館	月四	▲人間の悪性、社會の偶像崇拜、個人奉仕、選良の社會奉仕九章にて論述。
警察法令研究學會	社會及思想	上四六製入判	320	一、三〇	大學書房	月六	▲主として英國の基督教社會主義者の主張と計畫の跡を尋ねその一斑を述べた書。
岩佐作太郎	革命命斷想	並四六製判	153	四、五〇	線黑色社	月五	▲社會思想の歴史及び現今稱へられてゐる總ゆる主義思想を廣汎に亘つて講述せるもの。
日沖憲一郎	權利のための闘争	並四六製判	114	三、三〇	岩波書店	月一十	▲黒色運動の意義・精神、解放に對するアナキ運動の役割、私たちの理想社會他十篇。
草間平作	道徳の經濟的基礎	並四六製判	224	四、〇〇	岩波書店	月三	▲講演を基にして成つた「權利のための闘争」の全譯。
西原重吾	社會主義は經濟的に可能なりや	並四六製判	70	二、五〇	日本評論社	月六	▲基本的關係、三基本關係の歴史上の混合、共同社會の上層の三篇廿四章。
谷川弘實	社會問題及社會主義	並四六製判	298	一、〇〇	日本評論社	月七	▲資本主義的交換經濟、社會主義的共同經濟現代の解決の試みの三章。
藤川宏	經濟生活の社會化	並四六製判	108	四、五〇	日本評論社	月二十	▲社會問題（社會問題と獨占外三章）社會主義（カウツキの未來國家外四章）。
櫻井誠之	資本主義の法律的基礎	並四六製判	102	三、三〇	日本評論社	月二十	▲經濟的自由と社會的思想、社會化の條件及境界、私的獨占の社會化外四章。
竹原八郎	資本主義の終末？	並四六製判	157	六、五〇	日本評論社	月二十	▲景氣の問題から資本主義の問題へ、マルクスにおける資本主義の概念外七章。
龜井貫一郎	貴族・資本家・労働者	並四六製判	365	一、〇〇	忠誠堂	月三	▲國民經濟の要具としての資本主義、經濟民主主義の限界外八章。
社會經濟研究會譯	社會經濟労働者評論	並四六製判	183	六、五〇	叢文閣	月三	▲華族の没落と其政治勢力、民政黨の自由主義を批判す外廿一章。

政治・社會（社會評論・社會思想・文明批評）

社會經濟研究會譯	社會經濟労働者評論	並四六製判	152	六、五〇	叢文閣	月三	▲諸種の經濟部門に於ける世界經濟恐慌、アメリカ合衆國に於ける失業外五章。
社會經濟研究會譯	社會經濟労働者評論	並四六製判	201	六、〇〇	叢文閣	月五	▲社會保險のための闘争、世界經濟恐慌と「國際粗鋼聯合」外六章。
社會經濟研究會譯	社會經濟労働者評論	並四六製判	159	四、五〇	叢文閣	月六	▲ベルリンの金屬労働者罷業、興味あるストライキ表外六章。
社會經濟研究會譯	社會經濟労働者評論	並四六製判	199	六、〇〇	叢文閣	月九	▲死滅しつつある資本主義下の失業、恐慌からの出外九篇。一、五章禁止。
守田有秋	世界ユートピア文獻	並四六製判	242	四、五〇	解放社	月五	▲思想篇、古代及中世のユートピア、日本のユートピア外二篇。
大杉榮	相互扶助論	並四六製判	305	四、五〇	春陽堂	月一十	▲動物の相互扶助、蒙昧人の相互扶助、近代社會の相互扶助外五章。
金子健二	ガンヂーさんの糸車	並四六製判	217	一、三〇	尙文堂	月一十	▲巨人の墓と迷へる羊、全亞細亞に呼掛けんとする印度外四篇にて論述。
社會理想研究會譯	マルクスとの私的交渉	並四六製判	112	四、五〇	近代評論社	月一十	▲空論派ドイツ共產主義者の歴史的論辯、總協議會私回章に就いて外四章。
大谷光瑞	世間非世間	並四六製判	205	二、三〇	日實業社	月三	▲非世間篇（佛敎の大意十章）世間篇（政治改造論其他）雜篇（味覺哲學）其他。
福澤諭吉	文明論之概略	並四六製判	235	四、〇〇	岩波書店	月六	▲議論の本位を定る事、一國人民の知徳を論ず、日本文明の由來外七章。
佐藤莊一郎	百年後の科學文明	上四六製入判	334	一、八〇	先進社	月六	▲百年後の科學文明—二〇三〇年の世界、二〇三〇年の戰爭外七章。
好本督	祖國に寄す	並四六製入判	276	一、二〇	中央敎化團體聯合會	月二	▲英國文明の華、英國の家庭と紳士、英國の實業家外四章。附録英國の譯者其他。
清澤洵	不安世界の大通り	並四六製判	397	一、五〇	千倉書房	月四	▲歐米をまたぐ、世界人の印象、各國諸相のクローズ・アップ外一篇。

政治・社會(社會主義・マルクス主義・左翼運動)

石井 満	女人極樂郷	布四六装判	544	二、〇〇	日本評論社	月五	▲今日及び今日迄のアメリカの婦人生活を描けるもので、尖端性愛篇外三部。 ▲アメリカの右翼的資本主義及ソヴェートの左翼的共産主義の將來に就て論述。 ▲十二章に於て機械の性質を解剖し人生と藝術とに與へた機械の影響を闡明せる書。 ▲今迄見られなかつた角度からアメリカを見つたもので、新アメリカの發見外十一章。 ▲十九章に亘り機械とは如何なるものか機械の發達徑路人間と機械の關係價值と其未來。 ▲アメリカ南部の農業地帯及北部の工業地帯に於ける生活狀態並に労働狀態を描く。 ▲アメリカ大統領ウイルソン直屬の秘密探偵シツソンの手記で、赤色テロの曉外廿三章。
清水 宣	二つの世界	上四六装判	367	一、七〇	春陽堂	月一	
日高 早苗	機械の舞踏	並四六装判	310	一、三〇	歐亞社	月一	
オブライエン	ロボットの踊る	並四六装判	310	一、〇〇	歐亞社	月七	
長澤 才助	人間と機械	洋四六布入判	400	一、五〇	モナス	月八	
北野 浩	黒人迫害史	上四六装判	282	一、二〇	先進社	月七	
白井 勉	赤い百日日	上四六装判	355	一、〇〇	先進社	月一十	

社會主義・マルクス主義・左翼運動

武井 秀吉	社會主義批判	並四六装判	152	六、五〇	大日本昭和聯盟本部	月五	▲社會主義的主張の發生した社會狀態に筆を起し次で社會主義の本質を究明せるもの。 ▲社會主義の分解的研究、社會主義の歴史的研究外二編にて論述。 ▲社會主義の發展(空想的社會主義外二章)附録唯物史觀について其他。 ▲空想的社會主義、マルクスの二大發見、科學的社會主義等三篇。 ▲サヴェイト同盟の内外情勢に關してのモロトフの演説を収めたもの。
ハアン ショウ	社會主義否定論	上四六装判	372	二、〇〇	新星堂	月九	
中 西 仁三	社會主義の發展	並四六装判	208	六、五〇	白揚社	月六	
堀 利彦	社會主義の發展	並四六装判	112	四、三〇	希望閣	月一	
竹 沼 隼人	社會主義の發展	並四六装判	355	六、五〇	白揚社	月九	

政治・社會(社會主義・マルクス主義・左翼運動)

加田 哲二	近代的社會觀の發展	洋四六布入判	441	三、五〇	春秋社	月五	▲共産主義原則(エンゲルス)資本主義的蓄積の史的傾向(マルクス)外七篇。 ▲マルクス社會學が如何なる思想的前提の下に發展し來つたかを論述せるもの。 ▲マルクス主義史家學會の諸任務、協商、ストライキヒン時代外三篇。註釋、人名註解。 ▲概念論と唯物論、辯證法的唯物論外六章。フインゲルト、シルヴィント共著。
ボクローフスキ	史的唯物論教程	並四六装判	263	六、六〇	希望閣	月五	
吳 雅之	史的唯物論教程	並四六装判	402	一、〇〇	共生閣	月一	
ソヴェイト科聯研究會	史的唯物論大系	並四六装判	224	六、六〇	白揚社	月六	
「マルクス主義の歴史」編輯部	史的唯物論一元論	並四六装判	357	一、〇〇	鐵塔書院	月五	
山内 唯彦	唯物史觀	並四六装判	250	一、〇〇	日本評論社	月二	
カウツキ	唯物史觀	並四六装判	121	四、四〇	日本評論社	月六	
シユタムラ	唯物史觀批判	並四六装判	407	一、五〇	白揚社	月四	
テポリー	唯物論	並四六装判	189	四、五〇	共生閣	月二	
佐藤 博	辯證法的唯物論前史	並四六装判	478	一、七〇	白揚社	月三	
テポリー	辯證法と自然科學	並四六装判	260	六、七〇	理想社	月三	
大江 精志郎	辯證法の批判的研究	並四六装判	383	二、五〇	人文書房	月八	

政治・社會(社會主義・マルクス主義・左翼運動)

瀬木健譯	フオイエルバツハの論	並四六製判	154	四〇	希望閣	月九	▲觀念論と唯物論、フオイエルバツハの宗教哲學と倫理學其他を収む。
關根悦郎譯	唯心論と唯物論	並四六製判	313	一〇〇	共生閣	月三	▲「基督教の本質」以後に於けるフオイエルバツハの重要論文を収載。
山田鐵治譯	フランスの内亂	並四六製判	118	四〇	希望閣	月三	▲一八七一年のフランスの内亂に關する總務委員會の通牒(マルクス)及附録を収む。
土居三郎譯	マルクス・エンゲルスの遺稿考證	並四六製判	200	六〇	同人社	月五	▲マルクスエンゲルス文獻に關するリヤザノフの研究論文三篇及び附録一篇。
木下牛治譯	巴里コミューン	並四六製判	316	一、六〇	春陽堂	月五	▲バリーコミューンの資料文書其他。
長谷部文雄譯	反デューリリング論	並四六製判	254	六〇	岩波書店	月十	▲デューリング氏が約束するもの、世界範疇論、道徳と法、自然と必然外十一章。
エンゲルス著	英國労働者状態	並四六製判	432	一、〇〇	同人社	月四	▲工業無産者状態、大都市、愛蘭人の來住外九章にて大英帝國の労働状態を描寫す。
竹内謙二譯	マルクス主義の根本問題	並四六製判	184	六〇	マルクスの	月一	▲社會進化の鐵則、ユートピア的及科學的社會主義外一章。 特價版
マルクス著	マルクス主義の根本問題	並四六製判	372	八〇	改造社	月一	▲マルキシズムの史的準備、ダーウインとマルクス、自然的條件と技術外三章。 特價版
マルクス著	マルクス主義の根本問題	並四六製判	274	六〇	マルクスの	月一	▲イストラエルの階級闘争(カウツキー)新しき社會(ボクロフスキー)外廿六章。 特價版
マルクス著	マルクス主義の根本問題	並四六製判	188	六〇	マルクスの	月一	▲辯證法、辯證法的唯物論、世界觀としてのマルキシズム等三編及附録。 特價版
マルクス著	マルクス主義の根本問題	並四六製判	306	六〇	マルクスの	月一	▲マルクスの生涯及び事業、マルクスの唯物哲學說、マルクスの唯物史觀說外九章(普及版)
マルクス著	マルクス主義の根本問題	並四六製判	417	一、三〇	白揚社	月三	▲辯證法的マルクス主義を體系的に論述せるマルクス主義の根本問題の譯。
マルクス著	マルクス主義の根本問題	並四六製判	203	四〇	日本評論社	月六	▲レーニンと哲學の黨派性(ルツボル)トロツキー主義の政治的方法論(ノグイコフ)外。
マルクス著	マルクス主義の根本問題	並四六製判	255	五〇	社會教育會	月三	▲雑誌「マルクス主義の旗の下」について最も主要な歴史的な文書外五篇。
マルクス著	マルクス主義の根本問題	並四六製判	164	六〇	白揚社	月三	▲共産主義アカデミー常任委員会より、報告に關する討論外三篇。
マルクス著	マルクス主義の根本問題	並四六製判	207	六〇	科學研究所	月八	▲價值並に剩餘價値の理論、平均利潤率並に生産價格の理論外三章。
マルクス著	マルクス主義の根本問題	並四六製判	294	八〇	科學研究所	月八	▲マルクス經濟學批判(高田保馬)社會思想と經濟問題(河津運)外一篇。
マルクス著	マルクス主義の根本問題	並四六製判	281	七〇	白揚社	月六	▲キリスト教と歴史、觀念の出所、藝術の物質的基礎外六章。
マルクス著	マルクス主義の根本問題	並四六製判	141	四〇	中外書房	月二十	▲マルクスの修業時代、マルクス主義の生成マルクス社會學外二篇にて述ぶ。
マルクス著	マルクス主義の根本問題	並四六製判	243	九〇	希望閣	月六	▲科學的社會主義の創始者カール・マルクスの生涯と學說とを叙述す。
マルクス著	マルクス主義の根本問題	並四六製判	355	二、〇〇	春陽堂	月三	▲マルクスの學說、マルクスの經濟學說、社會主義其他。
マルクス著	マルクス主義の根本問題	並四六製判	375	八〇	大衆公論社	月四	▲思想家、人間面して革命家としてのカールマルクスに就ての論集。
マルクス著	マルクス主義の根本問題	並四六製判	138	四〇	希望閣	月四	▲唯物論的認識論としての辯證法、プロレタリア革命の方法論としての辯證法の二編。
マルクス著	マルクス主義の根本問題	並四六製判	138	四〇	希望閣	月四	▲レーニン主義が適用されてゐるかを示す。 五章より成る。文獻目録、評註附載。

政治・社會(社會主義・マルクス主義・左翼運動)

小柳司郎譯	レーニン主義の基礎	並四六製判	138	四〇	希望閣	月四	▲レーニン主義の基礎を説明せるもので、五章より成る。文獻目録、評註附載。
オリホーグイ著	レーニン主義の基礎	並四六製判	375	八〇	大衆公論社	月四	▲レーニン主義が適用されてゐるかを示す。
直井武夫譯	マルクスに於ける辯證法	並四六製判	355	二、〇〇	春陽堂	月三	▲唯物論的認識論としての辯證法、プロレタリア革命の方法論としての辯證法の二編。
秋田篤譯	思想家・人間カールマルクス	並四六製判	243	九〇	希望閣	月六	▲マルクスの學說、マルクスの經濟學說、社會主義其他。
中外書房譯	カール・マルクス	並四六製判	141	四〇	中外書房	月二十	▲科學的社會主義の創始者カール・マルクスの生涯と學說とを叙述す。
石田清行譯	カール・マルクス	並四六製判	151	四〇	南嶺書房	月十	▲マルクスの修業時代、マルクス主義の生成マルクス社會學外二篇にて述ぶ。
ベイヤ雄譯	カール・マルクス	並四六製判	281	七〇	白揚社	月六	▲キリスト教と歴史、觀念の出所、藝術の物質的基礎外六章。
遠藤一郎譯	マルクス主義と歴史	並四六製判	164	六〇	白揚社	月三	▲マルクスの學說、マルクスの經濟學說、社會主義其他。
思想問題研究会編	マルクス主義批判	並四六製判	255	五〇	社會教育會	月三	▲價值並に剩餘價値の理論、平均利潤率並に生産價格の理論外三章。
竹原八郎譯	マルクス主義の終焉	並四六製判	203	四〇	日本評論社	月六	▲マルクス經濟學批判(高田保馬)社會思想と經濟問題(河津運)外一篇。
永田廣志譯	マルクス主義の現段階	並四六製判	417	一、三〇	白揚社	月三	▲共産主義アカデミー常任委員会より、報告に關する討論外三篇。
科學研究會編	マルクス主義の旗の下に	並四六製判	294	八〇	科學研究所	月八	▲雑誌「マルクス主義の旗の下」について最も主要な歴史的な文書外五篇。
科學研究會編	マルクス主義の根本問題	並四六製判	207	六〇	科學研究所	月八	▲價值並に剩餘價値の理論、平均利潤率並に生産價格の理論外三章。

岩村四郎	山内封介	入江武一	田畑三四郎	福島次郎	佐野文夫	大森義太郎	大森義太郎	國分孝	大田黒研究所	小池四郎	石川湧	アロニ	科学研究所
労働組合論	命に於ける二つの戦術	一步前進二歩退却	何を爲すべきか	民族問題について	唯物論と経験批判論	唯物論と経験批判論	唯物論と経験批判論	マルクス主義の鏡に映じたるトルストイ	國家學說	レニンの横顔	レニンの亡命生活	レニンの哲學的遺産	レニンの哲學的遺産
並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判
217	168	451	293	192	209	404	415	228	264	277	134	157	157
共	白	白	白	希望	岩波書店	改造社	改造社	希望閣	リアプロレタ	春陽堂	白鳳社	共生閣	共生閣
月十	月三	月五	月四	月二	月五	月二	月一	月五	月五	月四	月五	月五	月五
▲ボリセビズムの歴史における主要なる段階外九章及追補四章。一發賣禁止	▲民主主義革命の轉化の歴史的條件、同盟軍としての農民の二篇。	▲資本主義の蓄積と崩壊、有機的構成が増大する場合に於ける資本の蓄積外一篇。	▲マルクス學說の素因と本質、唯物史觀と歴史的認識問題の二編十一章。	▲マルクス主義の農業理論、ドイツ社會民主黨と農業問題外八章。	▲唯物論的歴史觀と剩餘價值説、社會主義の剩餘基礎の二章にて譯述。	▲サグエート労働組合代表團の一九二五年日本訪問記。一發賣禁止	▲組織問題に於ける卓越せる理論家ヒアトニツキの革命的自傳を譯せるもの。	▲理論と實踐とのレニンの合一のために、哲學戰線の情勢と任務外七章。	▲朝鮮共産黨ホルシエグイキの任務(車石東)其他にて論述。一發賣禁止	▲反サグエート陰謀「産業黨」事件の總決算(グイシンスキ)外六篇。	▲コミンテルン第五回大會議事録で、第二會議其他。	▲コミンテルン内に於ける日和見主義的指導に對する批判其他を討論の中心とせるもの。	▲レニンの哲學的諸著作(テムチュエーク)外三篇を譯述せるもの。

政治・社會(社會主義・マルクス主義・左翼運動)

全集刊行會	全集刊行會	調査所	無産者	唯物論者協會	三矢剛	波多野俊夫	グアクソフ	小田垣光之輔	森力	花澤武	入江武	上村正夫	科太田
テロンプロトコール	テロンプロトコール	反サグエ「産業黨」事件	朝鮮前衛黨ホルシエグイキのキー化のために	「デボーリン派」批判のために	改定文庫第二部(151)ホルシエグイキの手記	日本を震撼させた七日間	社會主義の科學的基礎に關する檢察	社會主義と農業	社會主義と農業	唯物史觀と歴史の經濟的説明	資本主義の蓄積と崩壊	民主主義革命の史的條件	共産主義「左翼」小兒病
並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判
280	270	191	168	211	376	161	217	60	126	247	213	184	184
白	白	希望閣	左翼書房	白揚社	改造社	南蠻書房	日本評論社	日本評論社	日本評論社	南蠻書房	共生閣	共生閣	大田黒研究所
月八	月六	月三	月七	月五	月六	月七	月十	月六	月十	月三	月二	月二	月二
▲コミンテルン内に於ける日和見主義的指導に對する批判其他を討論の中心とせるもの。	▲コミンテルン第五回大會議事録で、第二會議其他。	▲反サグエート陰謀「産業黨」事件の總決算(グイシンスキ)外六篇。	▲朝鮮共産黨ホルシエグイキの任務(車石東)其他にて論述。一發賣禁止	▲理論と實踐とのレニンの合一のために、哲學戰線の情勢と任務外七章。	▲組織問題に於ける卓越せる理論家ヒアトニツキの革命的自傳を譯せるもの。	▲サグエート労働組合代表團の一九二五年日本訪問記。一發賣禁止	▲マルクス主義の農業理論、ドイツ社會民主黨と農業問題外八章。	▲唯物論的歴史觀と剩餘價值説、社會主義の剩餘基礎の二章にて譯述。	▲サグエート労働組合代表團の一九二五年日本訪問記。一發賣禁止	▲組織問題に於ける卓越せる理論家ヒアトニツキの革命的自傳を譯せるもの。	▲理論と實踐とのレニンの合一のために、哲學戰線の情勢と任務外七章。	▲朝鮮共産黨ホルシエグイキの任務(車石東)其他にて論述。一發賣禁止	▲反サグエート陰謀「産業黨」事件の總決算(グイシンスキ)外六篇。

政治・社會(社會主義・マルクス主義・左翼運動)

農村問題・農村運動

鈴木 文治	労働運動二十年	布四六製判	404	一、五〇	一元社	月五	▲労働運動二十年を回想せる鈴木氏の記録で生ひ立の記外三篇。
加藤 一夫	農村社會研究 第一編	並製判	226	一、三〇	春秋社	月五	▲農村問題の本體と影(岡田温)都市と農村との經濟的關係(加藤一夫)外十四篇。
農村社會研究會編	農村社會研究 第二編	並製判	325	一、五〇	春秋社	月九	▲農村教育概観(小出満二)農村に於ける青年教育の現状(高田休廣)外十八篇。
橋本 孝三郎	農村の行方	背四洋布入判	300	二、四〇	建設社	月四	▲生産二次性原理、日本と農村、資本主義と農村外二編にて論述。
小野 武夫	農村の行方	背四洋布入判	133	四、三〇	三省堂	月二	▲現下の農村生活に關する隨筆集で、村の道路、或る青年の便り外十五篇。
岡本 利吉	農村問題總解決	並四六製判	346	一、〇〇	純眞社	月三	▲農村疲弊の根本諸原因を判然ならしめて社會問題の完全な解決を指示せる書。
那須 皓	農村問題と社會思想	並四六製判	486	一、三〇	岩波書店	月一十	▲現代文明と農業政策、農村問題の文化的背景、農業の社會化外二篇。一普及版。
柳田 國男	都市と農村	布四六製判	284	三、三〇	朝日新聞社	月三	▲都市成長と農民、農村衰微の實相、文化の中央集權、農民離村の歴史外六篇。
柳田 國男	日本農民史	並四六製判	192	六、六〇	刀江書院	月二十	▲農村、農家、農民と其境遇の變化等三篇にて論述せる日本農民史。
プロレトネル著	日本に於ける農業問題	並四六製判	371	一、〇〇	叢文閣	月三	▲一九二六年モスクワに於て發表せるプロレトネルの「日本に於ける農業問題」の譯。
農民闘争社譯	日本に於ける農業恐慌	並四六製判	233	六、六〇	白揚社	月五	▲我國資本主義と過小農制、農業恐慌とその露骨の二編にて論述。
高松 橋一	日本農業農民問題批判	並四六製判	256	六、六〇	白揚社	月一十	▲農業問題に對する吾々の態度、我國農業に於ける資本主義の發達外二篇。

農村問題・農村運動

中井 賢藏	立脚した農村の建替へ	洋四六布入判	244	一、三〇	大同館	月二十	▲農産物の増産と農民の窮乏、忘れられてゐる大合理農法、勤勞主義外七篇。
木村 靖二	近代日本農民運動發達史	並四六製判	365	一、三〇	白揚社	月二十	▲最近三十ヶ年間の日本農民運動史で、農民組合運動の本質外六篇。
小土屋 道雄	明治初年農民騒擾録	洋四六布入判	665	四、八〇	南北書院	月四	▲明治初年に於ける農民一揆二百三十件を収録せるもの。
青木 惠一	日本農民組合運動史	並四六製判	461	一、五〇	大衆公論社	月二	▲日本農民組合の活動、發展の歴史を述べたもので、小作争議の波と農民の團結外十章。
稲村 隆一	日本の農村を語る	並四六製判	341	一、三〇	先進堂	月二十	▲農民生活の偽らざる現實を曝露せるもので農村の没落、村の經濟外五篇。
協同會農村課編	最近の農民運動	並四六製判	185	四、五〇	協同會	月六	▲昭和五年四月より六年三月末迄の農民運動並に小作争議の實相を詳述す。
角田 藤三郎	日本農村問題の基礎	並四六製判	36	二、一〇	無産社	月四	▲日本農村問題に對する科學的研究、特に無産階級の立場より研究した平易な解説書。
矢橋 三子雄	農民の叫び	並四六製判	214	四、五〇	大衆出版社	月四	▲土を喰ふ人間其他世餘項及び小説百姓梯一の話、芋畑、詩傳達の叫びを収む。
菅 菊太郎	昭和農村論	洋四六布判	400	一、五〇	明文堂	月八	▲昭和時代と農業、今上陛下の御新耕、御大禮と農業、農業の信仰外十六篇。
大西 伍一	現實農村調査と青年指導	洋四六布入判	252	一、八〇	厚生閣	月一十	▲農村問題と正系の青年教育に就て論述せるもので、農村青年調査の趣旨外十七篇。
田村 浩	農漁村共産體の研究	洋四六布入判	211	一、三〇	泰文館	月一十	▲我國の共産部落として知られてゐる陸奥國下北半島の一僻村「尻屋」を中心とせる研究。
カウツキ一著	農業問題	並四六製判	216	六、六〇	鐵塔書院	月五	▲資本主義社會に於ける農業の發展(封建時代の農業外五章)。
プロレタリア科學研究所	農業問題研究會譯	並四六製判	501	一、八〇	鐵塔書院	月九	▲中卷は第七章資本主義的農業の限界より第十一章將來の見透しまでを収む。

政治・社會(社會問題・労働問題)

荒川一實	入江武一	農民闘争社	木村靖二	直井武夫	新時代雄辯會	郷土教育聯盟	永井亨	鈴木梅四郎	権田保之助	金三民
改造文庫第一(第34)	貧農に訴ふ	農業戦線上の闘争	農村恐慌論	農業恐慌の理論	新時代雄辯會	郷土調査必携	現代公民講座	日本醫業經營法の革新	高野博士選集(第1卷) 農業の合理化	在滿朝鮮人の窮状と其の解決策
布菊半裝載	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	布四六製判	並三六製判	洋菊	並四六製判	洋菊	並菊
272	126	181	342	205	342	80	248	133	350	304
一三〇	四三〇	四七〇	六〇〇	四七〇	二二〇	二二〇	八〇〇	四三〇	二二〇	二二〇
改造社	白揚社	叢文閣	白揚社	希望閣	新時辯會代	刀江書院	雄風館	實生活社	巖松堂	新大陸社
月七	月三	月六	月二	月二	月八	月七	月三	月十	月九	月五
▲レーニン全集の中の第二篇「ロシア革命における農業問題」の諸論文を譯載せるもの。	▲都市労働者の闘争、社會民主主義者は何を欲するか? 外五章。	▲農業戦線上の闘争と農村の改造、全面的集約の根本問題外三篇。	▲農業恐慌、近代社會の分析、農村搾取の發展、農業の没落外四章にて論述。	▲資本主義的恐慌の歴史の二部にて論述。	▲農村窮乏と其打撃は今後更に激化する(高橋龜吉) 豊年飢饉論(三宅正一) 外十七篇。	▲都市又は項落の調査のために地圖、農業形態其他の事項を書き入れられるやう作製す。	▲社會問題(七節) 社會運動(七節) 労働問題及び労働運動(七節)。	▲患者と醫師とを同時に救ふ現行醫業經營法の革新、技師政治の弊害と其由来外五章。	▲社會生活と民衆娛樂、民衆娛樂狀況、民衆娛樂の三編に分ち論究す。	▲朝鮮人の窮状を詳述し、その解決策に及ぶ。

政治・社會(社會問題・労働問題)

協調會編	東京支局編	山本征夫	近藤榮藏	産勞・プロ科學譯	松岡鋼太郎	新川正一	豫防時代社	中央職業研究會編	中央職業研究會編	讀賣新聞
英國に於ける失業及び其對策	一九三一年の失業問題	第三期と失業問題	失業と如何に闘ふか	失業及び失業反對闘争	斷然失業せしむる成功する	女學校から職業へ	現代女子職業總覽	現代職業指針	現代職業讀本	應用技術と彼女は斯うして就職した
並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	布四六製判	並菊	並四六製判	並四六製判	上三六製判
213	370	176	24	248	168	252	174	435	300	226
一五〇	一三〇	四三〇	二二〇	六〇〇	六七〇	六〇〇	八〇〇	一五〇	六三〇	一、〇〇〇
協調會	同文館	南登書房	無産社	南登書房	二松堂	交蘭社	豫防時代社	寶盛堂	寶盛堂	文明社
月十	月六	月十	月四	月七	月五	月五	月六	月三	月二十	月三
▲英國の失業問題の由来とその重大性を解剖し進んで政府其他機關の對策につき紹介す。	▲國際貿易の諸障礙とその失業に及ぼす影響失業と通貨の變動外五篇。	▲第三期に於ける失業の特殊性、獨占資本主義時代の失業其他。	▲失業の續出に對して無産階級は如何にして戦ふか、その組織、方針、スローガンの記述書。	▲一九三一年二月廿五日を中心にして全世界の失業狀況と失業反對闘争とを示す。	▲今や失業旋風時代、どんな人が失業せぬか此一事斷じて忘るべからず外十五篇。	▲職業は如何して出來たか、職業婦人の現狀女性の適職、外婦人の職業案内十一篇。	▲職業選擇上に於ける考察方法、専門學校卒業程度の修練を要する職業外二篇。	▲職業の現在及び將來に於ける有望なるもの百餘種に就き收入待遇其他を掲ぐ。	▲小、中、補習學校事業者の爲八十種の職業を解説。	▲就職の幸運を贏ち得た人達の經驗談及び各會社の採用方針を収む。

政治・社会(社会政策・社会教化)

小谷野口	政治彦	婦人職業の實際	上四六 製入判	365	一、五〇 二、五〇	桃源社	月五	▲婦人の職業案内書で、資格を要しない職業以下五章より成る。
永井	亨	社会政策(一)・社会階級	並菊	230	一、八〇 二、四〇	巖松堂	月四	▲社会政策の見地よりする社会組織及び社会階級の歴史的現的研究。
海野	幸徳	社会政策概論	背菊	457	二、八〇 一、八〇	赤爐閣	月六	▲人間解放と自由への途、社会改良形式としての社会政策外十九章にて論述。
海野	幸徳	日本社会政策史論	洋四六 布入判	426	二、三〇 三、〇〇	赤爐閣	月七	▲社会政策の進化、日本社会政策の起源、社会政策発展の系統外十四章。
下條	康磨	社会政策の理論と施設	背菊	649	六、〇〇 三、〇〇	日本評論社	月九	▲社会思想の史的探究、社会問題と社会運動財貨私有の制限外十五章。
マロ	ロレンス	社会政策と英国民の将来	並四六 製判	80	四、五〇	新月社	月二十	▲トキンビー・ホルン館長マロレンス氏貧乏論の譯にて社会政策の功果に關する批判的研究。
岩崎	卯一	社会統制理論の研究	布菊	356	三、〇〇 四、〇〇	日本評論社	月十	▲社会進歩理論の研究、社会統制理論の研究社会政策理論の出発點の三篇。
文部省	社会教育局	社会統制理論の研究	並四六 製判	74	二、八〇	育社会教	月七	▲昭和五年五月から七月に亘つて實施した壯丁思想調査の概要を輯録す。
水野	和一	社会教育パンフレット(129) ベルギーの社会事情	並四六 製判	41	二、五〇	育社会教	月五	▲人口八百萬の小文民國ベルギーの社会事情を説けるもので、戦後の回復力外九章。
細野	雲外	社会教化と政治	洋菊 布入判	902	三、三〇 三、八〇	巖松堂	月十	▲至尊の皇室の御範行と一般庶民の善行又は社会美談を全國四十餘種の新報から蒐集。
中央	社会教化團體	社会教化と政治	並四六 製判	296	六、〇〇	中央社会教化	月四	▲明治天皇と憲法制定、我國立憲思想の發達東洋思想と政治理想、普通選舉、公民道德等。
關東	社会教育局	社会教化と政治	並四六 製判	142	六、四〇	青年教育	月一十	▲總説、公法、帝國憲法、國家、天皇、國務大臣帝國議會、裁判所、官廳、私法、總説、其他。

政治・社会(婦人問題・两性問題)

水野	正次	婦人問題教程	並新四六 製判	328	六、〇〇	解放社	月十	▲労働婦人と産業の合理化、婦人運動の理論と戦術、婦人の解放と政治の三篇。
鈴木	文史郎	婦人問題の考察	布四六 製入判	278	三、三〇	朝日新聞社	月三	▲婦人問題の發生と沿革、男女の差異と優劣近代文學に現れた婦人問題外九章。
福士	繁吉	婦人問題に関する一考察	並四六 製判	47	二、五〇	育社会教	月三	▲幸福とは何ぞや、大きな力の存在、生活と経済、國難と婦人外六章。
立教	大学	婦人参政権の理論と實際	布四六 製入判	265	一、三〇 二、三〇	白水社	月三	▲婦人参政権の理論的研究、婦人参政権に對する反對論外三章。
富岡	瑠璃子	當來社会と婦人の覺醒	背四六 洋布入判	341	一、〇〇 一、三〇	丁酉出版社	月九	▲男女平等論に筆を起し政治法律倫理等の諸方面に亘り婦人の使命を論述す。
淡	徳三郎	共産主義・結婚・家族論	並四六 製判	411	一、五〇 一、八〇	大衆公論社	月二	▲リヤザノフ、クツエトキン、スミス、メルケル等の論文を譯し收む。
山本	宣治	現代の两性問題	並四六 製判	352	一、〇〇 一、三〇	ロゴス書院	月四	▲两性問題の本質と現代、性的身分の分類、性的眞正プロレタリア其他。一普及版。
山本	宣治	産兒調節論	並四六 製判	357	一、〇〇 一、三〇	ロゴス書院	月四	▲結婚戀愛篇、産兒調節篇の二篇。附録國際産兒調節同盟夢物語。一普及版。
正木	不如丘	現代生活の結婚	布四六 製入判	268	一、〇〇 一、三〇	東京堂	月二十	▲生理的考察、心理的考察、社会的考察に大別して實際的に説いた結婚改造論。
安部	磯雄	産兒調節	布四六 製入判	237	一、〇〇 一、三〇	東京堂	月二十	▲新マルサス主義とは何ぞや、出産に對する迷想、新倫理觀其他十一章にて論述。
松本	悟朗	女性と社会	並四六 製判	401	一、三〇 一、八〇	一元社	月六	▲性的特徴及び性質の一般的解剖、古代における婦人問題外五章。
尾瀬	敬止	母性と社会	並四六 製判	317	一、三〇 一、八〇	ロゴス書院	月十	▲母性の國家保險を必要とする諸理由、出産の減少と子供の死亡外七章。

新聞・ジャーナリズム・出版

中山 藤野野矢	北野 吉野	千代田 藤野野矢	寺田 四郎	喜多 壯一郎	美土路 昌一	大阪毎日新聞	杉村 廣太郎	外野 八德氏	東京朝日新聞	整理部			
世界新聞鳥瞰論	英國新聞論	新聞全集(2) フランス革命前後の動搖	新聞全集(3) フランス新聞の動搖	新聞全集(4) フランス新聞の動搖	新聞全集(5) フランス新聞の動搖	新聞人の打明け話	新聞の出来るまで	新聞の出来るまで	新聞の出来るまで	新聞の出来るまで			
洋函六	洋函六	洋函六	洋函六	洋函六	洋函六	洋函六	洋函六	洋函六	洋函六	洋函六			
247	124	104	274	216	278	305	278	305	278	305			
一、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇			
内外社	内外社	内外社	内外社	内外社	内外社	内外社	内外社	内外社	内外社	内外社			
月二十	月七	月三	月三	月二	月二	月四	月三	月四	月二	月二			
▲世界主要國の新聞界を大観せる論文を収めたもので、現代新聞論(緒方竹虎)外七篇。	▲初期新聞の小史、英國最初の新聞、新聞の開放、第十九世紀の初期其他にて論述。	▲革命前の社會思想と出版、暴歴の革命的前奏曲外四章にて論述。	▲公共機關としての新聞が社會に與へる貢獻及弊害との實際其他を論述。	▲新聞人の榮屋話を収録せるもので、樞府を採る(西村公明)外廿五篇。	▲新聞紙の發生、新聞紙の變遷、ニュースの意義とその類別外六章。附總索引。	▲新聞の發達史(姫野徳一)新聞廣告の研究(徳満喜義)外十章。	▲新聞製作に就て説明した「新聞記事の編輯」と記事の主題に説いた「記事の内容」の二篇。	▲如何にして新聞の嘘が生れるか、何うして嘘を防ぐか外一篇。	▲宣傳の社會意識に於ける基本、宗教の發生に於ける宣傳意識外七章。	▲日本新聞界最近一年間の記録、全國新聞社通信社及び新聞關係業一覽等。	▲ジャーナリズム(平林初之輔)外十三篇。	▲出版界一年史(昭和五年度)昭和五年度出版圖書總目録外五部。	▲出版界、一年誌、昭和五年度出版物總數、圖書類別目録其他を網羅す。

社會諸相

内海 丁三	永代 静雄	内外 社編	東京 堂編	東京 書籍商組合編	梅原 北明編	梅原 北明編	梅原 北明編	赤神 良讓	今和 次郎	吉田 謙吉	
戦争と宣傳	日本新聞年鑑	現代ジャーナリズムの理論と動向	出版	出版	近代世相 第一卷	近代世相 第二卷	近代世相 第三卷	近代世相 第四卷	現學探集	現學探集	
洋函六	洋函六	洋函六	洋函六	洋函六	洋函六	洋函六	洋函六	洋函六	洋函六	洋函六	
188	350	316	1016	700	548	378	560	428	324	322	
一、〇〇	三、〇〇	一、八〇	一、〇〇	一、〇〇	二、八〇	二、八〇	二、三〇	一、二〇	三、六〇	三、二〇	
研究會	新聞研究所	内外社	東京堂	東京書籍商組合事務所	白鳳社	白鳳社	白鳳社	新潮社	建設社	建設社	
月十	月二十	月二十	月四	月六	月九	月二十	月七	月七	月二十	月二十	
▲如何にして新聞の嘘が生れるか、何うして嘘を防ぐか外一篇。	▲宣傳の社會意識に於ける基本、宗教の發生に於ける宣傳意識外七章。	▲日本新聞界最近一年間の記録、全國新聞社通信社及び新聞關係業一覽等。	▲ジャーナリズム(平林初之輔)外十三篇。	▲出版界一年史(昭和五年度)昭和五年度出版圖書總目録外五部。	▲出版界、一年誌、昭和五年度出版物總數、圖書類別目録其他を網羅す。	▲慶應より大正までの新聞重要記事の集成で錦旗使命丸其他。	▲跡見女學校の閉校以下明治廿一年より廿九年迄の新聞重要記事の集成。	▲慶應より大正までの新聞重要記事を集成せるもの。	▲通巻補遺、近代暴動反逆變亂史、近代刺客暗殺史。	▲近代社會相の特性たる獵奇の現象を描けるもので、刺戟生活の氾濫外十七篇。	▲考現學總論、考現學探集、斷片、考現學雜考及雜文一部より成る。

政治・社會 (政治社會年鑑・統計)

村島 歸之	カフエー考現學	並四六 製判	一、〇〇	日日書房	月二十	▲近代人の享樂對象、カフエー街銀座、遊廓文化よりカフエー文化へ外甘章。
葛岡 常治	騷音 (民衆文庫50) 音考	並四六 製判	三〇	育社協會教	月四	▲都會の騷音、騷音と産業、騷音問題の研究騷音防止の對策外五章にて論述。
安藤 更生	銀座座 細見	上四六 製判	二、七〇	春陽堂	月二	▲銀座時代、銀座の光被外十二篇。銀座とアメリカカムニズムの光被外十二篇。
室伏 高信	銀座座 高度文明解	並四六 製判	一、五〇	夜明け社	月六	▲今日の高度文明を解剖批判せる銀座風景八十九篇及エッセイ卅一篇を収む。
小南 又一郎	放火と犯罪の動機	並三六 製判	四、五〇	京都人文書院	月十	▲放火に對する學說の變遷、放火の動機又は原因論、結論の三篇。
速水 寅一	明暗 近代色	上四六 製判	一、四〇	赤爐閣	月七	▲カメラに寫つた現代の諸方面の傾向を描けるもので、新婚列車外六十三篇。
東京朝日新聞社	明暗 近代色	上四六 製判	一、四〇	山洞書院	月六	▲嬰兒を殺すまで、講された嫁、老舖の娘、貧しければ外五十一篇の法廷哀話。
高田 勇助	法廷裁きの廷に立つ女	並四六 製判	一、〇〇	萩原星文館	月二	▲エロと神祕の都、編蝠官吏、靈の國、色氣以上、髯女郎等社會各相の裏面物語七篇。
前島 天狼	社會諸相 肉弱食	洋四六 布判	一、五〇	日實業社	月九	▲賣淫沿革史、公娼制度の現狀、廢止論、廢娼運動史等より成る公娼問題の研究書。
伊藤 秀吉	紅燈下の彼女の生活	洋四六 布判	一、二〇	岩波書店	月一十	▲世界大戦後十有二年の世界政治經濟の大觀を収録せるもので、土地人口外四十項。

政治・社會 (社會科學辭典)

社會科學辭典

大原 社會問題	日本労働	並四六 製判	三、〇〇	同人社	月二十	▲労働者状態、労働施設及對策、社會思想家の運動、國際労働問題外二部。
協同會調査課編	海外労働	並四六 製判	一、五〇	協同會	月四	▲労働運動及労働者團體、労働法制、雜、海外労働日誌の四部及び附録。
野々宮 三夫	世界プロレタリア年表	布判	一、八〇	希望閣	月九	▲世界プロレタリア運動年表及マルクス、エンゲルス、レーニンの年譜、著作年表を収む
小宮 義孝編	日本プロレタリア編年史	並四六 製判	一、〇〇	同人社	月二十	▲明治元年から昭和五年迄の本邦社會運動上注意すべき事項を年次順に編纂せるもの。
内閣統計局編纂	第五十回日本帝國統計年鑑	洋四六 布判	二、〇〇	式丸會善社株	月二十	▲第五十回、即ち昭和六年刊行の統計年鑑。
内閣統計局編纂	労働統計	並四六 製判	一、三〇	式丸會善社株	月九	▲統計の中にて近來最重要視せられる労働統計の近々版。
日露貿易通信社編	日露	洋四六 布判	五、〇〇	日露貿易社	月二	▲邦文欄—日露關係の全記録及露國の實相、露文欄—日本國現情及日露關係。
年史刊行會	昭和五年史	布判	二、八〇	年史刊行會	月二	▲年史の三回目にて、世界大觀より日常の小事に到るまで昭和五年の鳥瞰圖。
朝日新聞社編	朝日	並四六 製判	二、〇〇	朝日新聞社	月九	▲レーニスト・ニエリス、土地人口、國立公園問題、趣味と娛樂其他。
時事新報社編	時事	並四六 製判	二、五〇	時事新報社	月九	▲憲法、皇室、土地人口、政治、國防、外交財政、金融、外國貿易其他。
國民新聞社編	國民	並四六 製判	二、七〇	啓成社	月十	▲帝國憲法、宮廷、土地、天文、氣象、人口政治、外交、世界の國々其他。
東京市政調査會編	日本都市年鑑	並四六 製判	三、〇〇	東京市政調査會	月一	▲凡ゆる點に關する各都市の比較研究書。

政治・社會（社會科學辭典）

山 川 亮	本 莊 可 宗	伊 藤 欽 二	田 所 輝 明 編	川 所 輝 明 編	鶴 沼 直	山 洞 書 院 編
サイス 社會運動人名辭典	社會運動辭典	英和社會科學用語新辭典	社會運動辭典	社會科學辭典	社會科學小辭典	プロレタリア科學辭典
並袖 製珍	並袖 製珍	洋新 布入判	並四 製判	布袖 製珍	並三 製判	並三 製判
335	151	444	487	268	115	515
五 四〇	三 四〇	三 二〇〇	一 二〇〇	三 四〇	二 一〇〇	六 五〇
解 放 社	解 放 社	太 陽 堂	白 揚 社	解 放 社	誠 文 堂	山 洞 書 院
月 九	月 三	月 七	月 三	月 一十	月 一	月 七
▲人類社會の社會運動及革命運動の戦線に活躍せる代表的人物を各國に涉りて蒐集するやうに釋ける辭典。	▲新聞や雜誌を讀み乍ら直ぐ引いて意味が分るやうに釋ける辭典。	▲社會科學上の専門術語及多くの關係語を網羅し英和、獨和、佛和の三部にて解説す。	▲社會運動に關する多くの語を網羅し解釋したるもの。	▲五十音順に收録せるコンサイス社會科學辭典。附プロレタリア曆外三篇。	▲社會科學必知のテーマを網羅し五十音順に配列して解説せるもの。	▲プロレタリアに必要なあらゆる語彙を收録して解釋を施す。

一〇、法律

法律（法理・法律一般）

奈 良 正 路	高 柳 賢 三 著	穂 積 陣 重	穂 積 重 遠 編	末 包 留 三 良 著	山 之 内 一 郎 著	山 之 内 一 郎 著	山 之 内 一 郎 著
法律學の根本問題	法律史	復讐と法律	春木先生還曆祝賀論文集	英國法提綱	ソヴエト法論	ソヴエト法論	ソヴエト法論
洋四 六	洋四 六	上 六	洋四 六	洋四 六	布四 六	布四 六	布四 六
462	349	350	679	236	445	387	305
二、五〇	二、三〇	二、五〇	六、二〇〇	二、一八〇	三、一〇〇	二、一八〇	二、一八〇
日 本 評 論 社	岩 波 書 店	岩 波 書 店	有 斐 閣	出 立 命 館	希 望 閣	希 望 閣	希 望 閣
月 十	月 二	月 三	月 一	月 六	月 二十	月 七	月 五
▲法の基本的な觀念の問題を検討した書で、法源に關する諸問題外五章。	▲法律と歴史、倫理的及び宗教的法律史觀、政治的法律史觀外四講。	▲法の起原に關する私力公權化の作用、差押は民事法の起原なり、刑法進化の話等。	▲アツシリア法書及ヒツタイツ法典（中田憲）以下十六大家執筆の論文十六篇收載。	▲成文法と普通性、普通法と衡平法、人及人事關係、財産外四章にて論述。	▲第一卷はソヴエトの國法、行政法、財政法を譯述せるもの。	▲婚姻及親族法（一九二六年法典の婚姻法外四節）經濟法（協同組合外十章）。	▲労働法（労働組合の法的地位外十五節）土地法（土地法の對象外十二節）の二篇。

法律(法理・法律一般)

山名	水野	福井才一	牧野	勝本	大森	兒島	花井	花井	堀口	奈良	渡邊	ドロンケ
壽三	嘉藏	一郎編著	英一	正晃	洪太	惟謙	卓藏	卓藏	壽年	正路	省三	法及び國家理論研究所編
航	空	帝國司法裁判管轄全書	法律の過去現在及將來	法學挿話	裁判異譚	大津事件顛末錄	訟庭	訟庭	年齢と權利	入會權論	人格法學	陪審法廷に於けるマルクスとラツサール
洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六
布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判
604	578	438	57	320	536	123	610	627	250	412	386	218
五、八〇	二、八〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	一、八〇	三、〇〇	三、〇〇	一、五〇	三、五〇	三、五〇	八〇
有斐閣	文録社	酒井書店	育社協會	日本評論社	日本評論社	春秋社	春秋社	春秋社	崇文堂	萬里閣	杉山書店	希望閣
月六	月二十	月二	月九	月十	月五	月二十	月十	月一	月十	月四	月一十	月二十
<p>▲ケルン陪審法廷に於けるカール・マルクス ウエルザナンド・ラツサールの二篇。 ▲權利の意義及特色、人格法學の創設、人格 法學と社會的分業外廿一章。 ▲入會權の意義とその社會的職能、入會權の 史的發展外六章にて論述。 ▲年齢と法令の關係を明かにせるもので、精 神年齢と法律外廿八章。 ▲明治裁判史を色彩する詩人寧齋殺し野口男三 郎の骨肉事件の辯論。附録管轄論。 ▲刺客事件を論ず。附録訟庭印象記。 ▲大津事件の梗概、内閣の干渉と司法權獨立 の危機、大津事件の結果と餘味外二篇。 ▲被告人の話外卅三篇。 ▲法律から見た漱石の一面、チュエリリツプと 法律。法律家としてのゲイテ外十五篇。 ▲法律における四つの要素、法律における三 つの問題の二章。 ▲我帝國裁判所の一切の裁判權行使の範圍と 限界とを系統的に記述す。 ▲各市町村に就て其の管轄裁判所、登記所及 び其所在地を明記せるもの。 ▲現行航空條約並に空戰法規を解釋説明せる 書で、航空法の起源外十四章。</p>												

法律(憲法・選舉法)

藤井	都富	佐藤	憲警	高窪	高窪	安田	岡田	峰島	岩崎	穂積
新一	富佃	丑次郎	研究學會編	評論社	評論社	正群	文秀	新志	高敏	重遠
日本憲法論	英國憲法要論	帝國憲法講義	憲法	法律年鑑	法律年鑑	水に關する學說・判例・實例總覽	水法論	法律相談	法律實話	法律五話
洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六
布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判
615	468	333	200	1986	1851	701	498	350	482	58
三、八〇	三、五〇	二、八〇	八〇	九、〇〇	九、〇〇	六、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	二、〇〇
有精堂	巖松堂	有斐閣	大學書房	法律評論社	法律評論社	松山房	常盤書房	千倉書房	岡村書店	育社協會
月十	月十	月五	月十	月二十	月一	月九	月二十	月六	月二十	月五
<p>▲我が帝國憲法を論述しその比較研究上の對 照たる英米獨三國の憲法に論及す。 ▲英國憲法を純法律學的に取扱つたもので、 英國憲法の特色外八章。 ▲國家、統治の主體、統治の客體、統治の機 關其他にて論述。條文索引。 ▲統治權の主體統治權の客體憲法上の機關統 治權の作用と分ちて憲法一般を講述。 ▲最近一個年間の學說判例決議訓令回答の要 旨及諸統計新法令等法律に關する事項を收む ▲法曹令の決議を明治三十一年以降昭和五年 末迄のもの法令別に集載してある。 ▲複雜なる水の法律關係たる學說、判例、實 例等を蒐録せるもの。 ▲最近一個年間の學說判例決議訓令回答の要 旨及諸統計新法令等法律に關する事項を收む ▲法曹令の決議を明治三十一年以降昭和五年 末迄のもの法令別に集載してある。 ▲平日に説いた穂積博士のラヂオ放送を記述 したものである。 ▲注目警戒すべき現下の世相、下宿屋の主人 と下宿の學生との悶着外九十二篇。 ▲日常生活の諸問題が如何に法律に適用され 又どう解決されるかを具體的に説ける書。 ▲水法問題に就て論述せるもので、河川の觀 念及其の法律上の性質外十五章。 ▲複雜なる水の法律關係たる學說、判例、實 例等を蒐録せるもの。 ▲最近一個年間の學說判例決議訓令回答の要 旨及諸統計新法令等法律に關する事項を收む ▲法曹令の決議を明治三十一年以降昭和五年 末迄のもの法令別に集載してある。</p>										

法律(國際法・民法・商法)

内務省警保局編	選舉法質疑並判決例(通)	並編	製判	46	良書普及會	月九	▲選舉に關する内務省司法省の回答並取扱例及判決例の昭和五年總選舉以後を蒐録する。選舉運動條項の解釋、選舉罰則、選舉に關する一般規定の三章三十四節。
長谷川了	府縣會議員選舉實典	並編	製判	155	日學本會	月八	
野見澤	國際法の基本問題	洋函四六	布入判	255	岩波書店	月四	▲國際法哲學(フエール)哲學的理論と國際法(パウランド)外一篇。
大澤	國際法秩序論	洋函菊	布入判	640	岩波書店	月二十	▲國際法秩序の本質に關する研究で、國際法秩序と其の基礎外五章。索引。
立作太郎	戰時國際法論	背函菊	革入判	633	日本評論社	月四	▲戰時法規に就いて論及せるもので、交戦法規、中立法規の二篇四十四章。
沼田照義	現代の法律	洋函四六	布入判	291	社會書房	月六	▲私法殊に民事關係の法律に就て述べたもので、親族法外四編。
小池隆一	日本民法總論	總函菊	布入判	436	清水書店	月三	▲表題の如く日本民法の總論編を解釋せるもの九章十三節二十五款三十六項。
小池隆一	日本親族相續法論	洋函菊	布入判	175	清水書店	月四	▲親族相續法に關する知識を闡明せるもので親族法、相續法の二編十八章。
小池隆一	日本債權法各論	洋函菊	布入判	270	清水書店	月四	▲債權法各論に關する一般の知識を説けるもので契約外六章。
三浦信三	契約各論講義要領	並編	製判	180	有斐閣	月九	▲附與、買買、交換、消費貸借、使用貸借、貨貸借、雇傭外七節にて論述。
東手彦	債權法總論	並編	製判	219	有斐閣	月五	▲債權の性質、債權の發生原因、債權の效力債權の引受外四章にて論述。

法律(民法・商法)

中島弘道	債權總論・契約總論	並編	製判	221	嚴翠堂	月一十	▲契約、事務管理、不當利得、不法行為、留置權、先取特權、質權、抵當權。
穂積重遠	債權各論及擔保物權法	並編	製判	154	有斐閣	月九	▲朝鮮の親族法及び相續法の原理を究明し廣く舊規慣例を蒐集して精細な説述を加ふ。
吉武繁	朝鮮親族相續法要論	布函菊	裝入判	523	嚴松堂	月二	▲大正九年以來の學說判例決議訓令回答等を網羅し條文目次及イロハ索引を附す。
高窪喜八郎	法律學說物權編	洋函菊	布入判	1484	法律評論社	月六	▲總則、會社、商行爲、手形、海商の五編に分ち平明に説明したるもの。
西本辰之助	商法概論	背函菊	革入判	856	嚴松堂	月十	▲商法史概説、商の企業の主體、商人の補助機關、商業登記外六章にて論述。
藤優美	商法總論	布函菊	裝入判	350	敬文堂	月九	▲保險法(保險の意義外十八章)手形法(手形爲外廿二章)海商法(船舶外九章)。
水口吉藏	商法要論	洋函菊	布入判	496	有斐閣	月六	▲法律解釋の價値の標準、合名會社員の持分を論ず、取締役の責任解除外十八篇。
水口吉藏	商法論叢	洋函菊	布入判	606	萬里閣	月二	▲我商法緒論及び總則に付其大意を記述せるもので、緒論外一篇。
栗栖赴夫	商法總則大意	並編	製判	131	啓明社	月三	▲今年七月下旬法制審議會の議了した商法改正要綱の通俗的紹介を試みたもの。
松本燕治	商法改正の話	並編	製判	143	千倉書房	月一	▲爲替手形及び約束手形の統一法を制定する爲めの條約外三章。
大橋光雄	新統一手形法諸條約正文	洋函菊	布入判	110	有斐閣	月七	▲不動産法制の不備、不動産の證券化、抵當證券法總論外一章にて論述。附録二章。
堀武芳	抵當證券法釋義	洋函菊	布入判	288	嚴松堂	月十	▲抵當證券法の制定、抵當證券法の效力、抵當證券法の特質外十五章。
水本信夫	抵當證券法要義	洋函四六	布入判	258	大同書院	月九	

平尾廉平編	長島毅	關島毅	谷井辰藏	荒川五郎	新井正三郎	森類一	森淵清雄	小野正一	戸張正胤	小町谷操三	小町谷操三	山戸嘉一
抵當證券法及關係法規集	抵當證券法及關係法令註解	特殊抵當權の設定と實行手續	新不動産抵當證券法解説	抵當證券法詳解	不動産登記手續	改正不動産登記法註解	銀行取引法概論	共同海損の理論と實務	海商法 第二卷	海商法 第二卷	船舶衝突論	
洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六
布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判
569	454	531	239	254	1250	371	316	354	354	490	611	354
三、三〇	三、七〇	四、〇〇	一、三〇	一、四〇	六、六〇	三、〇〇	二、五〇	三、八〇	三、八〇	三、八〇	三、八〇	三、八〇
大同書院	清水書店	巖松堂	清水書店	自治館	良書普及會	巖松堂	巖松堂	有斐閣	有斐閣	有斐閣	有斐閣	有斐閣
月九	月十	月二十	月五	月五	月二十	月十	月四	月五	月五	月四	月九	月二
▲抵當證券法並に新設關係法令及び參考法規と大審院の主要判例要旨を蒐集按排す。	▲民法以外の特別法令にて認められたる特殊の權利又は財團を目的とする抵當權の解説。	▲新制の表題法令を逐條解釋し之に衆議院委員の質疑應答を配せるもの。	▲總論—本法の概要、各論—逐條解釋、本法の立法審議外一篇にて論述。	▲改正の不動産登記法及其の細則並に抵當證券法を詳釋し各種の申請書式手續記載。	▲總則、登記所及び登記官吏、登記に關する帳簿、登記手續、抗告に於ち逐條的に解説。	▲銀行取引概説、預金、當座勘定取引、貸付、信用開始契約、手形割引、爲替取引等。	▲損害海損、共同海損の負擔價格、共同海損の精算外六章、附録六章。	▲海商法の獨立性、海上賣買論、最近の海事判例と其變遷外四篇。	▲主として船舶所有者に關係あるものを収録せるもので、和船航海に就て外四編。	▲船舶衝突の意義、船舶衝突の原因及效果、衝突債權の保全及擔保外九章。		

憲警研究學會編	岩本勇次郎人	三ヶ尻好郎	瀨木辰夫	谷井辰藏	竹野三郎	三戸重太郎編著	渡邊彰平	平井彦三郎	横山金太郎	小野清一郎	牧野英一	憲警研究學會編
刑事訴訟法	民事訴訟法要綱	民事訴訟法要綱	民事訴訟手續及其裁判	人事訴訟手續要覽	新民事訴訟法釋義	新民事訴訟法判例總覽	新民事訴訟手續詳解	刑事補償法釋義	刑事補償法解釋	刑の執行猶豫と有罪判決の宣告猶豫及び其他	刑法における法治國思想の展開	刑法
並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六
判判	判判	判判	判判	判判	判判	判判	判判	判判	判判	判判	判判	判判
300	847	227	298	566	568	334	135	112	536	532	210	135
八〇	六、三〇	一、五〇	二、五〇	四、五〇	五、〇〇	一、八〇	六、三〇	四、五〇	二、五〇	三、八〇	八、〇〇	六、三〇
大學書房	巖松堂	富文館	常盤書房	有斐閣	巖松堂	山洞書院	松華堂	清水書店	有斐閣	有斐閣	大學書房	松華堂
月三	月八	月八	月九	月十	月六	月六	月四	月四	月十	月五	月七	月四
▲第一編緒論、第二編本論、第三編私訴と分ちて刑事訴訟法一般を講述せるもの。	▲總論、民事訴訟の主體、訴訟行爲、訴訟手續、第一審の訴訟手續、上訴手續外二篇。	▲民事訴訟、人事訴訟手續、刑事訴訟、稅務に關する異議の申立の四編にて説述。	▲人事訴訟事件の手續要覽で、人事訴訟の特質、婚姻事件外八章。	▲學理及び實際を基調として新民事訴訟法を註釋せるもので、中卷は民事訴訟法。	▲改正法に關する學說や判例書を其各條下に按排せる書。	▲新民事訴訟法の平易なる解説書で、訴訟主體、訴訟手續外五編。	▲刑法各論と分ちて刑法一般を講述せるもの。	▲刑法に關する基本問題外一部。	▲刑の執行猶豫と有罪判決の宣告猶豫、未決拘留に關する諸問題外七篇。	▲第五十九議會で通過し己に發布された主題の法律を逐條解釋せるもの。	▲實體規定、手續規定、軍法會議の補償の三章。附帝國議會速記錄拔萃。	

法律(行政法・諸法・警察法)

大審院判事 細野 長良	東京地方裁判所書記 新居 彌市	東京地方裁判所判事 前野 順一	民法、判例 研究会編	法律新報社編 新判例	法律新報社編 判決要録	法律新聞社編 大審院裁判例	海員審判所編 昭和四年海員審判所判決録	憲警研究學會編 行政法	東京市政調査會編 公益企業法規類集	東京市政調査會編 公益企業法規要項比較	山内省社會局編 救貧法制度要義
青函菊	洋函菊	背函菊	布函菊	革函菊	蘭函菊	並菊	並菊	並菊	布菊	並菊	並菊
513	230	1009	406	846	1650	182	426	150	1700	120	541
四、八〇	二、〇〇	五、九〇	三、〇〇	一、〇〇	六、三〇	一、五〇	四、六〇	七、〇	七、七〇	〇、五〇	三、八〇
巖松堂	巖松堂	松華堂	有斐閣	法律新聞社	法律新聞社	法律新聞社	日學會	大學書房	東京市會政	東京市會政	良書普及會
月二十	月一十	月五	月九	月一十	月一十	月二十	月六	月六	月六	月二十	月三
▲第二編訴權及訴の中の訴訟行為と辯論の準備の二章を取扱ふ。	▲訴狀・控訴狀及上告狀、申立・申出及申請、印紙不貼用書類の無効の三編に分ち詳説。	▲改正後の強制執行に就て述べたもので、強制執行の觀念其他。	▲昭和四年度大審院判例集に登載された民事事並に民事訴訟關係の判例を檢討批判す。	▲昭和三年五月より同六年四月に至る迄の大審院控訴院其他の判例の要旨を摘録せる書。	▲昭和五年中の判決訓令回答通牒決議を網羅し其要部を摘録して法條別に類纂。	▲大審院民事判例の内主として破毀判例を蒐集したるもの。昭和五年度の分。	▲昭和四年に於ける海員審判所判決を全部採録せるもの。海難に關する唯一の公記録。	▲第一編總論、第二編行政組織、第三編行政救済と分ちて行政法一般を講述せるもの。	▲公益企業法の制度運用に關係ある法規類の全集、全十七事業六百三十餘事項を收む。	▲水道條例瓦斯事業法電氣事業法軌道法自動車事業法地方鐵道法規則の比較。	▲各種救貧法制度の全般に亘つて夫々立法の精神と運用上の諸問題とを説述す。

法律(行政法・諸法・警察法)

山内省社會局長 山内 巖	法學博士 孫田 秀春	帝國法制會編 行現土木關係法令集	工務局長 矢野 兼三	工務局長 藏前 工務所編	法學士 沼田 照義	全國國民組合顧問 色川 幸太郎	前社會事務官 柴田 義彦	九州帝國大學助教授 藤口 豊太郎	協調會農村課編 小作立法に關する重要問題	布施 辰治	布施 辰治	
並菊	並菊	並菊	並菊	並菊	並菊	並菊	並菊	並菊	並菊	並菊	並菊	
48	656	306	402	875	159	296	144	946	231	219	177	
二、五	五、〇〇	一、一〇	一、二〇	三、五〇	六、六〇	六、八〇	六、六〇	五、〇〇	四、〇〇	四、〇〇	四、〇〇	
育社協會	有斐閣	鐵道圖書局	三省堂	太陽堂	社會書房	共生閣	弘文館	市谷書院	協調會	淺野書店	淺野書店	
月八	月二	月二	月三	月四	月九	月三	月四	月一	月三	月一十	月一十	
▲昭和四年四月二日公布せられた救護法の大意について述べたもの。	▲總論(勞働法基礎概念外九章)各論(勞働調整外一章)一改正版。	▲本書は工事に關する法令を網羅し各條文の從屬的命訓令告示通牒及細則等をも掲ぐ。	▲工場と災害、災害對策、工場主との責任扶助の原因、扶助の種類外五章。	▲市街地建築物法並に其附帶命令に關し意義沿革其他を解説せるもの。一改正版。	▲立憲政治と言論の自由、演說會の取締、解散、檢束外二篇にて實際を闡明す。	▲無産階級運動を取締る刑罰法規、警察を中心とした手續法規外一章。	▲勞働組合の目的と勞働組合法適用の範圍、勞働組合の設立規格外十六章。	▲産業組合法研究(本質とその法律的性質外九章)産業組合の組織構成任務(五章)。	▲中巻は第一編の續小作制度の一章及人力に關する法制、資金に關する法制等を收む。	▲小作料小作權賠償作難料小作委員會制度請負耕作制度等小作問題の重要事項を收録。	▲家賃値下運動とその階級的意義、借地法解説、借家法の解説外十八章。	▲小作爭議の發展と支配階級の彈壓強化、小作料の性質とその限度外十三章。

法律(行政法・諸法・警察法)

松尾越英	鳥越英二	啓文社法令部編	魚谷新太郎	大知新太郎	清水重夫	武藤運十郎	瀨木辰夫	大日本判例研究会編纂部	布施辰治編著	水本信夫	河野久高	唯野久高	布施辰治	布施辰治
新警察辭典	警察辭典	警察法規類典	加除戸籍法實例大全	自治警察法類典	交通整理の原理	執行法便覽	借地借家法の實際知識	借家法の新解釋と借地借家調停法三十一條	家賃解雇手當借金損害賠償支拂命令等と如何に戦ふか	借地法と借家法	地租法講義	借金の階級的意義	借金の階級的意義	借金の階級的意義
洋三六	洋三五	加三六	上四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六
521	940	1400	302	492	236	146	141	270	292	717	178	188	178	188
二、三〇〇	一、三〇〇	五、三〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇	六、〇〇〇	一、〇〇〇	六、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇
松華堂	啓文社	自治館	教育研究會	清水書店	借家人社	富文館	大日本判例研究会	春陽堂	大同書院	日本法律	日本法律	日本法律	日本法律	日本法律
月二十	月九	月八	月八	月二	月十	月七	月一	月一	月七	月二十	月一十	月二十	月二十	月二十
<p>▲月賦拂住宅制度をいかに戦ひ抜くか、保險會社といかに戦ふか外一篇。附録保險法。</p> <p>▲借金の階級的意義、借金對策の基礎理論、借金と債權法との關係外四章。</p> <p>▲地租法の全條文及び直接地租に關係する耕地整理法の條文に就て解説を施す。</p> <p>▲借地法、借家法、其の調停法の法理と實例とを簡明にし關係法令其の他を附録してある。</p> <p>▲借地法と借家法以下廿四項にて無産大衆の爲に法律問題を解説す。</p> <p>▲家を貸すには如何なる方法で貸せば安全か借家法の解釋、民訴の印紙代外七章。</p> <p>▲借家法釋義、實際爭議に於ける法律上の書式外二編にて説述。</p> <p>▲家主の攻撃に對して如何に戦ふべきかその戰術を説く。</p> <p>▲強制執行法、競賣法中の難問題を捉へて研究解釋したもの。逐條順に配列。</p> <p>▲道路の交通整理、運轉手の注意と義務、自動車の速力制限、自動車交通事業法概論、罪則。</p> <p>▲戸籍事務の管掌、戸籍簿、戸籍の手續記載届出、戸籍の訂正、附録届書式。</p> <p>▲第五十九議會に於て改正新設せられた法律勅令省令の警察に關するものを網羅す。</p> <p>▲警察法總論及特高、高等、等二百七十餘種の警察關係法令中より抽出して解説す。</p>														

法律(税法・商標・特許法)

中井一鶴	野口時三編	帝日通信社編	三宅發士郎	文進堂編輯部編	杉村章三郎譯	良書普及會編輯部	星野直樹	帝國警務講習會	實來正芳	樞田忠美	城南隱士
用新案活用した出願法	正特許局法規類集	商標、類似商品例集並特許及實用新案分類目次	日本商標法	正特許意匠商標法	獨逸租稅法論	正新稅法提	日本租稅法概論	巡查看守消防手受驗案内	探偵常識	犯罪搜查論	本位違警罪即決例詳解
洋四六	洋三五	布四六	布四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六
247	350	180	1139	335	505	400	251	314	520	466	184
二、一八〇	二、三〇〇	一、三〇〇	八、〇〇〇	一、三〇〇	四、〇〇〇	八、五〇〇	一、〇〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	六、五〇〇
誠明堂	帝日通信社	許帝書日院特	嚴松堂	文進堂	有斐閣	良書普及會	日本評論社	文進堂	良榮堂	警眼社	松華堂
月五	月六	月六	月三	月二	月五	月五	月一十	月二	月十	月二十	月五
<p>▲租稅の意義、租稅法の限界、所得稅、清涼飲料稅、印紙稅外廿二章。</p> <p>▲改正の國稅及地方稅並に其の附加稅の全般に互り蒐錄せる昭和六年現在の租稅法規集。</p> <p>▲租稅法の體系、租稅基礎法、租稅債務關係其他に譯述。附録聯邦租稅法の研究。</p> <p>▲特許法、意匠法、商標法、實用新案、辨理士法を收む。</p> <p>▲緒論、本論、手續論、國際關係の四大編に分ち商標法に關する一切の問題を解明す。</p> <p>▲商標、類似商品相互の區別を明かにした特許關係出願者の參考書。</p> <p>▲大型版の法規集をオフセット印刷として携帶に便せるもの。</p> <p>▲特許法及實用新案法の概念、實用新案の出願、特許出願中の注意外五章にて論述。</p>											

六法・法令・法規集

柴田義彦編著 判例學說要旨 田分冊記入用六法	柴田義彦編著 判例學說要旨 田分冊記入用六法	柴田義彦編著 判例學說要旨 田分冊記入用六法	柴田義彦編著 判例學說要旨 田分冊記入用六法	大同書院編輯部 債權法總論	大同書院編輯部 民法總論	山野金藏編 昭和六年新法令集	中文館編 現行小學校令及學事開	滿鐵調查課編 民國十九年東北五省區地方法令	帝國法律研究會 改正地方制度諸法規	良書普及會編輯部 加訂地方制度輯覽	福井才一郎 行現戸籍新法令輯覽
三六 裝入判	三六 裝入判	三六 裝入判	三六 裝入判	三六 裝入判	三六 裝入判	三六 裝入判	三六 裝入判	三五 裝入判	三五 裝入判	三五 裝入判	四六 布判
275	221	79	470	306	396	185	214	450	678	1280	452
二〇〇	二〇〇	一〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	二〇〇	四〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
受驗界社	受驗界社	受驗界社	大同書院	大同書院	大同書院	有斐閣	中文館	滿鐵	泰文館	良書普及會	明倫館
八月	八月	八月	六月	九月	一月	四月	五月	五月	二月	九月	三月
▲各條文毎に判例の要旨其他を附し記入欄を設けたる六法。 憲法編	▲各條文毎に必要なる最近の法曹會決議及び回答通牒其他を附せる六法。 刑法編	▲全法令綜合事項索引其他を附せる六法。 裁判所構成法編	▲物理法に於ける異なる學說を上段と下段とに排して一見學說の比較對照を容易にす。	▲債權法總論に於ける學說の異なるものを上段と下段とに排してその比較對照を容易にす。	▲民法總則に於ける異なる學說を上段と下段とに排して一見學說の比較對照を容易にす。	▲其他改正諸法六十餘條を收載。工業組合法	▲小學校令、小學校令施行規則、小學教育關係諸法規の三部より成る。	▲遼寧省、吉林省、黑龍省、熱河省及び東省特別區の四省一區の法令を編譯したるもの。	▲府縣制市制都市計劃市制町村制地方稅選舉關係地租國稅相續稅印紙稅法其他數百項。	▲市制町村制府縣制同施行勅令省令調令及關係諸法規通告示並に通牒等を收む。	▲戸籍、寄留、民法、非訟、人事及其他の法令並朝鮮臺灣關東州の戸籍關係法令を網羅す。

書式・辭典

石橋進 最新書式寶典	並木信政 最新書式大成	新井正三郎 法律語新辭典	農林省農務局 農會關係法規
四六 布入判	三六 裝入判	三五 布入判	上 判
355	520	500	181
一〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇
藤谷崇文館	泰文館	自治館	帝國農會
三月	九月	一月	三月
▲一般證書契約書、戸籍に關する書式、商事に關する書式其他の書式を收む。	▲日常身邊に起つてくるべき貸借、雇傭其他の書式を容易に利用し得るやう蒐録す。	▲司法上行政のものを用はず一切の法令に付ての法律語を抽出し説明を施せる辭典。	▲農會法及勅令異議の申立、訴訟及施行規則、收支豫算決算、會員名簿の様式等を收む。

アダム・スミス著 竹内謙二譯	竹内謙二著	早川三代治譯	赤松要	石黒定一著	久野豊彦著	村松正俊著	高野善一著	久野善一著	戸野原史朗著	清水元壽著	山内雄	小畑茂夫著	小原喜三郎著
富國上論	富國中論	パレト 數學的經濟均衡理論	ヘーゲル哲學と經濟科學	生産の統制と分配	新勞働政策	失業問題	ダグラス經濟學全集	ダグラスの經濟哲學	新しき管理の下に	經濟の國家統制	アメリカニズム經濟觀	リカード貨幣銀行論集	物富み人富まざるの矛盾
布四半裝幀	布四半裝幀	布四半裝幀	布四半裝幀	布四半裝幀	布四半裝幀	布四半裝幀	布四半裝幀	布四半裝幀	布四半裝幀	布四半裝幀	布四半裝幀	布四半裝幀	布四半裝幀
786	602	200	440	192	159	132	190	267	485	320	433	154	
二〇八	六〇	一、五〇	二、八〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	二、〇〇	一、五〇	三、〇〇	一、〇〇	
改造社	改造社	式會社	同文館	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	千倉書房	春秋社	同文館	千倉書房	
四月	九月	九月	十一月	三月	四月	七月	九月	十月	十月	十月	十月	十月	
▲上巻は「資本の本質その蓄積及び投下に就て」外一篇にて論述。 ▲中巻は諸國民に於ける富裕の進行の差異について外一篇より成る。 ▲經濟理論の數學的解釋。	▲經濟哲學のコントの立場よりヘーゲルの立場へ、經濟科學の綜合的辯證法の二篇。 ▲消費者統制の機構、産業政策の統制、生産の統制、生産と物價外十章。 ▲ダグラス經濟思想への入門書で、危機、目的と方法外五章。	▲アサー・キトスンの失業問題に對する救濟策を譯述せるもの。 ▲哲學、古典的理想の機構、經濟的自由の企圖の三篇にて譯述。	▲經濟的救濟策としてダグラス計劃を推奨し更に一步進んで政治政策の統制に及ぶ。 ▲政治の新舊、英國の貿易とその將來、失業問題、新資本主義外十六章。 ▲米國の經濟霸權、米國覇權の由來、米國繁榮の沿革、アメリカニズムと繁榮。	▲「金の價格」を論じた三つの書翰、金の高き價格銀行券の減價の證據其他。 ▲先づ是迄の經濟學を捨てよ、所有の經濟は即ち金融の經濟外十三章。	▲通貨と公共的統制、金本位と國際收支差額金融とは何ぞや外五章にて論述。 ▲ホートレーの著を基礎に貨幣理論を解説したもので貨幣の論理的生成外三章附録一篇。 ▲購買力平價説、許容相場決定原因、爲替相場形成外十章にて譯述。 ▲貨幣の本質、價值、制度、外國爲替の理論同市場、銀爲替の六章。 ▲物價問題を中心とした經濟諸現象の解説で物價とは何か外十六章。 ▲貨幣制度、貨銀と標準生活、貨銀支拂、貨銀の原理、貨銀差外三章。 ▲日常街頭に於てみる所の諸現象を經濟的見地から記述したもので銀座經濟學外十五章。 ▲事務上業務上の疑問を解決せる書で、財政金融外二篇。附録經濟用語辭典。 ▲今日わが國民生活の不合理不經濟の事實の一部を記載せるもの。 ▲理論科學としての經濟地理學を確定し原始現象と現經濟人との二大編に分ちて精述。 ▲聖書は現代經濟社會を如何に觀るかの問題に關する感想及論說三十篇を收む。								

ミハレフスキ著 筑井朋夫譯	江原萬里	川西正鑑	東京日日新聞社編輯部	前田繁一	小江利得	正田淑子著	牧野輝智	正井敬次	金原賢之助著	宮川貞一郎	立教大學教授	ホオトレイ著
マルクス主義經濟學初步教程	聖書的現代經濟觀	經濟地理學原理	不經濟物語	新街頭經濟學	街頭經濟學	貨銀制度の諸問題	物價の話	貨幣と爲替	爲替相場と物價	金本位制度の理論と實際	景氣と信用	景氣と信用
並四六製判	洋四六製判	洋四六製判	並四六製判	洋四六製判	布四六製判	並四六製判	布四六製判	上四六製判	洋四六製判	布四六製判	洋四六製判	洋四六製判
498	280	700	293	685	364	305	263	330	288	205	275	275
一、三〇	一、二〇	四、五〇	六〇	三、〇〇	一、五〇	一、三〇	二、六〇	二、五〇	一、八〇	一、三〇	一、一〇	一、一〇
南登書房	獨立堂	丁西出版社	刀江書院	日本評論社	千倉書房	萬里閣	朝日新聞社	大同書院	同文館	千倉書房	同文館	同文館
月六	月六	月一	月三	月一	月一	月三	月三	月五	月七	月三	月一十	月一十
▲資本主義社會に於ける生産、價值、剩餘價值、勞働賃銀外十一章。	▲聖書は現代經濟社會を如何に觀るかの問題に關する感想及論說三十篇を收む。	▲理論科學としての經濟地理學を確定し原始現象と現經濟人との二大編に分ちて精述。	▲今日わが國民生活の不合理不經濟の事實の一部を記載せるもの。	▲事務上業務上の疑問を解決せる書で、財政金融外二篇。附録經濟用語辭典。	▲日常街頭に於てみる所の諸現象を經濟的見地から記述したもので銀座經濟學外十五章。	▲貨幣制度、貨銀と標準生活、貨銀支拂、貨銀の原理、貨銀差外三章。	▲物價問題を中心とした經濟諸現象の解説で物價とは何か外十六章。	▲貨幣の本質、價值、制度、外國爲替の理論同市場、銀爲替の六章。	▲購買力平價説、許容相場決定原因、爲替相場形成外十章にて譯述。	▲金本位制度の理論と實際	▲景氣と信用	▲景氣と信用

經濟・商業(日本經濟事情)

白柳 秀湖	閑族財權争奪の卷	洋四六布判	393	一、六〇〇	千倉書房	月二十	▲尾去澤銅山疑獄事件の發端、長閑の番頭から脱皮した實業界の大御所外廿四篇。
小野 武夫	土地經濟史考證	洋四六布判	455	四、三〇〇	巖松堂	月二	▲舊鹿兒島藩の門割制度、舊宇和島藩の獨特制度外四篇。
木村 靖二	農村社會經濟史	並四六製判	658	二、〇〇〇	白揚社	月二	▲氏族支配時代、貴族支配時代、豪族支配時代、武家支配時代外三編。
ラゲレ 一郎著	原始(譯) 財産	布四六製判	578	六、〇〇〇	改造社	月一十	▲ロシアに於ける村落共産體、黄金時代と太古に於ける共同財産外二十五章。
法學博士 誠一	歐洲經濟學史	布四六製判	302	二、五〇〇	春秋社	月一	▲希臘及び羅馬の學說、近世經濟學史外三章附録フイゾクラートの學說の出所。
住谷 悅治	經濟學史の基礎概念	布四六製判	466	六、〇〇〇	改造社	月五	▲經濟學史の基礎概念、資本家的經濟學の成立及び發展の時代其他にて論述。
加田 哲二	獨逸經濟思想史	布四六製判	445	三、五〇〇	改造社	月二	▲ドイツ經濟學發展の大様を描けるもので、カメラリズムの經濟思想外廿一章。
九州帝國大學教授 波多野 鼎	經濟學史概論	洋四六布判	432	三、三〇〇	巖松堂	月九	▲序論、フイゾクラート學派、スミスの經濟學說、マルサスの人口論等學說史的研究。
日本經濟事情							
洪 純一	日本財政經濟論	洋四六布判	504	三、〇〇〇	千倉書房	月二十	▲日本の經濟全般を通俗的に米國人に解説紹介することを目とせる書。
小泉 策太郎	日本經濟變革論	上四六製判	271	一、〇〇〇	先進社	月九	▲經濟變革の鍵、借金解放と資本主義、隨筆として時局を觀る外二篇。
全國經濟調查會編	日本經濟の最近十年	背四六製判	1893	一、五〇〇	改造社	月一	▲農林大臣官房文書課其他全國經濟調查機關聯合會の關係事業の重要なるものを收む。
全國經濟調查會編	日本經濟年誌	背四六製判	856	八、〇〇〇	先進社	月一十	▲昭和五年度に於ける我國經濟上の重要なる諸問題四十二項目を採り收めたもの。

經濟・商業(日本經濟事情)

東洋經濟新報社編	日本經濟年表(昭和五年)	並四六製判	328	一、六〇〇	新東洋經濟社	月二	▲金の問題と現恐慌の原因、現恐慌と朝鮮及臺灣の農業外一編。附録重要統計表其他。
東洋經濟新報社編	日本經濟年表(昭和四年)	並四六製判	311	一、〇〇〇	新東洋經濟社	月五	▲日本經濟と滿洲問題、恐慌下に於ける事業社會の基礎外一編。附録重要統計表其他。
東洋經濟新報社編	日本經濟年報(第五輯)	並四六製判	330	一、〇〇〇	新東洋經濟社	月八	▲第五輯は歐洲恐慌の襲來と世界經濟の前途外二部十七節より成る。
東洋經濟新報社編	日本經濟年報(第六輯)	並四六製判	343	一、〇〇〇	新東洋經濟社	月二十	▲英國金本位停止と國際金融恐慌の發展、滿洲事變と極東の國際關係外一編。
矢野 恒太郎	日本國勢圖會	並四六製判	428	一、二〇〇	日本評論社	月七	▲領土の増減、本邦の貿易、農業外七十章より成る日本國勢の圖會。
朝日新聞經濟部編	朝日經濟年史(昭和六年版)	洋四六布判	401	一、五〇〇	朝日新聞社	月四	▲昭和五年度に於ける我が財政經濟の推移を語る記録。
日本經濟研究會編	日本經濟研究(第二輯)	並四六製判	102	二、三〇〇	春陽堂	月五	▲第二輯は「續農民問題特輯」で、農業労働者の獨立的な組織について(東三郎)其他。
東洋經濟新報社編	日本の景氣變動(上下二卷)	洋四六布判	477	一、八〇〇	新東洋經濟社	月六	▲景氣の豫測に役立つやうな主なる統計を蒐集整理して解説せる上下二卷より成る書。
高橋 龜吉	日本金融論	洋四六布判	682	三、三〇〇	新東洋經濟社	月二十	▲我が金融資金の源泉と分布、信託會社の發展と其金融的地位外十一章。
野村 順之助	日本金融資本發達史	並四六製判	329	一、二〇〇	共生閣	月四	▲明治初年より大震災直後に至る迄の我國金融資本の發展過程を敘述す。
高橋 龜吉	資本主義日本の研究	布四六製判	553	二、〇〇〇	白揚社	月六	▲日本資本主義發展の行詰に關する研究、資本主義機關廢の研究外二編十八章。
猪俣 津南雄	日本の獨占資本主義	並四六製判	342	一、三〇〇	南北書院	月十	▲日本の獨占資本主義の最近の諸發展を詳論し支配的金融資本の諸政策を批判曝露す。
鈴木 茂三郎	日本獨占資本主義の展望	並四六製判	376	一、三〇〇	白揚社	月九	▲獨占資本主義の段階、カルテル資本の活動軍需品工業と獨占資本外七章。

經濟・商業(世界經濟事情)

瀬戸	健助	獨占資本主義	並六	製判	289	一、八〇	大同書院	月二	▲日本獨占資本の現状を論述せるもので、日本獨占資本の諸状態を一編。
深見	義一	世界經濟總論	洋四六	布入判	366	二、三〇	瞭文堂	月十	▲世界經濟的連繫と世界經濟の問題、世界經濟的勞働移動の概観外九章。
伊藤	秀一	世界經濟概論	洋四六	布入判	256	一、〇〇	同文館	月一十	▲世界經濟の概念、世界經濟の發達、産業の集中化と世界經濟外四章にて論述。
塚本	三吉	世界經濟年表	洋三六	布判	451	一、五〇	春秋社	月七	▲太古前史時代より最近一九二六年迄の人類全史期間を括弧せる經濟年表。
グア	ルカ	世界經濟年報	並四六	製判	384	一、〇〇	叢文閣	月十	▲一九二七年第一回半期に於ける經濟及び經濟政策外一篇索引。
グア	ルカ	世界經濟年報	並四六	製判	188	六〇	叢文閣	月一	▲一九三〇年第三四半期七月十八日より十月廿日迄に於ける經濟及經濟政策(三部)。
グア	ルカ	世界經濟年報	並四六	製判	181	六〇	叢文閣	月四	▲一九三〇年十月廿一日から翌年一月十六日迄に於ける經濟及經濟政策を収む。
グア	ルカ	世界經濟年報	並四六	製判	192	七〇	叢文閣	月七	▲マルクスの恐慌理論と現在の恐慌の諸問題一般的部分外一部。
グア	ルカ	世界經濟年報	並四六	製判	189	七〇	叢文閣	月十	▲一九三一年第二四半期に於ける經濟及び經濟政策を収めたもので、迫り来る破局外二部。
松村	金助	世界經濟の話題	布四六	裝入判	253	一、〇〇	森山書店	月一十	▲世界經濟上のあらゆる問題を網羅し綜合的な解説を施せるもの。
勝田	貞次	世界經濟の將來と投資物件の選擇	並四六	製判	182	四〇	時事新報社	月九	▲世界經濟の將來及び日本財界の立場と其影響並に投資物件の選擇に就て論述。
大塚	金之助	世界經濟恐慌と國際消費組合	並四六	製判	130	四〇	鐵塔書院	月一十	▲恐慌の理論と消費組合の方針を平易に説いた書で、資本主義世界の經濟恐慌外五章。

經濟・商業(世界經濟事情)

中島	徹三	世界經濟の統制	布四六	裝判	144	一、〇〇	千倉書房	月二十	▲經濟的無政府状態、何が所得を決定するか強制的に働かせる権利外三章にて論述。
奥野	平	世界經濟知識	上四六	製判	100	三〇	銀行問題研究会	月二十	▲英國金本位停止の原因、歐大陸諸國に及ぼした影響、金輪再禁止すれば我財界は如何等。
法政大學	世界經濟研究所編	世界經濟(第三編)	並四六	製判	352	一、五〇	同文館	月五	▲綜合的部門、生産と消費、貿易、海運、物價、金融、勞働、財政、世界經濟統計等。
高木	友三郎	世界景氣は日本から	並四六	製判	200	六〇	同文館	月五	▲世界景氣の一般状態、主要國の景氣状態、世界恐慌と世界状態の三編から成る。
朝日新聞	部編	世界經濟の苦惱を打診す	並四六	製判	218	六〇	朝日新聞社	月二十	▲世界不況の四重奏(高木友三郎)二つの異つた經濟世界(大塚金之助)外四十三篇。
經濟批判會	編	世界經濟危機の一年	並四六	製判	254	六〇	叢文閣	月四	▲今度の世界經濟危機の諸特性其他の問題を闡明せるもので、一般的部分外一部。
産業勞働	所編	世界經濟恐慌の發展と展望	並四六	製判	282	六〇	希望閣	月六	▲凡ゆる資本主義諸國を席捲してある現時の世界經濟の特殊性其發展を分析せる論文集。
木村	禧八郎	世界經濟恐慌の解剖	布四六	裝判	192	一、三〇	千倉書房	月九	▲現在の世界經濟恐慌を平易に解剖せるもので、恐慌の諸原因外三編。
ルビ	シユタイン	世界經濟恐慌概論	並四六	製判	252	七〇	南樓書房	月九	▲世界經濟恐慌の成熟、他の諸國に於ける恐慌の發展外十章にて論述。
高山	洋吉	世界經濟恐慌の發展と展望	並四六	製判	252	七〇	南樓書房	月九	▲資金の國際的流通に關する基本的部分を總括的に論述せるもので、國際金融市場外九章。
金原	賢之助	國際金融總論	洋四六	布入判	273	一、〇〇	同文館	月一十	▲國際金融制覇權の諸條件、戰後に於ける口下外十章。附録二章。
小池	四郎	國際金融爭鬪戰	並四六	製判	231	六〇	同文館	月六	▲國際金融制覇權の諸條件、戰前に於ける倫敦の優位外十章及附録二章。
山本	米治	國際金融爭鬪戰	布四六	裝判	191	一、〇〇	千倉書房	月五	▲堆積せる喘聲、獨逸の卷、日本の卷、列強は如何にして生かすか外四章。
伊地	知軍	列強經濟のチレンマ	布四六	裝判	206	一、二〇	千倉書房	月十	

三井物産社編輯	香月ニ保一著	貴島桃隆編	高山洋吉著	經濟批判會譯	老川茂信	長野朗	村井賢一郎譯	調査所譯編	大レニ著	猪谷善一	鍵本博譯	巴拉ノスキ一著
三井物産社編輯	アメリカの世界經濟征服	崩壊せんとする米國の財界	資本主義没落前史	獨逸貨幣没落物語	支那資本主義發達史	中國農村經濟研究	ソヴェート同盟の經濟建設	ソヴェート經濟及び政治	ロシアに於ける資本主義の發達	アジヤ經濟の展望	英國恐慌史論	英國恐慌史論
洋四六	布四六	並四六	並四六	上四六	洋四六	並四六	上四六	並四六	布四六	洋四六	並四六	並四六
308	344	126	162	210	285	438	290	565	187	557	208	467
一、五〇	一、五〇	一、三〇	一、六〇	一、七〇	一、三〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、八〇	一、四〇	三、二〇
春秋社	千倉書房	ム経済ス社	白揚社	叢文閣	萬里閣	泉書店	希望閣	共生閣	叢文閣	南北書院	千倉書房	日本評論社
月一十	月九	月二十	月一	月六	月三	月六	月一十	月二	月二十	月二十	月二十	月二十
<p>▲恐慌の歴史、恐慌の理論、産業恐慌の社會的影響の三篇十三章。</p> <p>▲世界經濟に於ける太平洋問題、滿蒙に於ける日本人の發展性外七章。</p> <p>▲下巻は工業における資本主義の最初の諸段階、國內市場の形成外二章。</p> <p>▲論說、經濟と技術、ソヴェート經濟と世界經濟、資料の四部より成る。</p> <p>▲ソヴェートの經濟的建設に關する最も基本的な諸問題を平易に敘述せるもの。</p> <p>▲アジア的生產方法と帝國主義、中國の統計中國の農村經濟に於ける牧畜の作用外七章。</p> <p>▲支那資本主義の發達及び其の特殊性に就ての探究で、資本主義發達の經過外三章。</p> <p>▲戦前に於ける獨逸の經濟狀態世界大戰中に於ける獨逸の正貨準備策外七章。</p> <p>▲一般的情勢、支配階級の恐慌對策、失業生計經濟開争の三部。</p> <p>▲戰爭に依る世界經濟の變化、戰爭終結後の好景氣、現在の經濟恐慌外六章。</p> <p>▲危機を孕む米國財界、米國最近の金融事情破綻に瀕する米國の財政外三章。</p> <p>▲アメリカはどうかして世界經濟の覇權を握つたその真相を明かにせる書。</p> <p>▲米國の現在の覇權及今後の成行に就て述べたもので、紐有株式取引所の創生外十五章。</p> <p>▲アメリカ合衆國の非外交の發展舞臺に踊つたモルガンの真相を如實に描けるもの。</p> <p>▲フーヴァ景氣の性質と日本への影響、賠償問題とドイツの經濟外二篇。</p> <p>▲人民主義派—經濟學者達の理論上の諸誤謬商業的農民の成長外二章。</p> <p>▲總覽篇（九章）工業篇（十三章）農業篇（十一章）世界經濟とソヴェート聯邦篇、統計篇。</p> <p>▲五箇年計畫、露西亞經濟の見方、モスクワ景氣研究所外三章にて論述。附録一章。</p> <p>▲一九三一年の國民經濟計劃（モロトフ）外二篇を記述せるもの。</p> <p>▲五年計畫の立案、産業建設プログラム、第二年度の發展計畫外三章。</p> <p>▲五箇年計畫と第一年の實績、第二年の達成集計五箇年計畫とネップ外七章。</p> <p>▲ソヴェート同盟に於ける計劃經濟と計劃活動の展望外十一章。</p> <p>▲ソヴェート同盟發展の展望、五ヶ年計畫の遂行の二篇。</p>												

大坂商科大學教授	壽	高山洋吉著	富士辰馬	廣岡光治編	高山洋吉譯	牛野憲二	大竹博吉編著	大レニ著	山時純	岡本陸譯	熊田克郎
大坂商科大學教授	壽	五ヶ年計畫の實績と展望	五箇年計畫の實績と展望	ソヴェート同盟の經濟建設	ソヴェート同盟の經濟建設	五ヶ年計畫の實績	世界市場を脅かすロシア五ヶ年計畫	ソ・ロシアの經濟的建設	フーヴァ景氣はドウなる	モルガンのガ	ウオール街とアメリカ經濟の發展
洋四六	布四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	布四六	並四六	上四六	洋四六
384	349	449	267	145	141	136	343	484	122	373	586
一、八〇	一、八〇	一、三〇	一、三〇	一、七〇	一、五〇	一、五〇	一、〇〇	一、八〇	一、三〇	一、二〇	二、〇〇
大同書院	希望閣	白揚社	春陽堂	ソヴェート研究會	白揚社	千倉書房	同人社	南北書院	千倉書房	先進社	春陽堂
月二	月四	月五	月五	月五	月六	月七	月五	月七	月七	月二十	月五
<p>▲金解禁後の金融政策と再禁止論、銀行の合理化と改革問題外二篇十五章にて論述。</p>											

經濟・商業（財界・景氣・金問題）

勝田貞次	和六子	服部文四郎	山崎靖純	報知新聞經濟部編	福澤桃介	石山賢吉	福澤桃介	松岡孝兒	武藤山治	安田與四郎	景氣觀測所編	西原龜三
景氣パンフレット(2)	財界のうねり	財界の動き	何が財界を動かすか	財界を牛耳る人々	財界人物我觀	財界人を語る	桃介夜話	景氣豫測法の研究	續經濟小言	經濟變動の見方	景氣觀測所調査方法編(1)	景氣回復の鍵
並四六製判	布四六裝入判	布四六裝入判	布四六裝入判	布四六裝入判	上四六裝判	布四六裝判	上四六裝判	洋四六布入判	並四六裝判	布四六裝入判	並四六裝判	並四六裝判
142	234	224	396	113	109	124	47	89	197	126	199	340
三〇	一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
時事新報社	白帝書房	千倉書房	千倉書房	千倉書房	同文館	育社協會教	朝日新聞社	春陽堂	出版部	春陽堂	千倉書房	千倉書房
月十	月一十	月二十	月二十	月十	月十	月一十	月四	月一	月一	月二十	月一	月四
▲英國の再禁止を中心として夫が世界經濟や日本經濟に如何なる影響を及ぼすかを考察す	▲財界の事實に即して金本位制の危機を論じ之に代ふるに復本位制を以てすべきを斷す。	▲日本金本位停止の原因影響前途外四章。	▲世界金本位停止の意義と日本經濟の破局對策、金再禁止と無産階級の利害外廿一章。	▲日本金本位停止の危機、英國金本位停止の二篇附何が世界經濟を支配するか？	▲英國金本位停止の眞原因、金輸出を再禁止すれば景氣はどうか外十篇。附録五篇。	▲世界不況の混線、低氣壓裡のわが財界、金輸出禁止の利害と影響外三章。	▲金再禁止の混線、低氣壓裡のわが財界、金輸出禁止の利害と影響外三章。	▲金再禁止の混線、低氣壓裡のわが財界、金輸出禁止の利害と影響外三章。	▲金再禁止の混線、低氣壓裡のわが財界、金輸出禁止の利害と影響外三章。	▲金再禁止の混線、低氣壓裡のわが財界、金輸出禁止の利害と影響外三章。	▲金再禁止の混線、低氣壓裡のわが財界、金輸出禁止の利害と影響外三章。	▲金再禁止の混線、低氣壓裡のわが財界、金輸出禁止の利害と影響外三章。

經濟・商業（財界・景氣・金問題）

勝田貞次	森本喜太郎	高鳥佐一郎	高橋龜吉	木村禧八郎	武藤山治	高木友三郎	明石照男	東京朝日新聞經濟部編	高橋貞次	高木雄二	布施辰治編著	高橋龜吉
英國の金輸出禁止と日本の財界はどうなる	金本位制の解剖と世界景氣の恢復策	金本位制と日本金融の將來	世界日本經濟の變革	金本位制の危機？	金輸出再禁止	金再禁止とわが財界	社會教育パンフレット(21)	金解禁後の第一年	金輸出再禁止是非の二人論争	經濟國難の真相	不景氣の正體暴露とその切抜策	景氣はドウなる
並四六製判	洋四六布判	布四六裝判	布四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	並四六裝判	布四六裝判
142	234	224	396	113	109	124	47	89	197	126	199	340
三〇	一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
時事新報社	白帝書房	千倉書房	千倉書房	千倉書房	同文館	育社協會教	朝日新聞社	春陽堂	出版部	春陽堂	千倉書房	千倉書房
月十	月一十	月二十	月二十	月十	月十	月一十	月四	月一	月一	月二十	月一	月四
▲英國の再禁止を中心として夫が世界經濟や日本經濟に如何なる影響を及ぼすかを考察す	▲財界の事實に即して金本位制の危機を論じ之に代ふるに復本位制を以てすべきを斷す。	▲日本金本位停止の原因影響前途外四章。	▲世界金本位停止の意義と日本經濟の破局對策、金再禁止と無産階級の利害外廿一章。	▲日本金本位停止の危機、英國金本位停止の二篇附何が世界經濟を支配するか？	▲英國金本位停止の眞原因、金輸出を再禁止すれば景氣はどうか外十篇。附録五篇。	▲世界不況の混線、低氣壓裡のわが財界、金輸出禁止の利害と影響外三章。	▲金再禁止の混線、低氣壓裡のわが財界、金輸出禁止の利害と影響外三章。	▲金再禁止の混線、低氣壓裡のわが財界、金輸出禁止の利害と影響外三章。	▲金再禁止の混線、低氣壓裡のわが財界、金輸出禁止の利害と影響外三章。	▲金再禁止の混線、低氣壓裡のわが財界、金輸出禁止の利害と影響外三章。	▲金再禁止の混線、低氣壓裡のわが財界、金輸出禁止の利害と影響外三章。	▲金再禁止の混線、低氣壓裡のわが財界、金輸出禁止の利害と影響外三章。

經濟・商業（農業經濟・産業問題）

勝田貞次	時事新報編輯所長	再禁止後の日本財界	並四六製判	154	三	時事新報社	月二十	▲再禁止の財界に與へる影響を細論せる書で再禁止は必至なり外六十九章。
山崎靖純	金再禁止と日本經濟の大轉換	並四六製判	258	五	出版部	月二十	▲金本位とは何か、なぜ舊平價金解禁の維持は弊害深刻か外六章にて論述。	
ムリナルスキー著 車谷馬太郎譯	金問題と戦後に於ける金本位制	洋四六布入判	264	一、五〇	同文館	月二十	▲世界に於ける金不足高の考察、米國の準備金問題、金の自由移動を論ず外七章。	
伊丹佐一郎	銀と支那	並四六製判	124	六、五〇	大同書院	月一十	▲理論と實際の両面より銀の過去、現在及び將來を論じたヒンニツク氏著標題の書の全譯を端的に説明した書。	
青野健夫	英金解禁後の日本	洋四六布判	250	二、六〇	式會社	月五		
農業經濟・産業問題								
河津退編	矢作教授還暦祝賀記念 農業經濟の諸問題	洋四六布入判	589	四、八〇	日本評論社	月六	▲農業經營の私經濟的目標（橋本傳左衛門） ▲農業の生産費（近藤康男）外十篇。	
高須虎六	農業經濟學大綱	洋四六布判	295	二、三〇	養賢堂	月九	▲農業經濟學の概念、農業の概念、農村の概念の三章にて論述。	
早稻田大學教授 久保田明光	農業經濟學概論	並四六製判	259	二、三〇	章華社	月二	▲科學としての農業經濟學の體系を示せるもので、農業經濟學の任務及び範圍外三章。	
中澤辨次郎	農村經濟講話	洋四六布入判	599	二、八〇	同文館	月六	▲農村經濟序説、都市及び農村の經濟關係、農業恐慌の世界的發展外十二章にて論述。	
橋本、木村、小出 須、佐藤編	農業經濟の理論と實際	洋四六布判	760	四、五〇	明文堂	月六	▲朝鮮の火田、園藝の意義、農業經濟理論に於ける報酬漸減の一展開、外二十三。	
河津退編	矢作教授還暦祝賀記念 農業政策の諸問題	洋四六布入判	551	四、八〇	日本評論社	月六	▲我國の農業と景氣變動（土方成美）農業恐慌の基本經過（東畑精一）外九篇。	
高橋龜吉	農村行詰の原因現状對策	並四六製判	511	一、八〇	先進社	月六	▲農村行詰の現状と其原因の研究、農村行詰對策に關する研究外一編、附録二章。	

經濟・商業（統計學・人口・食糧問題）

原祐三	現代農村の解剖	並四六製判	376	一、二〇	モロンド社	月六	▲現代農村の實際に就て述べたもので、農村經濟の實際外一編。
東京朝日新聞 編輯部	明るい里暗い村	並四六製判	259	一、〇〇	日本評論社	月一	▲同じ經濟的暴風雨のもとに喘ぐ村と更生にいそむ村とを詳細に踏査せるもの。
東京朝日新聞 編輯部	地方産業座談會	並四六製判	327	六、五〇	日本評論社	月一十	▲關東中部東北の十六縣に於て行はれた「地方産業座談會」の速記録。
向井鹿松	産業の合理化	洋四六布入判	316	二、三〇	日本評論社	月一	▲合理化の研究で、獨逸に於ける合理化運動の實例、英國に於ける合理化運動外二篇。
協同會調查課	英國産業の合理化問題	並四六製判	297	六、八〇	協同會	月四	▲英國産業の窮狀外六章。
大谷光瑞述	國産の愛用	並四六製判	122	四、〇〇	大乗社支部	月三	▲國産と國民、比率上から見た國産品、愛用と奨励、輸入品等にて論述。
河田嗣郎	米價基準の理論と實際	上四六製判	128	一、三〇	大同書院	月十	▲五章に分ち理論と實際との接觸を考へながら米價基準の正體を明かにす。
荒木東一郎	クロモシリーヌ フォード・システム	並四六製判	70	四、二〇	三省堂	月二	▲フォードの成功哲學、フォードの奉仕第一主義、彼の大量生産方針外四章。
大阪朝日新聞 編輯部	農工商の第一線に立つ 中小業者の叫び	並四六製判	298	四、五〇	朝日新聞社	月五	▲農村並に中小商工業者の巡回座談會の記事を收めたもので、農村の聲に聴く外一編。
宇原義豐	我國の産業統制	上四六製判	130	四、七〇	マネジメン ト社調査部	月八	▲産業合理化運動、市場不安の防止策、不當廉賣對策、我國の産業統制の具體的方法。
大阪屋商店調査部	投資上主要産業の常識	並四六製判	528	一、五〇	大同書院	月二十	▲我が邦主要産業十五種に及ぶ項目を收めて投資家の爲に日本産業の鳥瞰圖を與ふ。
最上孝敬	統計學大綱	洋四六製判	350	二、五〇	章華社	月九	▲本書は現代社會殊に經濟社會の實證的研究に關し重きを置いて論述。一並製二編。

經濟・商業（財政・豫算・租稅）

下村 宏	下村 宏	森田 敏	トンプス	藤本 幸太郎	川 虎三
食糧問題講話	人口問題講話	人口過剰の對策	商業統計の常識	統計學研究	統計學研究
並四六 裝入判 268	布四六 裝入判 312	布四六 裝入判 397	洋四六 布入判 217	洋四六 布入判 289	洋四六 布入判 289
二、三〇	二、三〇	二、三〇	一、八〇	二、〇〇	二、〇〇
朝日新聞社	朝日新聞社	改造社	千倉書房	岩波書店	岩波書店
三月	三月	七月	十月	六月	六月
▲國重要食糧の需給外十九章。	▲食糧並に失業問題と相關聯して尤も急切なる人口問題に就いて論述。	▲西太平洋における戦争は避け得るか、國家の利益と平和の動機外十二章。	▲物價、外國貿易、商業經營の三統計及び統計學の總説をなせるもの。	▲經濟統計論の性質に關する一考察、物價指數の意味外三篇。	▲經濟統計論の性質に關する一考察、物價指數の意味外三篇。

財政・豫算・租稅

大内 兵衛	井藤 半彌	鈴木 宇一	大畑 文七	三好 重夫	牧野 輝智	神戶 正雄	河原 三太郎
財政學	財政學	現代の財政	社會的財政學	地方財政の實際問題	豫算の（）話	最近地方稅問題	納稅の合理化
並四六 裝入判 531	洋四六 布入判 375	洋四六 布入判 491	洋四六 布入判 432	洋四六 布入判 261	布四六 裝入判 271	洋四六 布入判 232	並四六 裝入判 344
一、五〇	三、〇〇	一、二〇	三、五〇	一、六〇	二、六〇	二、三〇	一、五〇
岩波書店	巖松堂	社會書房	丁酉出版社	良書普及會	朝日新聞社	日本評論社	改世社
一月	十月	六月	一月	六月	三月	二月	七月
▲收入の租稅と租稅の地位、租稅制度の成立發達、租稅論の發展外七章。	▲財政學派、財政の形式概念と現實形態、財政學の構造、租稅經濟の性質外一章。	▲財政の現狀に就て平易に述べたもので、概算編成から決意まで外三篇。	▲財政の社會性を高調し官房の技術的羈絆を脱却する必要を論ずるもの。	▲國民經濟との關係に關する問題、收入に關する問題其他にて論述。	▲立憲國民に必要な常識の一つたる豫算に就て論述せるもので、歳入外六章。	▲現行國及地方稅制、稅制整理の目標、地租改正案中の若干問題外五篇。	▲自治體の財源打開の爲に學界實際界の諸權威三十餘氏の論策を集めた書。

經濟・商業（交通・運輸・金融組合・信託・銀行）

久保 且治	中野 武	永雄 策郎	清水 啓次郎	澤 逸	佐藤 喜一郎	新井 堯爾
海と船の知識	船舶物語	殖民地鐵道の世界經濟的及世界政策的的研究	私鐵物語	電車經營論	航空日本の建設	外客誘致の目的、我國と歐洲諸國との比較
洋四六 布判 292	洋四六 布入判 230	布四六 裝入判 420	洋四六 布入判 335	布四六 裝入判 372	並四六 裝入判 259	並四六 裝入判 41
一、五〇	一、〇〇	五、〇〇	二、〇〇	二、五〇	一、五〇	二、三〇
大倉書店	人格社	日本評論社	春秋社	白鳳社	航空時代社	育社協會
七月	十月	一月	二月	四月	十月	九月
▲昭和五年に於ける世界及日本海運の狀況を最も正確なる統計によりて説述せるもの。	▲船の變遷、海洋の話、航海譚、船員生活、信號、波浪等を詳述。	▲著者の學位論文で、殖民地鐵道及殖民地鐵道政策の意義外二編。	▲私鐵の成長及び疑獄事件に關する物語、免許の卷、補助の卷、買収の卷等三部八十二項。	▲電車、市街鐵道、都市の發達と交通機關との關係外十四章にて論述。	▲航空知識に關しての平易なる解説書で、今日の航空、空中交通時代外五篇。	▲外客誘致の目的、我國と歐洲諸國との比較外客誘致機關外三篇にて論述。

交通・運輸

經濟・商業（企業・貿易・保險）

青木 得三	訂改銀行論	洋四六	布入判	449	三、三〇〇	巖松堂	月六	▲緒論、銀行經營論、銀行政策論の三編に分ち平易簡明に解説を加へてある。
尾崎 行雄	銀行國營論	洋四六	布入判	353	一、八〇〇	日本評論社	月八	▲著者の序説と摘要、貨幣に就て、ロンドンの銀行と戦争外十九章にて説述。
田川 大吉	銀行講話	布四六	裝入判	320	二、三〇〇	大阪屋號	月一	▲一般社會常識として平易に銀行業に就て論述せるもので、普通銀行の組織外十三章。
東田 藤吉	銀行講話	布四六	裝入判	320	二、三〇〇	大阪屋號	月一	▲モリスプランと通稱せられてある金融機關の一樣相を研究した書で、十章より成る。
ヘルツ オツグ	モリス式勤勞銀行	洋四六	布入判	244	一、五〇〇	岩波書店	月五	▲労働銀行の概念外四章にて労働銀行とその發展及び經濟的社會的意義に就て論述す。
井關 孝雄	勞働銀行	洋四六	布入判	262	一、八〇〇	先進社	月一	▲現在英國の金融界に於て最も大きな役割を演じてある株式銀行の活動状態を説明す。
井關 明男	英國の株式銀行	洋新四六	布判	150	九〇〇	日本評論社	月二	▲米國のモリス・プラン銀行、サゲエツトロシアのナロドメキ・バンク外六章。
海風樓	銀行生活の體驗を語る	上三六	製判	200	四、五〇〇	研究會	月六	▲著者多年の銀行生活にて得たる體驗と意見とを赤裸々に告白せる書。
菅野 和太郎	日本會社企業發生史の研究	洋四六	布入判	726	五、〇〇〇	岩波書店	月六	▲會社の發生、資本の蓄積、會社企業者の出現其他にて論述。
菅野 和太郎	企業の理論	洋四六	布入判	398	二、〇〇〇	南北書院	月四	▲機械過程、企業、貸付信用の使用、近代事業資本外六章にて論述。
グエン レン	資本家的企業と社會的進歩	洋四六	布入判	291	二、五〇〇	章華社	月一	▲問題の構成、企業家理論外十二章を岩田、坂口、岡田、杉山の四氏が分擔翻譯せるもの。
渡邊 良吉	日印綿業論	洋四六	布入判	430	五、〇〇〇	日本評論社	月三	▲歴史に於て長ある印度紡績が何故収益の點に於て我紡績に及ばざるかの理論的考察。

經濟・商業（株式・投資・金儲）

河野 信治	日本糖業發達史	洋四六	布判	580	七、五〇〇	丸善社	月四	▲我國の糖業の歴史的發展を詳述したるもの。
河野 信治	日本糖業發達史	洋四六	布判	385	三、五〇〇	丸善社	月二十	▲我國の糖業界には如何なる人物が活躍したか。糖界の人物月旦。
森本 宋	生絲恐慌對策史	洋四六	布入判	679	四、〇〇〇	新報社	月四	▲生絲恐慌對策の史的的研究で、蠶絲業救済、絲價安定立法外四編。
手塚 壽郎	國際貿易政策思想史研究	洋四六	布入判	337	二、五〇〇	森山書店	月二十	▲保護貿易の理論建設へのマノイレスコの試み、クルノの國際貿易論外六章。
石井 静人	外國貿易實踐	洋四六	布入判	240	一、三〇〇	丁酉出版社	月四	▲貿易の實際事務に従事する際心得べき諸般の手續きと基礎原理について詳説せるもの。
新田 直藏	關稅戰上の日本	洋四六	布入判	466	二、八〇〇	大同書院	月二	▲英米兩國の關稅政策の沿革及現状を考究し我國の採るべき政策に論及せるもの。
柴官 六	保險學概論	布四六	裝入判	306	二、五〇〇	賢文館	月五	▲生命損害共通の理論を究明せるもので、概念論、經營論、政策論の三編。
瀬戸 彌三	海上保險體系	布四六	製判	192	一、三〇〇	文雅堂	月二	▲危險の本質及屬性序説、Maritime Perilsの本質及屬性論外二章。
來高 信	社會保險の本質	洋四六	布判	407	二、五〇〇	丸善社	月二十	▲現行社會保險の理想的形態を獲るためにその本質を論究せるもの。
野田 信保	東株暴騰論	並四六	製判	93	一、〇〇〇	永樂堂	月六	▲不景氣と株式市場の現状、我國物價の急反騰と底入時期の觀測外廿九章。
市川 眞太郎	株て儲ける話	並四六	製判	265	一、〇〇〇	正和堂	月四	▲生きた資本、相場に開け、剩り物に値なし財界の裏途外四十九章。
大阪屋商店	株式年鑑	上四六	製入判	1250	五、〇〇〇	大同書院	月五	▲十八款に分けて公市社債、取引所を初め各會社、銀行の業績を記録し内外諸統計を示す。

井上信明編	株式年鑑	洋三六布判	340	一、八〇	大坂屋號	月二十	▲株式會社業績、並累年表を集録。
佐藤傳之助	米相場の仕方並に正米有利賣買秘法	洋四六布判	421	一、八〇	春陽堂	月一	▲米相場の産れる道行及米穀に關する一般知識を説けるもので、米穀取引の概説外五七章。
東洋經濟新報社編	東京短期取引開始以來七十九ヶ月間の日の短期新東前場及後場相場其他を収む。	洋四六布判	84	一、六〇	新東洋經濟	月二	▲昭和五年十二月廿一日現在の公債社債に關する資料を網羅せるもの。
日本興業銀行調査	第三十回全國公債社債明細表	並四六倍判	131	一、〇〇	新東洋經濟	月七	▲昭和六年の米界を顧みて、昭和七年の需給豫想、政府の米對策外三十五章。
加賀卯之吉	昭和米價の前途	並三六倍判	238	一、七〇	モダンド社	月二十	▲セメント界、石油界其他事業の個々について検討せるもの。
北林惣吉	投資基礎學	布四六倍判	330	一、五〇	千倉書房	月四	▲有効な投資方法の研究で、投資家群の發生無經驗な投資をするな其他。
勝田貞次	投資の仕方	洋四六倍判	412	一、五〇	千倉書房	月四	▲昔の景氣論と今の景氣論、不景氣の経路、不景氣時代の實際研究外十二章。
勝田貞次	投資の仕方	布四六倍判	280	一、五〇	千倉書房	月五	▲金輸出再禁止後の投資方針、時局篇、定石篇、有價證券篇外一部。銀行會社索引。
大阪毎日新聞社	續大投資相談	布四六倍判	456	二、〇〇	一元社	月二十	▲投資の原則、債權の種類と其の特質、債權投資の實務の三編にて論述。
猪岩居龜耕松作	公社債の知識	洋四六倍判	316	二、八〇	大同書院	月九	▲昭和六年度の株界觀測で、昭和六年度の株界如何、本年財界の諸特色其他。
勝田貞次	一九三一年の投資家の取り可き態度	並編	228	一、三〇	春陽堂	月二	▲一々實行指導的に各種の金儲け法を述べたもので、何倍にも儲かる古本屋其他。
佐伯平造	裸一貫金儲市場	並四六倍判	187	一、〇〇	正和堂	月一	▲金儲けの秘法を説けるもので、一圓の資本で商賣をしながら全國を廻れる金儲け其他。
坂野井包祐	新東方金儲け要訣	布四六倍判	306	一、三〇	講談社	月四	▲營利心の喚起といふやうな方面に重點を置いて述べたもの。

古山鐵郎	商業學・商業論集	上四六倍判	253	一、〇〇	春陽堂	月十	▲商業學の意義、商業の種類、商業の目的物及其尺度、商業經營の組織外四章。
井關孝雄	生活經濟學	上四六倍判	360	一、三〇	先進社	月四	▲第壹篇商業總論。第貳篇商業各論。
大泉行雄	最新商業通論	布四六倍判	224	一、五〇	大坂屋號	月一	▲商業の發達、商業の本質、商業の人的要求商業主體の組織外十一講。
上田貞次郎	商業原理講話	並編	136	一、三〇	同文館	月六	▲商業の意義及び機能、市場及び市場經濟、商業の經營外二章にて論述。
東泉行雄	商業學の常識	並四六倍判	366	一、三〇	同文館	月六	▲商業に就いて、古代文明國の商業、ヴェニス商業外二十一章。
内池廉吉	世界商業秘話	洋四六倍判	202	一、〇〇	千倉書房	月一十	▲商業および商業組織、商業組織における商品取引の地位外二篇廿六章。
加藤三郎譯	商業組織の特殊研究	洋四六倍判	344	一、〇〇	千倉書房	月九	▲保險募集取締規則を論ず(石川文吾)廣告の法學的的研究に就て(井關十二郎)外十三篇。
谷口吉彦	商業組織の特殊研究	洋四六倍判	862	一、〇〇	千倉書房	月一十	▲英文による日本の商界一覽。
明大學會編	商業組織の特殊研究	洋四六倍判	428	一、五〇	明大學會	月一十	
法典英譯委員會編	The Commercial code of Japan	洋四六倍判	460	二、〇〇	丸善社	月四	
大下積五郎譯著	棉花及び棉花市場	洋四六倍判	727	一、五〇	文雅堂	月七	▲棉花及び棉花取引に關する研究で、棉花の生産、取引二篇及附録四篇。

前馬治一倉庫原論	高橋重治國產總覽	寺田貞次地理世界物産編	井口豊一郎最新實際商品學	和井田採一郎商品學の常識	佐藤弘商品學の常識	大坂朝日新聞部編商品自叙傳	坂口信之助和英商品用語新辭典	武田信榮													
洋四六倍判布入判	洋四六倍判布入判	洋四六倍判布入判	洋四六倍判布入判	洋四六倍判布入判	洋四六倍判布入判	上四六倍判布入判	洋四六倍判布入判	洋四六倍判布入判													
604	1000	813	899	204	341	453	413	494													
四、三〇	三、五〇	五、一〇	七、八〇	一、〇〇	〇、八〇	三、五〇	二、五〇	三、五〇													
巖松堂	查國協產會調	古今書院	太陽堂	千倉書房	一元社	太陽堂	春陽堂	大同書院													
月五	月六	月三	月三	月七	月七	月二	月二十	月六													
▲寄託論、倉庫營業論、倉庫證券論、倉庫經營論の四編に分ち法律的經濟的問題を論ず。▲概説編、輸出編、輸入編、優良國産編に分ちて輯録。	▲農林産物(有用植物及其製品)畜産物(有用動物及其製品)外二篇にて論述。	▲日常生活と不離の立場にある可及の多數の商品に就き衣食住の三篇に區別して論述。	▲商品の一般的知識を平易に説述せるもので食料品、林産物及び其加工品外五編。	▲吾輩は金である、吾輩は満である、吾輩は生糸である外四篇。	▲日常常用の商品に關する用語を網羅して解釋を施せる辭典。	▲生産經營及びその合理化の一般的原理を生經濟學の立場から取扱つたもの。	▲經營政策論は科學として可能なりや外四章附獨逸經營經濟學界於ける方法論的述作。	▲平井泰太郎、井上貞藏、井關十二郎、松崎壽、馬場敬治、上田貞次郎等の研究及講演。	▲サーピス理論、サーピス改善の要項、具體化實例外三章にて述ぶ。	▲疲勞と其の測定より實際的結論に至るまでの十四章に於て産業疲勞と能率の關係を説く。	▲事務合理化に就て説述せるもので、先づ自己の能率増進から外十一篇。	▲作業能率(石井俊瑞)疲勞(濱中濱太郎)適性検査(川島鹿藏)外四篇。	▲部下操縦の急處、選擇、適材配置、轉移昇級、解雇防止、勞働移動、日常の心得。	▲書類整理の要諦、順序、垂直式整理、索引の方法、注意事項、書類の移管等を説く。	▲商業實務の細胞的講義で、總説、商業實務の二部。	▲一萬餘通の蒐集を精選し理論及實際に就ての講述で、商用手の意義外四十章。	▲海運業、特に船主、代理店、船舶、荷主間に必要なる文例を網羅せるものにて譯文を附す。	▲商業組織、商業の客體、商業取引の用具、商業の經理、賣買の要件、普通倉庫等十六章。	▲會計學の基礎、資本對收益、貸借對照表、資本主勘定外九章。	▲會計の對象、會計の目的、資本維持諸説、暖簾の消却に就て等四篇にて論述。	▲監査一般に關する重要諸問題を組織的に論説せるもので、監査の意義外六章。

野本悌之助會計監査研究	太田哲三理論會計研究	碓氷厚次會計學研究	會計・簿記・商業算術	奥田繁藏學生の商事要項	宮本吉太郎船用英文通信	谷岡義賢商用文體	岡田市治新商業之實務及常識	川口輝武書類整理の研究	矢持山輝治「人」の使ひ方	福山輝治	選信能率研究會編作業能率講話	産業能率研究所編事務能率増進法	小川忠藏産業疲勞と能率	内野昇一電氣事業サーピス改善	日本經營學會編中小商工業問題	馬場敬治經營學方法論	宮田喜代藏經營學原理	會營學	經營學	能率
洋四六倍判布入判	洋四六倍判布入判	洋四六倍判布入判	洋四六倍判布入判	並四六倍判布入判	上編製判	布四六倍判布入判	洋四六倍判布入判	上四六倍判布入判	並四六倍判布入判	布四六倍判布入判	布四六倍判布入判	布四六倍判布入判	上編製判	洋四六倍判布入判	洋四六倍判布入判	洋四六倍判布入判	洋四六倍判布入判	洋四六倍判布入判	洋四六倍判布入判	洋四六倍判布入判
138	120	651	651	332	230	631	629	94	50	381	263	494	438	299	448	413	413	413	413	413
八〇	八〇	三、三〇	三、三〇	四〇	一、八〇	五、三〇	三、五〇	四〇	二、五〇	三、五〇	一、二〇	三、五〇	三、五〇	一、四〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇
森山書店	森山書店	文雅堂	文雅堂	同文館	海文堂	博文館	二松堂	マネジメン	マネジメン	賢文館	同文館	同文館	太陽堂	電氣新報社	同文館	日本評論社	春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂
月四	月一	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月三	月十	月八	月七	月六	月六	月二十	月九	月三	月二十	月二十	月二十	月二十	月二十
▲監査一般に關する重要諸問題を組織的に論説せるもので、監査の意義外六章。	▲會計の對象、會計の目的、資本維持諸説、暖簾の消却に就て等四篇にて論述。	▲會計學の基礎、資本對收益、貸借對照表、資本主勘定外九章。	▲會計・簿記・商業算術	▲學生の商事要項	▲船用英文通信	▲商用文體	▲新商業之實務及常識	▲書類整理の研究	▲「人」の使ひ方	▲	▲作業能率講話	▲事務能率増進法	▲産業疲勞と能率	▲電氣事業サーピス改善	▲中小商工業問題	▲經營學方法論	▲經營學原理	▲會營學	▲經營學	▲能率

福田 多吉	銀行會計の監査	洋四六 布入判	三、八〇	文雅堂	月八	▲總説、銀行の會計帳簿、實査、支拂準備金の監査、經營成績の批判の五篇にて論述。
吉田 良三	會計學の常識	洋四六 布入判	一、〇〇	千倉書房	月二十	▲會計理論に關する一般諸問題を網羅して平易に講述せるもので、貸借対照表外一章。
山内 勝雄	會社監査の方法及報告書要式	洋四六 布入判	二、〇〇	萬里閣	月二	▲株式會社監査役の機能及是を發揮せしむる方策、會社監査の方法外四章にて論述。
太田 哲三	貸借対照表學講話	洋四六 布入判	二、〇〇	巖松堂	月四	▲貸借対照表學、貸借対照表の意義外八章にて論述。附録標準貸借表外一章。
田中・滿三	貸借対照表の讀方	並三五 製判	二〇	誠文堂	月三	▲資産と負債、投資者の危険と債権者の安全地帯、資産の鑑定法外四章。
三邊 金藏	考課状の見方	洋四六 布判	一、五〇	春陽堂	月六	▲貸借表の見方總説、貸借対照表の見方各論損益計算の見方の三篇にて論述。
神馬 新七郎	工場經營と會計	洋四六 布入判	四、〇〇	共立社	月三	▲原價計算の意義、原價計算制度と其種類、作業費の整理手續外九章。
土岐 政藏	標準工業會計圖解	並四六 製判	一、三〇	同文館	月三	▲シユマレンパツハ獨特の工業會計圖解法を譯述せるもので、勘定組織の構成其他。
長谷川安兵衛	標準原價の研究	洋四六 布入判	一、五〇	森山書店	月二十	▲近代産業組織と標準原價、回顧的原價會計への抗議外五章。
青木倫太郎	工場原價計算法	洋四六 布入判	二、五〇	大同書院	月五	▲工場會計の理論と實際、原價計算制度の二編十五章に分つて合理的な原價計算法を説く事、工業簿記及工業原價計算とに關する諸般の事を常識的に説明せるもの。
村瀬 玄	工業會計の常識	洋四六 布入判	一、〇〇	千倉書房	月十	▲製造業者の計算手續を簡明に解説せるもので、元價の要素外廿一章。
鹿野 清次郎	工業簿記提要	洋四六 布判	二、七〇	大倉書店	月四	▲商業簿記に就ての常識を説けるもので、簿記の基礎知識外八章。

金子 精	新參考商業簿記	並四六 製判	六、五〇	正文館	月二十	▲總論、單式簿記、複式簿記、支店會計、決算報告外二篇にて論述。
岡田 誠一	簿記學通論	洋四六 布入判	二、八〇	泰文社	月五	▲營利的價額簿記、非營利的綜合價額簿記外一編。附録キネノ式記帳例其他。
太田 哲三	銀行簿記の常識	洋四六 布入判	一、〇〇	千倉書房	月五	▲銀行簿記學修の手引書で、勘定科目以下決算及純損益處分迄廿二章より成る。
岡田 誠一	學生の商業簿記	並新四六 製判	四〇	同文館	月一十	▲簿記總論、財産及資本、取引、仕譯と勘定科目の意義及種類、資産勘定科目等十二章。
柳 健治	學生の商業算術	並新四六 製判	四〇	同文館	月一十	▲前編、後編に分れ、各々練習問題と答の部とがある。
小林 行昌	商業算術の常識	洋四六 布入判	一、〇〇	千倉書房	月八	▲實用上比較的必要なる商業算術計算を収録説明せるもので、速算及び省略算外八章。
近藤 藤	計算及重要テーブル	洋四六 布判	一、三〇	中興館	月四	▲利率早見表、爲替換算表、複利終價表、同現價表利廻表、各種商業數學の表収録。
松田 慎三	デパートメントストア	洋四六 布入判	一、八〇	日本評論社	月八	▲デパートメントストアの定義、デパートメントストアの發達過程外二章。
北田内藏司	百貨店と連鎖店	洋四六 布入判	二、〇〇	誠文堂	月十	▲百貨店經營編、百貨店總觀編、連鎖店編の三編にて論述。
栗屋 義純	百貨店新經營法	洋四六 布入判	一、八〇	青山堂	月五	▲百貨店對抗策としての經營合理化の實際問題を説けるもので、店舗外五章。
矢野 剛	小賣業とチェーン・ストア	並四六 製判	二、五〇	橋爪商店	月一	▲チェーン・ストアの意義、チェーン・ストアの發達外五章。附本邦都市最近人口。
大江 新吉	連鎖店經營法	洋四六 布判	一、八〇	春陽堂	月三	▲チェーン・ストア、組織に就いて、人事統制、營業費と利益外十二章にて論述。

山下久四郎	砂糖年鑑和	洋函菊	布入判	400	三、五〇	日糖協會本	月六	▲世界各國糖業統計生產消費交易、糖界情況糖界日誌等三百餘項目に亘つて記述す。
岡野一朗	支那經濟辭典	洋函菊	布入判	789	七、三〇	東洋書會籍	月一十	▲支那の商業經濟用語八千を蒐め其の意義用途を註解説明したるもの。
日本商工通信社編	東京職業別電話名簿(第廿二版)	洋函菊	布入判	2500	七、〇〇	日本商工	月二十	▲東京、横濱及近縣の職業別電話帳。
海南社編	別冊主從業員待遇	布函菊	裝入判	144	四、〇〇	海南社	月二十	▲昭和六年九月一日現在に據り、船主をいろは別とし船主別に八十頓以上の汽船を輯録。
井上信明編	官廳・公衙・銀行・會社・工場・商店等の待遇法大鑑	總編	裝入判	2350	三、〇〇	大區アイザル	月十	▲官廳・公衙・銀行・會社・工場・商店等の待遇法並諸内規。附録労働者管理工場其他。
特許局編	文字商標第六集	洋函菊	布判	612	六、二〇	許帝書院特	月二十	▲昭和四年一月より昭和五年十二月末日迄に登録せられたる記號及文字の登録商標集。

工業

文部省官 秋保安治	工業	工業	製判	144	六、五〇	青年教育	月二十	▲工業進歩の経路、工業組織、工業の主要原料、原動機一般、機械の製造等を説く。
西田博太郎	工業	工業	布入判	160	一、〇〇	丁酉出版社	月七	▲最近世界工業界の傾向を論じ本邦工業の地位から斯界の今後の進路を説いたもの。
工政會出版部編	日本工業大觀	布函菊	裝入判	758	三、五〇	出版部會	月三	▲現代工業工業界の第一人者數十氏が分擔執筆せる日本工業界の鳥瞰的共著。
東京工業大學教授 田丸節郎譯	ハーバー博士講演集	並菊	製判	101	四、六〇	岩波書店	月十	▲最近十年間の獨逸の化學、國家と學術研究産業上より見たる日本と獨逸との關係等。
工政會出版部編	日本標準規格(第五卷)	並菊	製判	96	二、五〇	出版部會	月二十	▲最近決定せる第八四號規格より第六六號規格及標準棒鋼標準形鋼の改正規格を收録。
工政會出版部編	日本標準規格(第五卷)	上函菊	裝入判	284	一、〇〇	出版部會	月三	▲染織製品、金屬製品、機械器具、化學製品飲食製品、雜製品百餘種に就て圖入解説す。
協調會教務課編	工場火災の防禦に就て	並菊	製判	44	二、〇〇	建設工業社	月五	▲全國工場に於ける工場火災の概況及實例を收む。鐵山歌寄宿舍歌の概況及實例を收む。
建設工業社長 小宮山俊亮	工場火災の防禦に就て	並菊	製判	44	二、〇〇	建設工業社	月五	▲一般工場に於ける火災防禦の實際的要領を記載したるもの。

工業(土木・建築・家具)

野田信夫 加藤威夫 共同註	矢持山輝 福山治	馬場宗三 高島宗三	長崎敏香	原口忠次 米田正文	相澤時正 秋山匡	丹羽健藏	武原秀雄	鷹部屋福平 鷹部屋福平	堀井啓次	畑中健三	間嶋則賢	佐藤廉平	木下武之助 シビル社主幹	東京工學研究會	工學用語調査會	小川敬次郎	山田嘉一	瓜生康一	柴田直光	近藤泰夫	
時間研究による 作業標準決定法	生産原價と職長	發明のかぎ	土木工學 便覽	土と杭の工學	土木の常識	上水道の計畫及設計	鋼絞拱橋	世界橋梁寫眞設計圖說	鐵筋建築工事現場の缺陷	新工事請負實務	土木ハンドブック	土木設計建築便覽	土木仕様書と歩掛	土木工事設計標準	和英工用手語辭典	混凝土及鐵筋混凝土 理論原理	通俗コンクリート講話	鐵筋コンクリート計算資料	鐵筋コンクリート配合の合理化	コンクリート配合の合理化	
洋菊 布判	並四 六判	並四 六判	華菊 半 裝入數	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	
400	53	348	1513	298	495	312	284	188	307	294	577	562	610	161	263	213	89	129	250		
七〇〇	二〇〇	二〇〇	四、三〇	三、〇〇	二、〇〇	二、九〇	三、八〇	二、五〇	一、〇〇	一、二〇	三、八〇	三、八〇	四、〇〇	一、〇〇	一、五〇	六、〇〇	六、〇〇	二、五〇	二、〇〇		
マネジメン ト社調査部	マネジメン ト社調査部	早稲田大學 出版部	大倉書店	岩波書店	工業日本 學會	大進堂書店	太陽社	淀屋書店	正興館	大倉書店	杉山書店	近代文藝社	シビル社	鐵道圖書局	鐵道圖書局	正興館	大進堂書店	二松堂	橋梁研究會	淀屋書店	
月二十	月二十	月二十	月二	月九	月四	月一	月二十	月八	月三	月五	月九	月二十	月九	月六	月一	月一	月一	月四	月一十		
▲時間及動作研究の實施、整理、作業標準決定方法を具體的に詳述した著述。作業標準決定法の原價の低廉を圖るに於いて職長が注意すべき事項について述べたものである。	▲發明又は發見とは如何なるもので之に志すもの、必要なる覺悟如何を説いた書。	▲發明の仕方及特許の受け方を詳述し、卷末に特許實用新案の出願心得其他を収む。	▲下巻は第十編地震から始まり、都市計畫、道路、隧道、鐵道、河工外十二篇。	▲土壓力及び土と杭の支持力に關する最新の理論とその運用を論述せるもの。	▲土木全般の事を網羅解説せるもので、木材、煉瓦外廿五章。	▲土木材料、土工法、基礎工事、諸工事、アーチ工事等土木學全般を説く。	▲水道の計畫並に設計に際しての必要事項を平易に叙述せる書で、給水量外十四章。	▲鋼拱橋の理論と實際を説けるもので、拱軸線、拱助の一般解法外五章。	▲様式、手法、比例の洗練が示せる世界橋梁の鳥瞰圖譜で、東京に於ける主なる橋梁其他の論と其他用外三章。	▲非對稱形架橋並に一般對稱架橋に關する理論とその應用外三章にて論述。索引。	▲一般に起り易い構造的方面の缺陷を主として指摘し其の理由、防止方法を説く。	▲請負實務の一般を記述せるもので、請負業務の概観外九章。	▲土木工事設計の實際に就て述べたもので、敷理關係、材料の規格外四篇。	▲鐵筋コンクリートの計算、數學、水理、土壓及擁壁、橋梁荷重、度量衡比較表。	▲道路、橋梁、治水、鐵道、及材料、製作業等土木に關する示方書、仕様書等を網羅す。	▲基本的設計標準にして設計資料及工事歩掛を括盡せし技術者監督者請負業者の好指針書をイロハで誰でも自由に引ける和英辭典。	▲混凝土及び鐵筋混凝土の理論、原理計算法を記述せるもので、セメント外廿二章。	▲鐵筋、コンクリート、鐵筋コンクリート工法諸式。鐵筋コンクリート施工法。附録。	▲鐵筋コンクリートの計算をなすに必要な資料を収めたもので、表の説明及用例其他。	▲鐵筋コンクリート構造物設計用のノモグラム五十數葉を収めて解説す。	▲配合設計の方針、配合の實驗的決定法、材料の選擇及試驗法外二章。

工業(土木・建築・家具)

近藤泰夫	柴田直光	瓜生康一	山田嘉一	小川敬次郎	工學用語調査會	東京工學研究會	木下武之助 シビル社主幹	佐藤廉平	間嶋則賢	畑中健三	堀井啓次	鷹部屋福平	鷹部屋福平	堀井啓次	畑中健三	間嶋則賢	佐藤廉平	木下武之助 シビル社主幹	東京工學研究會	工學用語調査會	小川敬次郎	山田嘉一	瓜生康一	柴田直光	近藤泰夫
コンクリート配合の合理化	鐵筋コンクリート計算資料	鐵筋コンクリート配合の合理化	通俗コンクリート講話	混凝土及鐵筋混凝土 理論原理	和英工用手語辭典	土木工事設計標準	土木仕様書と歩掛	土木設計建築便覽	土木ハンドブック	新工事請負實務	鐵筋建築工事現場の缺陷	鐵筋建築工事現場の缺陷	世界橋梁寫眞設計圖說	架橋應力研究	架橋應力研究	架橋應力研究	架橋應力研究	架橋應力研究	架橋應力研究	架橋應力研究	架橋應力研究	架橋應力研究	架橋應力研究	架橋應力研究	架橋應力研究
洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判	洋菊 布判
250	129	89	213	352	263	161	610	562	577	294	64	335	307	188	284	312	237	495	298	1513	348	318	53	400	
二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	一、五〇	一、〇〇	四、〇〇	三、八〇	三、八〇	一、八〇	一、二〇	六、二〇	一、〇〇	二、五〇	三、八〇	二、九〇	六、〇〇	二、〇〇	三、〇〇	四、三〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	七、〇〇	
淀屋書店	橋梁研究會	二松堂	大進堂書店	正興館	鐵道圖書局	鐵道圖書局	シビル社	近代文藝社	杉山書店	大倉書店	構成社	正興館	岩波書店	正興館	淀屋書店	太陽社	大進堂書店	工業日本 學會	岩波書店	大倉書店	早稲田大學 出版部	日立評論社	マネジメン ト社調査部	マネジメン ト社調査部	
月一十	月四	月一	月一	月五	月一	月六	月九	月二十	月九	月五	月三	月八	月三	月八	月二十	月一	月一	月四	月九	月二	月二十	月一	月五	月二十	
▲配合設計の方針、配合の實驗的決定法、材料の選擇及試驗法外二章。	▲鐵筋コンクリートの計算をなすに必要な資料を収めたもので、表の説明及用例其他。	▲鐵筋コンクリート配合の合理化	▲鐵筋、コンクリート、鐵筋コンクリート工法諸式。鐵筋コンクリート施工法。附録。	▲混凝土及び鐵筋混凝土の理論、原理計算法を記述せるもので、セメント外廿二章。	▲和英工用手語辭典	▲土木工事設計標準	▲土木仕様書と歩掛	▲土木設計建築便覽	▲土木ハンドブック	▲新工事請負實務	▲鐵筋建築工事現場の缺陷	▲鐵筋建築工事現場の缺陷	▲世界橋梁寫眞設計圖說	▲架橋應力研究	▲架橋應力研究	▲架橋應力研究	▲架橋應力研究	▲架橋應力研究	▲架橋應力研究	▲架橋應力研究	▲架橋應力研究	▲架橋應力研究	▲架橋應力研究	▲架橋應力研究	▲架橋應力研究

工業(土木・建築・家具)

須藤 貫一	家を建てる費用の計算	洋四六布判	318	二、五〇	太陽堂	十月	▲普通程度の住宅を建てる費用に就ての豫備知識を説けるもので、工費の豫備知識其他。
石原 長三郎	建築中流住宅五十種	洋四六布判	260	二、三〇	鈴木書店	九月	▲建築主の注意すべき一般的事柄を述べ中流住宅五十種の略仕様書其他を収む。
佐藤 功一	住宅建築衛生篇	洋四六布判	346	二、八〇	早稲田大學出版部	三月	▲住宅の衛生設備に就て説けるもので、日光給水、汚物処理外六章。
上原 敬二	家の改造と庭の改造	洋四六布判	378	二、〇〇	金星堂	十一月	▲改造の要望、住宅の改造、改造の部分、庭園の改造、土地の改造其他にて論述。
建築學會編	東京復興建築圖集	洋四六布判	274	三、五〇	式丸會社	二月	▲東京横濱兩都市の代表的復興建築百三十七の寫眞及び圖面を載録せるもの。
國際建築協會編	博 物 館	洋四六布判	122	一、三〇	築國協會	一月	▲世界各國の博物館に就き建築的考察と紹介を兼ねたる書。
國際建築協會編	獨逸建築博覽會	洋四六布判	66	二、〇〇	築國協會	七月	▲獨逸最近の建築とそれに關聯せる諸工業を最近の表示法により組織的に解明せるもの。
橫濱市建築課編	復興小學校建築圖集	洋四六布判	140	三、八〇	巧藝社	四月	▲震災後に於ける横濱市内復興小學校中三十一校の建築寫眞及設計圖を収む。
吉岡 保五郎	復興中央建築圖集	洋四六布判	65	一、八〇	巧藝社	一月	▲大都市に於ける重大なる近代施設として最も必要なる中央卸賣市場の圖集。
建築研究會	商店建築設計編	洋四六布判	64	二、二〇	淀屋書店	十月	▲建築設計資料の第一編として商店建築の設計資料を實例圖を以て收録す。
日本藝術學會編	田上義也建築畫集	洋四六布判	111	二、八〇	建設社	二月	▲日本キリスト教會堂、住宅外廿七圖版、建築論(田上)及び田上氏に關する評論四篇。
早稻田大學助教授 今井 兼次編	ソウエイ新興建築圖集	洋四六布判	54	一、八〇	洪洋社	四月	▲モスクワに於ける託兒所設計圖、ハバロスクの市廳舎設計外五十二圖。
川喜田棟七郎編	レイモンドの家	洋四六布判	24	一、三〇	洪洋社	七月	▲立及平面圖、居間の家具、化粧室、子供室、テラスに於ける十九圖。

工業(土木・建築・家具)

洪洋社編	ハウスマン・デッサウ篇	洋四六布判	20	一、二〇	洪洋社	二月	▲校舍、新しく我々の眼に映る、デッサウ労働局、マイスターの家に於ける、デッサウの作品集で、シュネーの別荘外十九葉。
洪洋社編	新興のフランス建築	洋四六布判	20	一、二〇	洪洋社	三月	▲カリフォルニアに於ける健康住宅、ゲユネイブ國際聯盟會館のコンパチション外十八葉。
洪洋社編	R.J.ノイトラ作品集	洋四六布判	20	一、二〇	洪洋社	四月	▲アンドリウス・ジョウウシ商會、イタリー大使館別邸外十八葉。
洪洋社編	アントニン・レイモンド作品集	洋四六布判	20	一、三〇	洪洋社	五月	▲具體的にプレートによつてクラブ建築を展望せるもので二十圖より成る。
洪洋社編	現代のクラブ建築	洋四六布判	20	一、三〇	洪洋社	七月	▲大阪東郵便局、鎌倉電信中繼所、選信省電氣試験所、選信永田町分室の蒐集。
洪洋社編	現代のクラブ建築	洋四六布判	20	一、二〇	洪洋社	八月	▲タリアセンの事務所、アリゾナのビルトモアホテル外十八圖。
洪洋社編	フランク・ロイド・ライトとクリアセン	洋四六布判	20	一、〇〇	洪洋社	九月	▲ベルリンのリヒトブルグ、ストツクホルムのアラマン映畫館外十八圖。
洪洋社編	トーキー・映畫館圖集	洋四六布判	20	一、〇〇	洪洋社	十月	▲淺間重藏氏の設計に成る住宅翠琴莊の寫眞集で、立面圖、牡丹の間外四十八葉。
洪洋社編	住宅翠琴莊	洋四六布判	50	一、二〇	洪洋社	十一月	▲居間の一隅を仕切つた寢室、未婚者の寢室化粧室の一隅外四十七葉。
洪洋社編	寢室及化粧室	洋四六布判	50	一、二〇	洪洋社	十二月	▲ニツセンの或る病院以下病院の建築寫眞を收載す。
洪洋社編	病院建築	洋四六布判	50	一、二〇	洪洋社	一月	▲四時遊覽客の絶ゆることなき京洛の都ホテル及京都ホテルの内外を収む。
洪洋社編	都ホテルと京都ホテル	洋四六布判	50	一、二〇	洪洋社	二月	▲京都山科の清水六兵衛北村傳兵衛氏別荘の内外を網羅し攝影箇所を示せる平面圖を添ふ
洪洋社編	數寄屋造の別荘	洋四六布判	50	一、二〇	洪洋社	三月	

測量・製圖

宮田ア アブ ラハム ハム著 理論電氣工學	岡田秀一 一般測量法 第二編—投影圖法	山中秀男 最近實施實用機械製圖法	秋山匡 初歩測量學	森田虎起 測量法講義	森慶三郎 測量法必携	田村眞太郎 測量技術の實際	諸戸北郎 諸戸測量學	西川友孝編 建築・造園・工藝 第一編—住宅生活の設計 第二編—園藝の設計 第三編—園藝の設計	西川友孝編 建築・造園・工藝 第一編—住宅生活の設計 第二編—園藝の設計 第三編—園藝の設計	西川友孝編 建築・造園・工藝 第一編—住宅生活の設計 第二編—園藝の設計 第三編—園藝の設計	
洋函菊 布入判 268	洋函菊 布入判 249	洋函菊 布入判 237	洋函菊 布入判 217	洋函菊 布判 368	洋函菊 布判 585	洋函菊 布判 471	洋函菊 布判 691	並函菊 製入判 188	並函菊 製入判 158	並函菊 製入判 180	
二、五〇 一、八〇	二、三〇 一、二〇	二、五〇 一、二〇	六、八〇 三、四〇	三、五〇 一、八〇	三、五〇 一、八〇	六、三〇 三、一〇	六、三〇 三、一〇	二、三〇 一、一〇	二、三〇 一、一〇	二、三〇 一、一〇	
講電氣工學會	興文社	工業日報	大進堂書店	澁屋書店	養賢堂	大地書院	成美堂	金星堂	金星堂	金星堂	
月三	月三	月九	月一	月三	月十	月四	月九	月二十	月九	月六	
▲廣般な電氣學基礎の精髄を平易に論述せる書でベクトル及ベクトル界外三篇。	▲自由電子の現象、輻射波と原子の相互作用、電子の性質等電子論。	▲電氣工學の一般に亘つて論述せるもので、電流の現はす諸現象外十四篇。	▲炭坑に於ける電氣の連絡關係を論述せるもので、機械器具類外三篇。	▲實驗心得、弱電流實驗、直流機實驗、交流機器實驗の四節を収む。	▲基礎的理論、整流器の電氣回路の理論と其實験の二篇廿章。	▲難解とされてゐる短電波の特性と其應用の一端を解説せるもので短電波受信機外十四篇。	▲電氣單位及標準器、電壓及電流測定器、電力の測定及電力測定器外五章にて論述。	▲誘導電動機一般及び稍々廣い範圍の應用にまで論及せるもので、速度調整法外七章。	▲初等電氣磁氣學及基礎的實驗、中位抵投の測定外七章にて論述。	▲電力輸送及び配電の各方面に亘つて平易に説明したもので、線路定數以下十章。	▲最も廣く應用されてゐる電燈と照明とに就て論述せるもので、光の恵み外二章。

電氣教育研究會編 電燈及照明	大沼滋夫 電燈と照明	北原眞琴 電力輸送及配電	阿野敏一 弱電流實驗法	磯野達一郎 誘導電動機及其應用	高津清 新電氣磁氣測定	高瀬芳卿 理論波短無線工學	福田勝 整流器	小澤省吾 電氣工學實驗	山方岩熊 實用炭礦電氣工學	伊藤義雄 電氣工學通論	三枝彦雄 新電子論	伊藤義雄 電氣工學通論
洋函菊 布入判 125	並四六 製判 106	洋函菊 布入判 295	洋函菊 布入判 265	洋函菊 布入判 287	洋函菊 布入判 420	洋函菊 布入判 698	並菊 製判 183	並菊 製判 50	洋函菊 布入判 442	洋函菊 布判 154	洋函菊 布入判 320	布函菊 製入判 161
一〇〇	四〇	二、八〇 一、八〇	二、五〇 一、八〇	二、五〇 一、八〇	四、〇〇 二、〇〇	五、〇〇 二、〇〇	一、三〇 八〇	四、〇〇 一、八〇	三、八〇 一、八〇	一、三〇 八〇	四、〇〇 三、三〇	一、八〇 八〇
講電氣工學會	勝利書院	文花堂	文花堂	オーム社	電機學校	誠文堂	オーム社	厚生閣	オーム社	オーム社	内田老鶴園	コロナ社
月三	月二十	月一	月四	月一	月四	月二十	月二十	月七	月四	月六	月四	月十
▲白熱電球の定格、電壓變化の影響、過去の白熱電燈外十八章にて論述。	▲最も廣く應用されてゐる電燈と照明とに就て論述せるもので、光の恵み外二章。	▲電力輸送及び配電の各方面に亘つて平易に説明したもので、線路定數以下十章。	▲初等電氣磁氣學及基礎的實驗、中位抵投の測定外七章にて論述。	▲誘導電動機一般及び稍々廣い範圍の應用にまで論及せるもので、速度調整法外七章。	▲電氣單位及標準器、電壓及電流測定器、電力の測定及電力測定器外五章にて論述。	▲電氣單位及標準器、電壓及電流測定器、電力の測定及電力測定器外五章にて論述。	▲基礎的理論、整流器の電氣回路の理論と其實験の二篇廿章。	▲難解とされてゐる短電波の特性と其應用の一端を解説せるもので短電波受信機外十四篇。	▲電氣單位及標準器、電壓及電流測定器、電力の測定及電力測定器外五章にて論述。	▲炭坑に於ける電氣の連絡關係を論述せるもので、機械器具類外三篇。	▲實驗心得、弱電流實驗、直流機實驗、交流機器實驗の四節を収む。	▲基礎的理論、整流器の電氣回路の理論と其實験の二篇廿章。

青柳 榮司	東京電燈株式會社	照明と電熱	布六判	78	三〇	帝國教育會	一月	▲電燈、照明の實施、屋内照明、電熱の利益、衛生と電熱、家庭用電熱等記述す。
東式電燈株式會社	株式會社	内線規程	布六判	376	一〇〇	東京電燈株式會社	四月	▲東京電燈株式會社全供給區域に適用せる規程を收めたもの。
新出 茂雄	電氣學	電車運轉概論	洋四六倍判	256	二〇〇	東洋協會	一月	▲一般常識的概念及び電車運轉に就ての理論を詳細に述べたもので、電動機特性外七章。
芝浦製作所技師	繁 榮	最新電氣機械器具試驗法	洋四六倍判	533	七〇〇	修 教 社	九月	▲實地の應用を主とし電氣機械器具の試驗法を平易に説けるもので、直流發電機外廿五章。
最新工學普及會編	光電池とその應用	光電池とその應用	洋四六倍判	45	四〇	最新工學普及會	五月	▲光電池の發達及び構造に就いて、光電池出力の増幅外五章。
小西 誠	電氣サイイン	電氣サイイン	洋四六倍判	166	特一、三〇〇	オーム社	九月	▲電氣サイインの基礎知識、電球による電氣サイイン、サイインの維持外二編。
佐藤 一敏	發電機	發電機	洋四六倍判	38	二五	實用工學社	一月	▲直流發電機、一般、種類、電機及反作用、整流作用、構造及材料、特性、運轉等。
佐藤 一敏	發電機	發電機	洋四六倍判	38	二五	實用工學社	五月	▲直流發電機の選擇、代表的製品、發電機用ダイセル、据付及取扱、試驗法等。
前田七之進	變換機	變換機	洋四六倍判	30	二五	實用工學社	四月	▲變壓器型周波數變換機、整流子型變換機、同期及非同期、可變比周波數變換機。
松永 義信	水銀整流器	水銀整流器	洋四六倍判	37	二五	實用工學社	一月	▲水銀整流器の原理、代表的内外製品、教授用水銀整流器、水銀整流器附屬品。
吉田喜久治	電機動機	電機動機	洋四六倍判	169	一、三〇〇	實用工學社	三月	▲直流電動機の原理、構造、電機子巻線法、基本式、磁氣回路電機反作用、整流作用。
佐藤 誠	電氣重要公式とその解説	電氣重要公式とその解説	洋四六倍判	244	六〇	厚生閣	五月	▲電氣事業主任技術者資格檢定試驗第三種を標準として説明した書。
野村 証太郎	電氣學	電氣學	洋四六倍判	244	六〇	大進堂書店	一月	▲電氣學大要其他電氣學全般、發電機、附電氣發明者略傳。

電機學校	電氣學	電氣學	洋四六倍判	233	一、三〇〇	電機學校	九月	▲名士文例四十篇電氣に關す文と技術家文法問題等を收む。
森 秀	電氣法規の話	電氣法規の話	洋四六倍判	94	七〇	電機學校	二月	▲電氣法規の精神を九章一二九節挿圖入りにて説く。
近藤 文雄	直流電機	直流電機	洋四六倍判	382	四、五〇〇	丸善株式會社	九月	▲既に諸學校で行はれつゝある直流電機について講述。
黒川 兼三郎	電氣過渡現象論	電氣過渡現象論	洋四六倍判	304	四、八〇〇	工政會社	一月	▲單純回路と不變電壓、交番電壓、直並列回路、相互誘導回路、ヘビサイド計算法其他。
工學博士 本多 勲	發電所及原動機	發電所及原動機	洋四六倍判	282	二、〇〇〇	工政會社	四月	▲上巻では蒸気タービン及タービュラ発電並其附屬機器等複雑なる装置を解説。
工學博士 本多 勲	發電所及原動機	發電所及原動機	洋四六倍判	154	一、〇〇〇	工政會社	十月	▲中巻には水力發電所及建物機器配置等の最新學理とプラクティスを詳説。
工學博士 野崎 林太郎	發電所及原動機	發電所及原動機	洋四六倍判	143	一、四〇〇	大塚屋書店	二月	▲總論、發電力、河川流量、取入口及堰堤、水路水槽、水壓管、發電所其他。
工學士 片山 數夫	電力制御裝置と配電盤	電力制御裝置と配電盤	洋四六倍判	367	五、三〇〇	コロナ社	四月	▲開閉器、繼電器、電流制限器、保安裝置、電壓調整器、起動用諸裝置等を細説す。
工學士 千 葉 武夫	電力系統の自動制御方式	電力系統の自動制御方式	洋四六倍判	207	二、〇〇〇	コロナ社	五月	▲水力發電所、調相機、水銀整流器、變電所の自動制御、遠方監視、遠方測定等を説明。
工學士 山内 二郎	電燈、晝光、照明工學	電燈、晝光、照明工學	洋四六倍判	152	一、二〇〇	コロナ社	六月	▲術語、單語、輻射視感度視覺、色反射吸收、及透過配光照度計算等基礎事項を解説。
工學士 シェンケル 原著	交流整流子機	交流整流子機	洋四六倍判	244	二、〇〇〇	コロナ社	七月	▲整流子機の應用整流作用各種整流子電機及發電機周波數變換機等を詳説。
工學士 山本 廣三郎	交流整流子機	交流整流子機	洋四六倍判	238	二、〇〇〇	コロナ社	七月	▲各種繼電器の原理套、管及容量變成器發電機、變壓器送電線等の保護繼電方式を詳説。
工學士 藤原 幹興	繼電器及繼電方式	繼電器及繼電方式	洋四六倍判	110	六〇	コロナ社	九月	▲最近發達の非同期機につき二次勵磁制御法自己勵磁自勵調整其他本機の得失を論ず。

奈良坂盛	焚火と其理論	洋南菊	布入判	274	一、二、八〇	東洋書館	六月	▲機關車焚火上緊要なる物理化學の概念、石炭に關する各種の事項を平易に説明したものの炭に關する各種の事項を平易に説明したもの
内藤游	内藤游燃料論集	洋南菊	布入判	458	一、五、一八〇	研究會	二月	▲燃料研究の先覺者内藤博士の論文並に講演五十篇を輯録せるもの。
燃料協會編	燃料問題圖說	並菊	製判	88	一、二、五〇	科學知識會	四月	▲石炭、石油、瓦斯、薪炭、煉炭其他燃料の各種統計及圖表を收めたもの。
吉村萬治	燃料の知識	洋南菊	布入判	486	特二、二〇〇	誠文堂	三月	▲燃料に關しての一般知識を説けるもので、石炭、石油、瓦斯外四章。
成田公平	重油燃焼法百問答	洋南菊	製判	120	二、八〇	式丸善社	十月	▲問答體に書かれたる平易な重油燃焼法。

鐵道工學

石井貞次	空氣制動機(1)	並菊	製判	58	一、五〇	實用工學社	六月	▲W社制動機、一般特長、空氣壓縮機、瓣及附屬品、自動制動機、三動機。
石井貞次	空氣制動機(2)	並菊	製判	47	一、五〇	實用工學社	八月	▲各種の瓣類、制動機及基礎制動裝置、自動制動の作用、單獨制動の作用外七章。
石井貞次	空氣制動機(3)	並菊	製判	60	一、五〇	實用工學社	九月	▲P C式V C式A V式制動裝置、W社空氣信號裝置、S M E制動機、裝置の説明取扱法。
石井貞次	空氣制動機(4)	並菊	製判	61	一、五〇	實用工學社	十月	▲空氣制動機故障の手續、壓縮機、制動機、三動機、裝置の檢査、掃除及取付其他の注意。
坂本種芳	物揚運搬機	上南菊	製入判	240	二、二〇〇	鐵道時報局	一月	▲總論、ホイス、ワイヤ、デリック、クレーン及エレベーターの機構性能等詳述。
坂本種芳	物揚運搬機	上南菊	製入判	210	二、二〇〇	鐵道時報局	二月	▲コンベヤ、掘鑿機、運搬車、荷役機械附屬品の機構性能得失を詳述、仕様書型錄實例。
鐵道省大臣官房	鐵道設計圖表全集	洋南菊	製入判	135	二、三〇〇	鐵道時報局	十月	▲未定式鐵道橋梁及橋脚參考圖を収録す。

自動車・航空工學

古澤健	自動車要録	洋南菊	布入判	404	三、一〇〇	海洋社	十二月	▲自動車各部の構造を根本として解説せるもので、機關各部の構造外十五章。
一戸實	最新の自動車學	洋南菊	布入判	487	二、五〇	立川文明堂	五月	▲自動車の一般、動力發生機能部の構造と機能、電氣諸裝置外三章にて説述。
奥泉欽次郎	最新自動車教科書	洋南菊	布入判	593	三、一〇〇	德文堂	七月	▲最新式各種自動車の機構明細圖四百餘圖に各部分名稱を記入して説明す。
奥泉欽次郎	最新自動車圖解全集	洋南菊	布入判	263	一、五〇	德文堂	八月	▲車臺及車體の實地設計法、設計實例國產自動車及び車輛修理の二篇にて説述。

工業(紡織・染織・化学製造工業)

紡織・染織

永積純次郎	鐵山用器具及機械	布四六倍判	213	四、一〇〇	式丸會善社株	月二十	▲鐵山用一般器具機械の構造、性能及用途について専門家向きに解説せるもの。
-------	----------	-------	-----	-------	--------	-----	--------------------------------------

阿部久次	最近紡織纖維論	洋四六判	331	三、一八〇	培風館	月五	▲紡織物原料となる纖維に關する基礎的知識を叙述せるもので、植物性纖維外三篇。
------	---------	------	-----	-------	-----	----	--

滿鐵調査課編	滿洲の纖維工業	並判	252	一、九〇〇	滿鐵	月三	▲本書は滿洲産業叢書の第六輯として編纂せられたもので纖維工業の一般を紹介。
--------	---------	----	-----	-------	----	----	---------------------------------------

佐藤吉彦	最新染色法	洋四六判	404	三、二〇〇	丸會善社株	月四	▲主要なる染色用纖維、染色用水及薬剤、浸染法外四編にて論述。
------	-------	------	-----	-------	-------	----	--------------------------------

明石染人	染色文様史の研究	洋四六判	430	三、一八〇	萬里閣	月一	▲日本染織史の研究に就き、天壽國補帳の考察、太子間道の研究外十五章にて論述。
------	----------	------	-----	-------	-----	----	--

山田嘉一	通俗染色學講話	洋四六判	232	六〇	大進堂書店	月一	▲染色に用ふる藥品、染料の種類及性質、各種捺染法について各種の染め方、等外數項。
------	---------	------	-----	----	-------	----	--

永井彰一郎	珪酸鹽工業	洋四六判	428	四、五〇〇	共立社	月十	▲珪酸鹽工業の全般に亘つて講述せるもので珪酸鹽工業原料概論外五編。
-------	-------	------	-----	-------	-----	----	-----------------------------------

三井 嗣喜	油脂工業	洋四六判	462	特ニ、三〇〇	誠文堂	月三	▲油脂工業の本論について述べたもので、製油工業、油脂加工工業外四編。
-------	------	------	-----	--------	-----	----	------------------------------------

伊木貞雄	セメントの理論と施行論	洋四六判	492	特ニ、三〇〇	誠文堂	月三	▲セメントに關する全般的の事項を理解し易く記述せるもので、セメント混合物外十編。
------	-------------	------	-----	--------	-----	----	--

堀内利器	香料の知識	洋四六判	556	特ニ、三〇〇	誠文堂	月九	▲實用を主として論述せるもので、香料の鑑定法、天然香料外二章。
------	-------	------	-----	--------	-----	----	---------------------------------

田中芳雄	塗料の知識	洋四六判	652	特ニ、三〇〇	誠文堂	月九	▲塗料の製造及び塗裝に關する概念を前半に試験法を後半に記述せる書。
------	-------	------	-----	--------	-----	----	-----------------------------------

工業(印刷・製本)

印刷・製本

三谷幸吉	印刷物詠方の秘訣	洋四六判	240	二、一八〇	印刷改造社	月一	▲印刷利用者の爲に解り易く説明した書で、印刷術上の用語、活版術其他十三章。
------	----------	------	-----	-------	-------	----	---------------------------------------

坂本 義夫	最新製本術	洋四六判	436	五、一八〇	ドブムツ社	月八	▲製本に關する術語の字義、紙の扱ひ方、複寫もの仕事外十二章。索引。
-------	-------	------	-----	-------	-------	----	-----------------------------------

一三、農業

(6-1)

農業(農業一般)

著者	書名	形態	頁數	定價	發行所	月行發	内容大意
佐藤 寛次	新農業精下説	洋函菊 布入判	790	六、三〇	刊西行ケ會原	月五	▲下巻は養蠶養鶏牛馬豚等の畜産林業農業經營其他重要事項を網羅す。
小出 満二	農業通論	並菊 製判	172	六、一八	青年教育會	月一十	▲農業の意義、農業の發展、栽培汎論、作物の環境、栽培各論、蠶糸、栽桑、養蠶、畜産等。
鈴木 甚喜	農業の發達	洋菊 布判	162	七、七	明文堂	月一	▲農業の發達、我が國農業の發達、神代、神武天皇より平安朝、鎌倉室町時代外七章。
近藤 康男	農産物生産費の研究	洋函菊 布入判	254	二、〇〇	刊西行ケ會原	月七	▲農産物生産費を中心問題とした農業經濟の實證的研究で、柑橘の生産費外三章。
綜合農學編	補助・奨励金のある地方事業	並菊 製判	230	一、五〇	經眼社	月八	▲種々の部、副業の部、養蠶の部、水産の部其他にて補助奨励事業に就て述べたもの。
山梨縣教育會編	農業讀本	上菊 製判	80	各三、六	甲府朗月堂	月九	▲實業補習、青年訓練所の教科用に充て編纂せるもの、第一、第二、第三卷に分る。
清水 及衛	農家經營の實際	並四六 製判	76	二、八	日本青年館	月二	▲簡單なるパンフレットにして農家經營の實際を述ぶ。
帝國農會編	不況と農業經營の改善	並四六 製判	36	二、〇	帝國農會	月九	▲農業經營とは何ぞや、經營と生産技術改善の實益は何か、農村不況打開と經營改善等。

五二七

東京堂定期刊行物

- ◇出版年鑑 (年一回。定價一圓)
- ◇東京堂月報 (月一回。定價十錢)
- ◇新刊案内 (月三回。無代進呈)
- ◇雜誌總目錄 (年三回。無代進呈)
- ◇圖書目錄 (年一回。無代進呈)
- ◇圖書雜誌目錄 (年一回。無代進呈)
- ◇エス語書類宣傳誌 (不定期。無代進呈)

東京市神田區錦町三ノ一八
株式會社 東京堂

振替東京二七〇番

五二六

農業(作物・園藝)

山本 豊次郎	石井 勇義編	石井 勇義編	山 岸 守	米内山 泰介	野崎 信夫	大島 甚三郎	五十嵐 梧樓	吉 村 巖	高木 輝治	副業薬草普及會編	高木 輝治	北海道帝國大學助教授 島 善 郎
實験米麥改良増作法	最新新蔬	最新新花	栽培蔬 菜園藝	栽培蔬 菜園藝	野菜の作り方	孟宗筍栽培法	理論とマスクメロン栽培法	年中住宅野菜園藝	苺と蕃茄の栽培法	庭園薬草栽培の仕方	庭園薬草栽培の仕方	庭園薬草栽培の仕方
並四菊	洋四菊	洋四菊	上菊	並四菊	洋四菊	洋四菊	布四菊	洋四菊	上四菊	上四菊	上四菊	洋四菊
製入判	布入判	布入判	製判	製判	布判	布判	製入判	布判	製判	製判	製判	布判
254	567	685	860	80	278	494	295	204	143	148	558	558
一、〇〇	四、〇〇	四、〇〇	六、〇〇	四、〇〇	一、五〇	一、八〇	一、二〇	一、二〇	六、〇〇	六、〇〇	四、〇〇	四、〇〇
大進堂書店	誠文堂	誠文堂	研友社	明文堂	春陽堂	博文館	西行會原	文書堂	銀座書房	岡村書店	誠文堂	誠文堂
月六	月六	月六	月一	月二十	月三	月八	月六	月六	月三	月七	月九	月九
▲品種の改良に就て、改良米麥作法、稻病と害虫、多收穫と厩肥及堆肥、外敷項。	▲園藝の意義と其範圍(辻村常助) 世界園藝發達史(大中上康) 外八篇。	▲蔬菜栽培の總論(喜田茂一郎) 日本蔬菜の栽培(齋藤亨) 外三篇。	▲主穀農業の經營中に蔬菜栽培を取入れんとする實際家の爲めに説述せるもの。	▲總論七七頁各論八十一種七二頁に亘り説述し尙病虫害並殺菌劑及防除法を記述。	▲總論、育苗場、苗床、醗熱物、床土、各論茄、トマト、胡瓜、南瓜、西瓜其他。	▲野菜栽培に關する一般的大切な事柄について平易に説けるもの。	▲農家の副業として極めて適切な孟宗筍の栽培に就て述べた書で孟宗畑立法外七編。	▲植物栽培中最も困難とされてゐるメロンの栽培に就て述べた書。	▲住宅野菜園藝と庭園及細部、住宅野菜園藝の實際外三章より成る住宅野菜園藝指導書。	▲家庭園藝として最も趣味の多い苺とトマトの作り方を平易に説ぶ。	▲薬草栽培の方法を平易に説けるもので、薬草栽培の三要項其他。	▲リンゴ栽培に就て説述せるもので、リンゴ栽培と天然要素外十六章。

農業(作物・園藝)

高橋 郁郎	小田 鬼八	白木 正光	石井 勇義編	石井 勇義編	石井 勇義編	石井 勇義編	石井 勇義編	石井 勇義編	石井 勇義編	石井 勇義編	石井 勇義編	石井 勇義編	石井 勇義編	石井 勇義編	石井 勇義編	石井 勇義編	石井 勇義編	石井 勇義編	石井 勇義編	石井 勇義編
柑	樹園藝	楽しい家庭園の作り方	最新新花	最新新花	最新新花	最新新花	最新新花	最新新花	最新新花	最新新花	最新新花	最新新花	最新新花	最新新花	最新新花	最新新花	最新新花	最新新花	最新新花	最新新花
洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊
布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判
448	695	458	447	484	481	543	540	647	728	687	210	209	209	210	687	728	647	540	543	481
三、八〇	一、五〇	一、二〇	四、〇〇	三、五〇	三、五〇	四、〇〇	三、五〇	四、〇〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇
養賢堂	養賢堂	婦女界社	誠文堂	誠文堂	誠文堂	誠文堂	誠文堂	誠文堂	誠文堂	誠文堂	誠文堂	誠文堂	誠文堂	誠文堂	誠文堂	誠文堂	誠文堂	誠文堂	誠文堂	誠文堂
月八	月四	月四	月四	月四	月五	月五	月五	月五	月五	月五	月三	月九	月九	月三	月五	月五	月五	月五	月五	月五
▲世界の柑橘業、日本の柑橘業の趨勢、柑橘の性質、柑橘と風土外廿一篇。	▲栽培本位に果樹の理論と實際を説けるもので、果樹園の設計外廿一章。	▲家庭園を一つの有機的存在として園藝を説けるもの、花作り野菜作りの年中行事其他。	▲觀賞植物總論(宮澤文吾) 花卉裝飾法(恩地剛) 外三篇輯録。	▲球根植物(大塚春雄) 球根の營利栽培(湯淺四郎)の二編を収む。	▲温室植物の栽培(石井勇義) 仙人掌類及多肉植物(大塚春雄) 外四編。	▲觀葉植物類(石井勇義) 椰子類(水田岩次郎) 園科植物(岡見義男) 外五篇。	▲朝顔の栽培(萩原時雄) 日本櫻草の栽培(松崎正枝) 外五篇。	▲果樹栽培の理論(淺見與七) 果樹園經營法(恩田鐵彌) 外五篇。	▲温室建築の理論(辻村常助) 温室の實際建築法(伴田四郎) 外六篇。	▲植物の病害豫防(折内吉彦) 蔬菜及び花卉の病害(堀正太郎) 外四篇。	▲夏より秋を觀賞期とする花卉類一九七種を圖説せるもの。	▲第三卷は冬より春にかけて開花を見る花卉類を主として收めたもの。								

農業(作物・園藝)

浅川 英一	行中四季の園藝	洋園四六 布入判	458	二〇〇	資文堂	月九	▲家庭園藝の手引書として平易に説けるもので、一月の園藝行事外十一篇。普及版。
石井 勇義	牡丹花菖蒲の作り方	洋園四六 布入判	234	一、三〇	誠文堂	月一	▲牡丹の作り方、芍薬の作り方、花菖蒲の作り方外二篇にて通俗的に説く。
教育會編	説花 卉栽培法便覽	洋園三六 布入判	325	一、三〇	研友社	月十	▲各植物の性状、栽培の要點、繁殖法其他にて栽培法を記述す。
西島 樂峰	花卉栽培實際問答集	上四六 製判	256	一、三〇	春陽堂	月五	▲栽培上の質疑を主に副業としての園藝、生産品の販路其他三百問に答へたもの。
安達 正博	誰にも出来る 球根草花	洋園四六 布入判	237	一、三〇	二松堂	月四	▲球根植物の一般的知識、春植するもの、秋植するもの等にて極く平易に説く。
吉村 巖	庭本位の草花園藝	上四六 製判	335	一、三〇	教育研究會	月四	▲素人の爲に庭本位の草花園藝を説けるもの。
伊佐 義朗	草花の作り方	上四六 製判	143	一、三〇	資文堂	月三	▲春蒔の草花に就ての種々な知識を説いたもので、春蒔く草花其他。
岩田 豊三	チューリップとヒヤシンス	上四六 製判	125	一、三〇	資文堂	月三	▲球根草花の中で一番美しいチューリップとヒヤシンスの作り方其他を説く。
西島 樂峯	カーネーションと常夏	上四六 製判	127	一、三〇	資文堂	月三	▲初めて栽培を試みられる方の爲にカーネーションと常夏に就ての知識を説けるもの。
盧 貞吉	栽培法	布四六 製判	430	七、三〇	養賢堂	月三	▲植物學上の位置、來歴、種類、産額、價格氣候土質、繁殖法、種球、栽培法外十章。
石橋 律雄	百合栽培法	布四六 製判	200	七、三〇	明文堂	月五	▲大菊栽培に關する一切の事項を網羅せるもので、大菊の種類と品種外十五篇。
清井 清徳	大菊の作り方	洋園四六 布入判	229	一、三〇	博文館	月十	▲菊の種類と形状、菊の栽培研究、大菊の見頃と其の色彩外十篇。
小林 憲雄	草月の研究と培養	洋園四六 布入判	100	一、〇〇	博文館	月六	▲大正昭和の草月とその觀賞上の標準、草月の花及葉の變化外六篇にて説く。
北 貢	おもとと栽培法	上四六 製判	181	六、〇〇	銀座書房	月四	▲古くから都鄙を通じて栽培されてゐるおもとと栽培法を説けるもの。
西島 樂峰	懸崖菊の栽培	上四六 製判	126	一、三〇	春陽堂	月四	▲小菊栽培上の全般に就ての知識を説けるもので、懸崖菊の來歴其他。
井谷 正己	出来るも 蜜柑箱園藝	洋四六 布判	278	一、三〇	博文館	月四	▲蜜柑箱園藝に就ての必要な知識を説けるもので、通説各説の二篇。
宮澤 文吾	盆栽	洋四六 布判	446	四、三〇	養賢堂	月四	▲盆栽の意義、盆栽植物の形態、觀賞及び陳列、樹木類外十五章。
住田 正雄	盆栽	布四六 製判	200	一、〇〇	博文館	月十	▲我國盆栽の由來、發達及び其現今、盆栽の具備すべき要件外六篇。
野崎 信夫	小物盆栽の仕方	洋園四六 布入判	444	一、三〇	博文館	月九	▲主として小物盆栽の仕方方を説明し山野及野草の培養法を附録とす。

農業(林業・造園)

東亞經濟調查局編	◎我國木材需給と米材滿洲	並編	183	一〇〇	東亞經濟調查局	月二十	▲日本に於ける木材需給、合衆國に於ける森林、日本市場に於ける米材外二章。
三浦 伊八郎	森の生産學	洋園四六 布入判	622	四、三〇	興文社	月四	▲現代林學林業上主要なる問題に重點を置き、て詳述せるもので、森林の要素外五篇。
青木 繁	森の顧み	洋四六 布判	416	二、八〇	山日林會本	月六	▲山林と人生、山林と國家、國土綠化、山林都市、俊寛紅葉、自然の贈與、植樹心理等。
大日本山林會編	明治林業逸史	布編	1,400	七、三〇	山日林會本	月五	▲汽車の飛ぶ今日迄林業發達上の逸史逸語。飛行機の飛ぶ今日迄林業發達上の逸史逸語。
農業試験場編	林業試験彙報	並編	100	四、〇〇	山日林會本	月二	▲シラカシ種粒と苗木生長との關係、鴨綠江材、材質試験、國際林業試験場會議復命書。

農業(林業・造園)

五十嵐 孝治	上原 敬二	小寺 駿吉	石井 勇義	石井 勇義	北村 義重	鳥田 錦藏	農林省林業試験場	農林省山林局編	伊藤 武夫	林業試験場	林業試験場
家庭造園と副業庭園	庭園の鑑賞と築造	造園の鑑賞と築造	最新新造園法	最新新造園法	和蘭林業語彙	英文林業教科書	森林氣象彙報	優良森林組合事例	佛國海岸	林業試験報告	林業試験報告
洋四六 布入判 731	洋四六 布入判 284	洋四六 布入判 269	洋四六 布入判 427	洋四六 布入判 453	洋三五 布判 285	布四六 裝判 132	並菊 製判 236	洋菊 布判 286	洋菊 布判 32	並四六 製判 114	並菊 製判 102
二、一〇〇	二、二〇〇	五、五〇〇	特三、一〇〇	特三、一〇〇	二、五〇〇	一、五〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	二、〇〇〇	一、二〇〇	四、五〇〇
博文堂	金星堂	金星堂	西行會	誠文堂	式會社	山大會	山大會	山大會	山大會	山大會	山大會
月二十	月二	月三	月五	月五	月四	月一	月三	月二	月四	月二十	月四
<p>▲米杉割材の材積計算法、林業試験協議會の概要。</p> <p>▲黒松林落葉採集度試験、ヒバ生立木の溝腐病、ツケ樹脂の成分、高野マキ精油成分等。</p> <p>▲副業獎勵、林産振興の先驅として現はれたるもの、造林適地、植付方法、樹脂採取等。</p> <p>▲全國森林組合一千百餘の内より成績の優秀なるもの六十餘を選び其の經營方法を示す。</p> <p>▲樹木伸長期と氣候、樹木の通發水量、夜間昆蟲誘火と氣象、彼岸櫻の開化等。</p> <p>▲林業林業上の術語を知ると共に外國の林業を英文にて紹介。恒續林批判森林官生活等。</p> <p>▲獨和と和獨を併用した甚だ便利な林業語彙。</p> <p>▲西洋庭園史(田村剛) 遊園地の設計と施設(戸野琢磨) 外二篇。</p> <p>▲日本の景勝と國立公園(本多静六) 日本庭園の發達史(龍居松之助) 外三篇。</p> <p>▲公園樹木に就て(三木謙吾) 國有林の風景地と風景施設(柳下鋼造) 外二篇及抄録。</p> <p>▲鑑賞、日本庭園史、西洋庭園史、築造、設計の根據の五篇にて解説。</p> <p>▲中流程度の生活状態を基準として述べたもので、遊園の地割、庭石と岩組、外四章。</p> <p>▲庭園と園藝に就て十八種の副業的施設に就て述べたもので、副業的施設の意義に就</p>											

農業(養蠶・栽桑・畜産・家畜)

千坂 高興	水野 辰五郎	栗田 國哉	細野 信太郎	福田 表治	永田 新司郎	遠藤 保太郎	井口 賢三	境野 恵佐	佐々木 誠一	永田 厚平
養蠶の特約養蠶組合の解剖	蠶繭の繭	養蠶安全育の妙味	桑園國是育園説	質簡易活桑育蠶法	桑園と桑	桑樹實驗法	畜産	最新畜産製造論	相牛新論	豚の飼養標準
洋四六 製判 151	洋菊 布判 600	並四六 製判 113	布菊 製判 50	洋四六 布判 260	並四六 製判 92	洋四六 布判 300	洋四六 布入判 469	洋四六 布入判 473	洋四六 布入判 182	洋四六 布入判 200
四、五〇〇	四、三〇〇	七〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	二、七〇〇	一、〇〇〇	四、八〇〇	四、八〇〇	一、五〇〇	二、五〇〇
明文堂	明文堂	丸山舎	明文堂	明文堂	純眞社	明文堂	興文社	有誠堂	有誠堂	資文堂
月二	月八	月六	月五	月五	月七	月十	月七	月八	月一	月一十
<p>▲特約養蠶組合とはどんな組合か、繭の取引と製絲家の對策外八篇にて論述。</p> <p>▲蠶の品種と蠶質論、飼育環境と繭質論、營繭環境と繭質論、繭質價值論外十八篇。</p> <p>▲目下全国的に普及されつつある新式安全育蠶法の妙味を詳述せるもの。</p> <p>▲桑園に直接蠶兒を飼育する方法を、寫眞で示し之に簡単に説明を附してある。</p> <p>▲蠶糸業の大勢、桑樹の發育器官、蠶品種、形態、桑葉養分上の理論との實際外九。</p> <p>▲桑の本性、桑苗の作り方、桑苗の移植、桑園の管理、桑園の肥料外四章。</p> <p>▲桑の形態、生理に關する諸種の實驗法を記載し栽桑の基礎知識を解説す。</p> <p>▲原論(家畜の分類、家畜の管理外七章) 各論(畜牛、綿羊外六章)。</p> <p>▲實地に應用出来るやう平易に論述せる好指針書で、乳汁、食肉外一編。</p> <p>▲和牛の本質を明らかにする相牛法の外に生産の概念及び人畜の因果關係其他を論及す。</p> <p>▲仔豚、各養分の豚に對する生理價、新飼養標準及其應用外十三章にて論述。</p>										

農業 (農産製造・副業)

水産試験所技師 木村金太郎	大島脚養七市郎	眞海漁業所 眞海恒	農林技師 宮田彌治郎	昭芋克峨	満鐵調査課編
クロモシーリス 魚の味と選み方	新最養貝讀本	新海産物利用法	冷凍冷蔵の話	鮎の飼ひ方秘法	満洲の水産業
並四六製判	洋函菊布入判	洋函菊布入判	並四六製判	並四六製判	並四六製判
77	289	530	150	86	291
四〇	三〇	五、三〇	一、三〇	八、五〇	一、五〇
三省堂	杉山書店	杉山書店	水産業社	丸山舎書店	満鐵
月二	月六	月一十	月一十	月十	月六
▲魚肉と獸肉との價値の比較、魚肉の榮養價値、魚肉の脂肪量の季節的變化外五章。 ▲産業上重要と思はれる貝類を増殖の方法を主として述べた書。 ▲魚類の食用價値に筆を起し精細に説述せる書で、魚類の形態及び習性外十二章。 ▲冷凍の應用、冷凍業の大勢、冷凍の利用とその効果、冷凍設備、ドライアイス、その他。 ▲鮎の戸籍、池の準備、飼養の設備、飼養法、餌料、管理、害敵、成長率と收穫率、販賣。 ▲本書は満洲産業叢書の第四輯として編纂せられたもので第一編漁業、第二編鹽業。					

農産製造・副業

農學博士 高橋 偵造	農學博士 高橋 偵造	住江 金之	里正 義	加藤 謙一	星野 佐紀
合農産製造學	合農産製造學	實用農産製造學	乳	製漬物加工法	アメリカの肥料食料の製造
革入判	布入判	布入判	布判	布入判	洋函菊
552	706	537	1,500	411	303
五、五〇	六、八〇	四、五〇	二、〇〇	三、五〇	二、〇〇
刊西行會原	刊西行會原	興文社	明文堂	研友社	水産業社
月二	月五	月二	月四	月四	月二十
▲園藝作物加工篇、工藝作物加工篇、林産物加工篇、水産物加工篇外一篇。 ▲醸造の萬般に就て述べたもので、麴、清酒、赤酒地傳酒及び地酒外十八章。 ▲多數の挿畫圖版等を入れて實務の参考となるやう説述せるもので、製茶外十四篇。 ▲前編、乳汁、乳汁調製品、アイスクリーム、乾酪、乾酪素及乳糖、後編、鑑定法。 ▲總論(十一章)主要漬物材料の栽培(六章)漬物の漬け方(七章)の三篇より成る。 ▲東及南阿弗利加、南阿爾邦の鳳梨罐詰業、歐洲市場に於ける鳳梨罐詰外十篇。					

農業 (農産製造・副業)

農學博士 永松 陽一	渡邊 敏郎	報知新聞社	通信新聞社	社會教育協會	大阪朝日新聞
農家の副業	農家副業全書	儲かる副業	儲かる副業	副業のすすめ	われ等の生きた副業を語る
上四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判
398	132	374	32	480	480
一、三〇	一、三〇	六、五〇	二、〇〇	八、五〇	八、五〇
科學知識會	蠶業新報社	東洋經濟社	新報社	社會教育協會	朝日新聞社
月三	月十	月八	月三	月十	月十
▲一反歩三頁圖案圖作に於ても百圓の收入ある唯一の好副業として指導せるもの。 ▲農産水産林産畜産の副業五十種につき一々仕事の方法生産品の賣先等を詳細に説明す。 ▲眞綿、漆樹、傳書鳩、孟宗筍、鮎、製茶、緬羊、養蠶、百合壘詰外數十篇。 ▲養蠶の巻、藥草の巻、養豚の巻、促成蔬菜の巻、鮎の巻外五篇。 ▲柿のつくり方(恩田鐵彌)利益の多い山羊(渡會隆藏)外二篇及附録一篇。 ▲關西の各府縣にわたり三十一ヶ所に於いて催せる副業座談會の記事を集録す。					

一四、理科學

坂田徳男譯	カン 判斷力批判	定價五・〇〇 送料二・二〇
速水敬二譯	ヘーゲル哲學體系(第一部) 論理學	定價四・五〇 送料二・二〇
速水敬二譯	ヘーゲル法の哲學	定價四・〇〇 送料二・二〇
岡田隆平譯	カントからヘーゲルへ	定價二・〇〇 送料一・二〇
小川・佐藤	ヘーゲルへ	定價二・〇〇 送料一・二〇
三木 清著	觀念形態論	定價一・八〇 送料一・二〇
川内唯彦譯	史的一元論(普及版)	定價一・〇〇 送料一・二〇
川内唯彦譯	マルクス主義宗教論	定價一・〇〇 送料一・二〇
矢島祐利著	近世物理學史序説	定價二・二〇 送料一・二〇
寺田寅彦著	萬華鏡	定價一・八〇 送料一・二〇
藤原咲平著	氣象と人生	定價一・八〇 送料一・二〇
フリーチエ著	歐洲文學發達史	定價一・七〇 送料一・二〇
外村史郎譯	理論藝術學概論	定價一・五〇 送料一・〇〇
外村史郎譯	世界藝術發達史	定價二・七〇 送料一・七〇

院書塔鐵 田神京東 通橋ツ一
九八七三二東東替振 九八七二九話電

(6-1)

石井 悅朗	科學概論	洋四六 布入判	二、〇〇	厚生閣	月六	▲科學全般の領域に涉つて論説をなせるもので、科學的心理外七編。
寺田寅彦譯	科學的宇宙觀の變遷	並四六 布入判	二、〇〇	岩波書店	月十	▲宇宙の生成に關する自然民の傳説、開闢論に於ける無限の觀念外八篇。
東京天文臺編	理科年表	洋四六 布入判	一、五〇	東京大學	月一十	▲曆部、天文部、氣象部、物理化學部、地電部其他より成る理科年表。
中瀬古六郎・江原眞伍・神林一雄・上原益三・藤原眞伍	明治治科學史	洋四六 布入判	二、三〇	日本文學社	月十	▲總説(中瀬古六郎) 地質學(江原眞伍) 學氣學(神林一雄) 醫學(藤原眞伍) 外一篇。
永井 潜	人及び人の力	洋四六 布入判	一、八〇	京都人文書院	月五	▲自然科學より唯心論へ、不老長生、科學と人生外十二篇。
田制佐重述	科學者を通じて科學の精神を語る	洋四六 布入判	一、八〇	文教書院	月五	▲科學の精神、俗説の批判、法則の發見、無限への憧憬外八章。
伊豆 公夫	現代自然科學の辯證法による反省	並四六 製判	一、〇〇	同人社	月五	▲現代自然科學の認識と方法、最近の諸問題に就て、自然科學史概要外二篇。
藤原咲平・外七博士	科學と人間生活	並四六 製判	一、五〇	章華社	月十	▲氣象學、民族心理學、生物學、海洋學、進化論、地質學等網羅した書。

五四一

理科學(科學一般)

五四〇

目錄圖進

(6-2)

日本學術協會編 第六卷	日本學術協會報告	洋四六倍 布判	950	六、〇〇〇	式丸會善社株	月六	▲主として理化學方面の學術報告。
大阪毎日新聞 編	科學は語る	布四六 裝入判	480	二、〇〇〇	天人社	月三	▲大阪毎日新聞に掲載せる「科學は語る」と題する趣味的記事七十九篇、を収録せるもの。
東京朝日新聞編輯部長 石川六郎	最新科學の話題	布四六 裝入判	264	三、〇〇〇	朝日新聞社	月三	▲科學を一般に理解し易いやう記述せるもので、電氣の世界外四章。
社會教育協會 編輯部	學藝夜話 第一集	並四六 裝判	36	二、〇〇〇	育社會協會教	月二	▲富士山頂の新春(佐藤順一)距離の減却(山本忠興)花の春ひらく(三好學)外二篇。

物理・化學

京都帝國大學物理 化學研究室編	物理化學の進歩 第五卷第一編	並菊	141	一、五〇〇	至文堂	月五	▲高麗に於ける五酸化窒素の分解(城野和三郎)外五篇及抄録雜報。
京都帝國大學物理 化學研究室編	物理化學の進歩 第五卷第二編	並菊	153	一、五〇〇	至文堂	月八	▲還元ニツケル存在に於ける一酸化炭素の分解(李泰圭)連鎖反應に就て(市川誠治)外。
一瀨正己編	物理學 一上卷	洋菊	461	四、〇〇〇	培風館	月四	▲上卷には力學物性音及び熱に關する部門を収録す。
一瀨正己編	物理學 一下卷	洋菊	582	五、〇〇〇	培風館	月六	▲下卷は電氣、磁氣、空間輻射波(光其他)及び原子、電子に關して論述せるもの。
片岡本秀治	物理學實驗基礎	洋菊	428	三、九〇〇	パワー社	月六	▲應用を主として物理學實驗に就て論述せるもので、長さ面積の測定外十二章。
池野國三 本國三夫郎	物理學實驗法講義 下卷	洋菊	554	五、三〇〇	培風館	月十	▲下卷は靜電、電流、力及び運動の諸部門に關する物理學實驗法の講義。
大久保準三	實驗測定法及び實驗器械	洋菊	455	四、〇〇〇	岩波書店	月四	▲物理學の測定實驗の方法實驗裝置器具の一般を説明せるもの。
三枝彦雄	新電子論	洋菊	299	四、〇〇〇	内田老鶴園	月五	▲自由電子の現象、輻射波と原子の相互作用電子の性質外一編にて論述。

(6-3)

大久保準三	傳熱諸論と其適用	洋四六倍 布判	391	六、〇〇〇	岩波書店	月九	▲輻射内の熱傳導、對流による傳熱、輻射による傳熱外一章にて論述。
外光八正氏	熱學	布四六 裝入判	312	二、〇〇〇	岩波書店	月十	▲溫度、溫度に伴ふ變化、熱の傳播、混合と溶解、勢力學外四章。
山田幸五郎	幾何光學	洋菊	193	二、〇〇〇	共立社	月九	▲光學機械の必要な基礎的事柄を網羅せるもので、較りの作用外九章。
山田幸五郎	幾何物理學	洋菊	186	二、〇〇〇	共立社	月十	▲幾何光學の範圍、平面反射の應用、光の屈折に關する諸問題外七章。附録問題集。
竹内時男	工業物理學(二) 新統計力學	洋三六 布判	130	一、二〇〇	内田老鶴園	月二	▲古典的統計力學、新統計力學の二章に大別して電氣化學工業等の技術者に説く。
竹内時男	工業物理學(一) 最新應用X線分析	洋三六 布判	136	一、四〇〇	内田老鶴園	月三	▲専ら最新の狀況を傳へたもので、X線スペクトルに依る原子分析外二章及附録。
小幡重一	音樂愛好者音響學	洋菊	237	三、〇〇〇	内田老鶴園	月七	▲音響の一般的性質及其種々なる奏法の學術的意義等に關して論述せるもの。
矢鳥祐利	近世物理學史序説	洋菊	231	二、二〇〇	鐵塔書院	月二十	▲ガレイを中心として、ヘルムホルツを中心として外十章にて論述。
東京工大助教授 理學博士 竹内時男	物理學的新世界像	洋三六 布判	264	五、〇〇〇	春秋社	月一十	▲最新の物質觀、アインシュタインの新相對律、高層大氣と無線通信外廿六章。
エザント著 吉譯	物理的世界の本質	洋四六 布判	551	二、七〇〇	岩波書店	月二十	▲舊物理學の崩壞、宇宙に於ける人間の位置、科學と神祕説外十二章。
金子英雄	生物物理學要論	洋菊	400	四、五〇〇	培風館	月五	▲外觀より内觀へ、エネルギー原理、反應速度の様式外一篇にて論述。
正路倫之助	自然科學の物理化學	洋菊	479	五、〇〇〇	日本評論社	月二十	▲滲透現象の理論、生物に於ける滲透現象、界面張力の理論外十四章。
吉村壽人	生物物理化學	洋菊	299	二、八〇〇	共立社	月一十	▲酸化還元電位、原形質膜及び半透過性、電解質と其の作用外四篇。

青木一郎	内藤卯三郎	大幸男吉	松原篤四郎	依田君治	竹内時男	西川裕	石川總雄	岩永源作	木村健二郎	岩村新	鈴木金一	石井新太郎
力學の發達とその歴史的批判的考察	電磁氣學要論	物理化學綱要	家庭物理化學十講	物理實驗書	物理學	化學	無機化學	訂改橫觀無機化學	無機定性分析	定性分光化學分析	用應定量分析法	物理學
洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊
布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判
517	564	280	215	60	149	162	498	322	264	223	430	95
五、〇一八	五、三三〇	二、一八〇	一、八〇〇	四、五五〇	六、四五〇	六、五五〇	四、五〇〇	二、二八〇	二、一四〇	三、一五〇	三、三〇〇	一、一八〇
内田老鶴園	培風館	富山房	文光社	朗月堂	青年教育會	青年教育會	普及教育會	共立社	培風館	共立社	裳華房	裳華房
月五	月二十	月五	月一	月三	月一十	月一十	月一十	月十	月二十	月九	月三	月三
▲靜力學原理の發達、動力學原理の發達、力學の形式的發達外二章にて譯述	▲靜電氣論、磁氣論、直流論、交流論、電氣振動論、真空管論、物質構造論。	▲中等教育の化學數學及び物理學の修了者にわかる程度を標準に論述す。	▲家庭内に於ける物理化學現象中重要事項を選んで十講にて平易に解説せる書。	▲初學者の物理學實驗上の困難を解りやすく説明せるもの。	▲熱と人生、光と人生、物質の世界、流體の釣合、靜電氣の話外十一講。	▲空氣、水の知識、元素とは何か、燐寸と爆發、衣服の化學外十二章。	▲元素の週期律、酸素及びオゾン、金屬元素を遊離する方法外十七章にて論述。	▲理論化學無機化學二篇。新に重要事項を増し數十ヶ所を改訂し大學入試問題増加。	▲濕法に關する基礎的事項、陽イオンの分析應用無機定性分析外六章にて論述。	▲分光器による定量化學分析に關する研究で定性總論外二編及附録、索引。	▲應用化學、採鑛冶金、藥學、農藝化學科の學生、技術家の參考書。	▲ワイマール博士指導の下に著作し大幸男吉博士の校閲を経て出版せるもの。

加納清三	堀本竹治	堀原義之丞	倉橋治信	北岡馨	白井俊明	箕作新六	大谷武夫	永海佐一郎	朝比奈泰彦	清水藤太郎	山田賢治	内閣資源局編	太陽堂編
近世有機化學講義	要有機化學	分	化學熱力學	非金屬	化學熱力學	化學平衡論	醇素研究法	化學之基礎	植物藥學名典範	工業・化學藥品標準用語辭典	藥品標準用語集	物理化學ハンドブック	
洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊	洋圖菊
布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	
750	469	267	433	214	362	427	767	251	428	217	92	642	
六、五三〇	三、一八〇	三、一四〇	五、一八〇	二、一四〇	二、一五〇	三、一八〇	六、〇〇〇	九、〇〇〇	八、一八〇	一、五五〇	二、二五〇	三、二五〇	
内田老鶴園	丸善社	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房	
月二	月二	月十	月十	月五	月一十	月一十	月一十	月一十	月五	月五	月二	月四	
▲環式化合物の下に之を十九系に振り重要化合物の構造及其實驗的證據を系統的に論述す	▲脂肪族化合物、芳香族化合物、生物界より得る複雑なる化合物の三編にて論述。	▲主として有機化學に立脚點をおいた化學史の一面に就て論述せる書。	▲上巻は總論、熱力學第一則、平衡、純相場一系外四章より成る。	▲第三卷は化學の起原(柴田雄次)非金屬(北岡馨)の二篇。並に附録六十條。	▲元素の週期律、元素の產出狀態と其分離、アルカリ土金屬外十六章。	▲熱力學第一法則、熱力學的平衡、地質系の化學平衡、界面現象外八章。索引。	▲近來醫學農學動植物學方面に旺盛になつた醇素の研究法に就て論述。	▲化合物、化學式の推定、化學反應の解釋、化學方程式の解法外二編。	▲植物藥學者が植物藥物の命名に必要なラテン語の文法を初歩より講述せるもの。	▲資源審議會選定、内閣訓令告示の順序に従つて標準用語を網羅解説す。	▲平易、簡明、語感よき標準用語に統一せられた藥品名の一覽、在來語の索引を付す。	▲物理學要項、化學要項、物質構造論、諸點の五部より成る。	

物理化學參考書

古川重太郎	標準物理學精義	洋四六布判	887	一、二、三、四、五	駁々堂	月八	▲物性、熱、音、光、電氣、力と運動、運動、光の原理外二篇にて解説す。
高垣雷太郎	最新わかる物理學	洋四六布判	504	一、二、三、四、五	高岡書店	月九	▲物性、熱、音、光、電氣、力と運動、光、電氣の八編にて解説す。
福井儉三	中等自修新物理學講義	洋四六布判	589	一、二、三、四、五	太陽堂	月一	▲物性、熱、音、光、磁氣電氣、力と運動、仕事及びエネルギー外二篇にて講義す。
三省堂編輯所編	受驗本位の物理	洋三六布判	373	一、二、三、四、五	三省堂	月二	▲物理學問題を受驗本位に詳説せる參考書で物性、熱、音外四篇。
直井誠一	分り易くした新制 中學物理學講義	洋四六布判	711	一、二、三、四、五	武田芳進堂	月一	▲現在中等學校への補助教科書で、物性、熱、音、光、力外二編。
中等理科學會編	一日物理學三週間	並四六製判	220	一、二、三、四、五	光世館	月一	▲長期に渉り教科書にて得た散漫な知識を短期間に綜合整理出来るやう述べたもの。
高柳厚	學習物理學のエッセンス	並四六製判	232	一、二、三、四、五	白林社	月三	▲高等學校受驗程度までの物理全課程を六十課に分けて説述せるもの。
井形厚臣	帝大入高等物理學問題集	洋四六布判	340	一、二、三、四、五	玉川學部	月一	▲最近數ヶ年間に於ける帝大入試物理學問題並に文檢問題等を収録して解説を施す。
田代芳郎	物理學問題集	洋四六布判	253	一、二、三、四、五	浩文館	月六	▲最近四五年間の入學試験問題を主として收め其要點を詳説解答せる書。
河田英	本位物理學計算問題の要點講義	並四六製判	136	一、二、三、四、五	先進堂	月九	▲物性、熱、音、光、力及運動、振動及波動電氣の七編。
池田鎮夫	學習物理化學三百六十五日	洋四六布判	381	一、二、三、四、五	文啓社	月三	▲現行の中等教科書を基準として物理化學の問題を三百六十五日に分け收む。
田崎秀夫	物理學習	洋四六布判	460	一、二、三、四、五	東京開成館	月一	▲物理學に關する基本事項を説明し受驗の眼に入學試験問題に對して明確な解答を與ふ。

博物參考書

中等理科學會編	本位物理學の要點	洋四六布判	618	一、二、三、四、五	光世館	月一	▲受驗上の要點と急所の指摘、内容最新最近の入試問題網羅解答す。
富山房編輯部編	自習化學	洋四六布判	426	一、二、三、四、五	富山房	月一	▲化學の基礎概念、非金屬元素、溶液及び化學反應、金屬元素、有機化學等五篇。
河野通匡	整理化學精義	洋四六布判	465	一、二、三、四、五	修文館	月三	▲基礎篇(三章)本論(普通なる物質の研究、基礎通論非金屬金屬外三篇五十四章)
藤井龍一	學習化學新講義	布四六製判	475	一、二、三、四、五	教育書館	月二	▲初めて化學を學ばれざる者の自習自修用を主たる目的とせるもので、非金屬元素其他。
藤村與市編	學習化學新解	洋四六布判	354	一、二、三、四、五	賢榮書院	月一	▲化學學習法、非金屬元素及化合物、有機化合物外六章にて説述。
三省堂編輯所編	自習化學計算法及問題解釋	洋四六布判	228	一、二、三、四、五	三省堂	月九	▲化學計算問題を収録して解釋せるもので、化學量の諸定律外七章。
近藤一二	高等化學問題解義	洋四六布判	327	一、二、三、四、五	東京開成館	月三	▲化學全般に亘つての知識を整理總括せしめるやう解説せるもので、理論化學外三編。
中等理科學會編	本位化學方程式	上四六製判	149	一、二、三、四、五	光世館	月九	▲重要化學方程式三百及主なる分子式構造式諸定律之に關する最近の入試問題を網羅す。
三省堂編輯所編	受驗本位の博物通論	洋三六布判	322	一、二、三、四、五	三省堂	月三	▲諸教科書に掲げられた一切の事項例證を網羅して解説せるもので、生活作用外八篇。
三省堂編輯所編	分り易く生理衛生の研究	洋三六布判	232	一、二、三、四、五	三省堂	月二	▲運動を掌る系統、消化系統、循環系統、神經系統外七章より成る受驗參考書。
三省堂編輯所編	分り易く動物の研究	洋三六布判	246	一、二、三、四、五	三省堂	月二	▲現今廣く用ひられてある教科書の教材を悉く網羅せるもので、總説外二編。
東京府立第五中學校教諭 布施久通	眼目を受驗學習植物	洋四六布判	224	一、二、三、四、五	東京開成館	月一	▲答案式によつて植物學に關する各般の事項を類別詳説し適所に問題を掲ぐ。

理科學(天文・氣象・地震)

三省堂編輯所編 覺り易い植物の研究	三省堂編 受驗本位の植物	齊藤與七博 博物實驗	山内繁雄博 博物	本田親二 天文學概論	平山清次 一般天文學	山本一清 初等天文學講話	野尻抱影 星座風景	山本一清 新星座の親しみ	神田茂 天文惑星の話	天文同好會編 天文	岡田武松 氣象
洋三六 布判	洋三六 布判	並四六 製判	並四六 製判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	並四六 製判	洋四六 製判	洋四六 製判
297	430	105	152	238	306	275	240	108	34	336	344
六〇	一、三〇	四〇	六五	二、五〇	一、四〇	二、五〇	一、五〇	一、〇〇	二〇	二、〇〇	三、〇〇
三省堂	三省堂	朗月堂	青年教育會	教育研究會	共立社	厚生閣	研究社	厚生閣	育社協會	新光社	岩波書店
月三	月一十	月九	月十	月十	月九	月十	月八	月一十	月八	月三	月九
▲顯花植物、隱花植物、植物の形態、植物の構造・生理外三篇。	▲根本的理論及び系統的理論を詳述せるもの、植物の分類外七篇。	▲初學者の博物實驗上に便せんがため解り易く説明せられたるもの。	▲生物界、植物界、動物界、人類、生物體の構造、孤獨生活と團體生活、生物の食物其他。	▲一般人の常識としての天文學を説けるもので、天文學の發達外十五章。	▲天文學の發達、觀測機械、惑星及び彗星の公轉、連星外十三章にて論述。	▲約百五十個の寫眞や挿圖を入れて平易に説述せるもので、星座と天球學外二章。	▲星に關する隨筆集で、北の子の星、秋の天上風景、オリオンを斯くも見る其他。	▲春の空、夏の空、秋の空、冬の空等々美しい星座の運行其他について述べた書。	▲惑星の個々に就て述べたもので、惑星、水星、金星、地球、火星外七章。	▲星座と其の歴史、太陽、遊星の運行圖、我國の主要なる天文臺其他。	▲本邦測候界に於て用ひられてゐる測器に就て其構造の要旨と用方の原理を説述す。

理科學(生物學・性科學)

高橋悌藏 生物化學講義	石川光春 生物學大觀	田原正人 一般生物學	末松直次 生物學雜誌	日野巖編著 微生物學概論	八田三郎 比較發生學	日野巖 聖上陛下の生物學御研究	堀尾實善 理科前世界の生物	關露香 誰にでも分かる生物進化論
布判	並四六 製判	洋四六 布判	布四六 製判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判	洋四六 布判
484	184	231	229	410	435	258	232	395
四、八〇	一、五〇	二、五〇	一、八〇	四、五〇	五、八〇	二、〇〇	一、五〇	二、八〇
養賢堂	内田老鶴圃	裳華房	成美堂	養賢堂	刀江書院	新光社	文化書房	大同館
月六	月四	月十	月五	月四	月十	月九	月一十	月八
▲第一編に生物體の化學的組織其他、第二編植物生理化學、第三編動物生理化學。	▲生物の特性、動植物の區別、細胞、保護器官、新陳代謝の器官外十二章にて論述。	▲生物學の一般に就て論述せるるので、序説植物界、生活現象外三篇。	▲ダーウキンの話、ダーウキンとピーグル號種の起源と進化論外十二篇。	▲細菌、線狀菌、原生動物の形態、生理、生態を簡明に記述せるもの。	▲基礎器官の發生及び胎兒器官、胚葉の分化器官發生の二編。附記發生學成績一斑。	▲生物學御研究、御親耕、御親蠶等及び「聖上陛下と青年團」を附載。	▲地球の生成とその歴史、地球の年代と生物の發見、人類の發達外三章。	▲生物進化論の如何なるものかを平易に説けるもので、文化生活、遺傳外十編。

生物學・性科學

▲天氣豫報の聽き方、天氣豫法の方法、天氣圖の作り方外十章。

▲地震の原因、地震の靜かな變化、地震帶、大地震年表外卅三章。

▲地震の原因(加藤武夫)地震の檢測(國富信一)震災の豫防(今村明恒)の講演速記。

理科學(生物學・性科學)

村上計二郎	人類滅亡と次の高等動物	洋四六	布判	397	一、八〇	萬里閣	三月	▲萬有生滅の史實、生物衰亡の原因、人類の退化現象外二編廿章。
中澤毅一	動物と比較したる人間	洋三六	布判	192	四、五〇	春秋社	十月	▲外部形態の比較、感覺器機能の比較、母性愛の比較外六章にて論述。
石川光春	植物と比較したる人間	洋三六	布判	158	四、五〇	春秋社	二月	▲形態の比較、呼吸の比較外七章。附録人間の生理學的側面觀。
濱中濱太郎	人及び動物の表情について	並四半	製紙	423	六、八〇	岩波書店	二月	▲表情の一般原理、動物の表情手段、人間の特殊な表情苦惱と涕泣外十一章。
オズボーン	生命の起原と進化	布四六	裝入判	353	三、四〇	岩波書店	十月	▲近代物理化學生物學地質學の一大綜合書でエルネギーの適應外一部八章。
宮下義信	實驗遺傳學講義	布四六	裝入判	535	五、八〇	養賢堂	六月	▲遺傳(獨立遺傳外三章)變異(生物の變異性外二章)附録稻の遺傳に就いて其他。
松浦一	遺傳學原理	洋四六	布判	606	一、八〇	中文館	二月	▲遺傳學の歴史の觀察、變異並びにその統計學的研究外十章。附録メンデル小傳。
山本宣治	戰争の生物學	並四六	製判	540	一、〇〇	ロゴス書院	六月	▲戰争の自然的條件と基礎、戰争と軍國主義との結核外一編。普及版。
高倉輝編	戰争の生物學	並四六	製判	372	一、〇〇	ロゴス書院	九月	▲觀念に於ける戰争の克服、實在に於ける戰争の克服の二編。普及版。
安田徳太郎	親子・夫婦・兄弟	背四六	布入判	488	二、三〇	一元社	六月	▲生物學上から見た性的問題、親子、夫婦、兄弟、生物と人間外五十一篇。
石川千代松	人體の科學	洋四六	布入判	426	三、四〇	春秋社	五月	▲人體の形態、骨格、人體の外面、人體の内部分、筋肉の動き外九章にて論述。
山本宣治	無産者生物學	並四六	製判	413	一、〇〇	ロゴス書院	五月	▲生物・人類・生物學と産兒制限、性と人生統計外二部。普及版。
田所哲太郎	性別の化學的考察	布四六	裝入判	384	三、四〇	式會社	一月	▲生物學上の究極問題たる性の決定に關する化學的の考察。

理科學(動物學)

三島康七	生殖學	洋三六	布判	190	四、五〇	春秋社	四月	▲生殖の二部にて論述。
山本宣治	社會教育	並四六	製判	445	一、〇〇	ロゴス書院	六月	▲性教育汎論、對青年の性教育實驗報告外一篇。附録本能と性的問題其他。普及版。
山本宣治	社會	並四六	製判	464	一、〇〇	ロゴス書院	三月	▲性教育講座、性的科學、性學の使命と其目的、若い男の性生活。普及版。
荒川芳三	性文	洋四六	布入判	403	二、五〇	カオリ社	三月	▲潜在意識の解剖、社會學的に見たる性行動的性心理學外一篇。
增田朗	結婚史	洋三六	布判	193	四、五〇	春秋社	三月	▲結婚の歴史、性衝動の月經的曲線、色情帶の說、性と水の四章。
岸田健	性の科學	洋四六	布入判	549	二、五〇	先進社	十月	▲女性の生涯より死に至る迄の生活を正直に討究せるもので、女性の肉體と其機能外四篇。
正木不如丘	性の科學	布四六	裝入判	263	一、二〇	春陽堂	一月	▲女性心理の發達を物語風に記述した「女ころ」を始め、久遠の若さ、嫉妬心境外六篇。
藤田芳三	動物學概論	洋四六	布入判	474	四、八〇	龍吟社	一月	▲細胞篇、組織篇、器官篇、生殖細胞篇、發生篇、生態篇外六篇にて論述。
飯塚啓	動物發生學	洋四六	布入判	736	六、三〇	博文館	十月	▲なめくぢ魚の發生、蛙の發生、鶏の發生、哺乳類の發生外一篇。附録四篇。
小林順一郎	動物生態學講話	洋四六	布入判	498	四、三〇	中文館	九月	▲動物生態學の全般に亘り既往世界學者の研究を綜合し平易に記述せるもの。
清水傳吉	動物分類學	洋四六	布入判	347	二、九〇	啓文社	二月	▲谷津博士の「動物分類表」を基礎として編纂した書で、原生動物以下十六門より成る。
美濃部熙	動物分類	洋三六	布判	362	一、〇〇	春秋社	六月	▲動物の分類に就て平易に述べたもので、分類學發達の歴史外五編。

理科學(動物學)

北陸館編	學生版動物圖鑑	三五	二、五〇	北陸館	四月	▲鳥獸具蟲その他二七五〇種の姿態と名稱其他を詳述。
下村兼二	鳥類生態寫真集	四六	一、八〇	三省堂	五月	▲春夏の候富士山麓地方に蕃殖する鳥類に関する生態寫真五十八圖及解説を収む。
太田成和	佛法僧鳥の研究	四六	一、三〇	寶文館	四月	▲三寶の聲を發すると云ふ古來稀有の靈鳥佛法僧鳥の研究、附録大山椒魚、鰻の研究。
下村兼二	野の鳥の生活	四六	二、五〇	金星堂	五月	▲隨筆的に野の鳥の生活に就て述べたもので鳥の啼き、巢のレイアウト外十篇。
ハドス 幹著	野の鳥の生活	四六	一、八〇	天人社	五月	▲權威を振ふ鳥、異郷に流寓の犬、倫敦鳥の移動情況外十四篇。
杉崎浪江	海海の動物の觀察	四六	一、三〇	出版協科會	六月	▲本邦海洋に極めて普通なものを集録せるもので、海の動物の分布其他。
大日本水産會編	日本水産動物植物圖集	四六	二、〇〇	大産日會本	七月	▲我水産の重要動物を殆んど網羅して和英兩文の解説を施せるもの。
社団法人樂水會	日本重要魚類圖集	四六	三、八〇	式丸會社株	九月	▲動物學界の特殊な貢獻として世界的な榮譽を持つ圖集。
田中茂穂	原日本魚類圖鑑	三六	七、五〇	大地書院	十一月	▲原色圖版三百五十五圖を収録せる圖鑑。學名索引、私名索引。
佐々木喜一郎	趣味の魚學	四六	二、三〇	杉山書店	八月	▲水産動物の種々を通俗的に説述せるもので生物學上より見たる生死問題外廿二章。
木宮村重作	支那の淡水魚	四六	二、五〇	東亞研究會	五月	▲支那の川、支那の魚の重要さ、支那の淡水魚の分布外八章にて論述。
雨宮村重作	支那の淡水魚	四六	二、五〇	東亞研究會	五月	▲日本帝國領土内に棲息する有尾兩棲類蠍類と山椒魚類に就ての研究。
田子勝彌	蠍類と山椒魚	四六	一、〇〇	芸艸堂	四月	▲みみずの生理と生態に關して論述せるもので、交尾と産卵其他。
畑井新喜司	みみず	四六	二、〇〇	改造社	七月	

理科學(動物學)

牧茂市郎	日本蛇類圖譜	四六	三、五〇	第一書房	十月	▲原色版日本蛇類圖譜三十九枚及び別冊英文テキスト、和文テキストを収む。
岡田彌一郎	日本産蛙總説	四六	一、八〇	岩波書店	五月	▲日本産蛙の分類及び分布に就て記述せるもの。圖版廿九。
松村松年	日本通俗昆蟲圖説	四六	一、五〇	春陽堂	九月	▲二十九枚の原色圖版により合計六百四十一種の通俗甲蟲を説明す。
丸毛信勝	實用昆蟲學	四六	四、八〇	古今書院	十一月	▲昆蟲類の動物界に於ける位置、昆蟲の發生昆蟲と人類、昆蟲の分類外四章。
横山桐郎	續日本の甲蟲	四六	七、〇〇	西行會原	五月	▲内地産及び樺太臺灣朝鮮特産の甲蟲を含めて三〇七種を解説せるもの。
湯原清次	蜘蛛の研究	四六	特三、五〇	出版協科會	七月	▲真正蜘蛛類の一般的研究、分類及び記載外一章より成る我國最初の蜘蛛の研究書。
江崎三郎	昆蟲の榮養と新陳代謝	四六	一、八〇	國際書院	四月	▲昆蟲の食物、昆蟲及びその生産物の化學的成分、酵素外三篇。
鴫尾猛著	昆蟲	四六	一、三〇	叢文閣	一月	▲第六卷は父性の本能、南米大草原の糞蟲、松の行列毛蟲其他二十四項。(普及版)
小牧近江著	昆蟲	四六	一、〇〇	叢文閣	九月	▲第九卷はナルボンヌのどくぐも、蜘蛛の移住、かにぐも外廿二章より成る。(普及版)
土井逸雄著	昆蟲	四六	一、〇〇	叢文閣	十月	▲第十卷はミノトオル・テイフエ、松黄金蟲昆蟲と茸外十九篇。(普及版)
山田達吉著	昆蟲	四六	一、〇〇	岩波書店	八月	▲第二輯は本能のもの知り、はだかばち、實驗いろいろ外九篇。
山田達吉著	昆蟲	四六	一、〇〇	岩波書店	六月	▲第十二卷はあなやぶきり、蝗蟲類、松の行列毛蟲其他を収む。
山田達吉著	昆蟲	四六	一、〇〇	岩波書店	十一月	▲第十四冊はくびほそむし、いざこむし、おほくじやく蛾其他を収む。

植物學

久本内田	加山木	見波	向名	川村	藤田	三好	三好	三好	根野	牧野	山本	
清正	重幸	定治	道長	清一	理一郎	好學	好學	好學	富太	富太	ア	
幸次	建雄	均	治光	一	一郎	學	學	學	爾	爾	達	
久本内田	植物採集と標本製作法	植物染色體數の研究	顯微植物學實驗法	食菌と毒菌	中等植物生理學	最近植物學	最新植物學	最新植物學	增訂日本植物總覽	增訂日本植物總覽	昆	
布四六	洋函編	洋函編	布函編	洋函編	布函編	洋函編	背函編	背函編	背函編	背函編	並編	
六	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	半	
380	300	568	560	362	228	471	108	191	180	163	雙	
二、五〇	二、一八〇	三、一〇〇	四、一八〇	四、一〇〇	一、二〇〇	二、一八〇	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	198	
仁川堂	日本評論社	出版協會	古今書院	日本評論社	古今書院	厚生閣	三省堂	出版協會	西行會	西行會	岩波書店	
月一十	月三	月一十	月六	月一	月七	月一十	月三	月六	月七	月六	月八	
▲海の迷信と傳説、海水の化學的性質、海洋と漁業との關係外廿六章。	▲凡ての海事の基礎となるべき海洋そのものの知識を叙述せるもので、海洋外四章。	▲地質學、天體としての地球、岩石より土壤へ、日本地體構造の概観外十八章。	▲地質學中農業上に必要なもの、みを集録しその根本知識を論述せる書。水成岩外廿一章。	▲地層の本源並に其沈積機構、地層生成の方法及び其の種類外二編にて論述。	▲植物界の發明王とも稱せらるべきパルパンクの一一般業績、人物の思想等に就て述ぶ。	▲美しい原色花譜八〇圖版で二百七拾餘種を收めてある。	▲植物界の發明王とも稱せらるべきパルパンクの一一般業績、人物の思想等に就て述ぶ。	▲植物界の發明王とも稱せらるべきパルパンクの一一般業績、人物の思想等に就て述ぶ。	▲植物界の發明王とも稱せらるべきパルパンクの一一般業績、人物の思想等に就て述ぶ。	▲植物界の發明王とも稱せらるべきパルパンクの一一般業績、人物の思想等に就て述ぶ。	▲植物界の發明王とも稱せらるべきパルパンクの一一般業績、人物の思想等に就て述ぶ。	▲第十八輯はくさぐさも、ラングドスきそり、かひがらむし外八篇より成る。

航空兵器

丸川	野滿	外下	木六	今井	岩崎	望月	栗原	中路	本庄	本庄	末松	
久俊	隆治	龜城	龜城	半次郎	重三	勝海	基	正義	伯正	伯正	直次	
科海	海	英和	英和	地層	農業	地質	植物採集	色原	趣味の科學寫眞	趣味の科學寫眞	植物採集	
洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	洋函編	
六	六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	
布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	
380	300	568	560	362	228	471	108	191	180	163	352	
二、五〇	二、一八〇	三、一〇〇	四、一八〇	四、一〇〇	一、二〇〇	二、一八〇	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	
仁川堂	日本評論社	出版協會	古今書院	日本評論社	古今書院	厚生閣	三省堂	出版協會	西行會	西行會	岩波書店	
月一十	月三	月一十	月六	月一	月七	月一十	月三	月六	月七	月六	月八	
▲海の迷信と傳説、海水の化學的性質、海洋と漁業との關係外廿六章。	▲凡ての海事の基礎となるべき海洋そのものの知識を叙述せるもので、海洋外四章。	▲地質學、天體としての地球、岩石より土壤へ、日本地體構造の概観外十八章。	▲地質學中農業上に必要なもの、みを集録しその根本知識を論述せる書。水成岩外廿一章。	▲地層の本源並に其沈積機構、地層生成の方法及び其の種類外二編にて論述。	▲植物界の發明王とも稱せらるべきパルパンクの一一般業績、人物の思想等に就て述ぶ。	▲美しい原色花譜八〇圖版で二百七拾餘種を收めてある。	▲植物界の發明王とも稱せらるべきパルパンクの一一般業績、人物の思想等に就て述ぶ。	▲植物界の發明王とも稱せらるべきパルパンクの一一般業績、人物の思想等に就て述ぶ。	▲植物界の發明王とも稱せらるべきパルパンクの一一般業績、人物の思想等に就て述ぶ。	▲植物界の發明王とも稱せらるべきパルパンクの一一般業績、人物の思想等に就て述ぶ。	▲植物界の發明王とも稱せらるべきパルパンクの一一般業績、人物の思想等に就て述ぶ。	▲第十八輯はくさぐさも、ラングドスきそり、かひがらむし外八篇より成る。

理科學 (航空・兵器・ラヂオ・テレビジョン)

五五六

陸軍航空本部 新編	最新世界航空大観	洋四六倍判 布入判	341	四、三〇	厚生閣	月一十	▲一般に普及すべき航空事項に就て編述せるもので、航空機篇外二部。
陸軍航空本部 新編	航空力学と飛行機の設計	洋四六倍判 布入判	341	三、三〇	岩波書店	月二十	▲航空機一般、空気が抵抗と其の測定法、プロペラの氣體力學外十六章にて論述。
松平義雄	航空機のABC	洋四六倍判 布入判	352	三、二〇	太陽堂	月一	▲航空機の萬般に互り平易に記述せる書で航空機の種類、氣球と飛行船外十二章。
白川稔	飛行機と航空船	上四六倍判 製判	104	一、二〇	三省堂	月十	▲飛行機及び航空船に就き寫眞圖解による解説を主とせるもので、飛行機の構造其他。
菊池和夫	飛行機と航空船の知識	布四六倍判 製入判	132	一、三〇	正興館	月七	▲グライダーの歴史、どうしてグライダーは飛ぶか、雲中飛行外七章。
小川太一郎	飛行機の話	洋四六倍判 布入判	371	二、三〇	岩波書店	月一	▲飛行の原理と飛行機の構造をむづかしい數學ゆきで分りやすく説明せるもの。
佐々木民部	飛行機の科學と藝術	並三五製判	119	二、〇〇	誠文堂	月一	▲飛行機の飛ぶ原理、飛行機の種類、飛行機の平和的用途、防空の知識外六章。
多田憲一	飛行機の科學と藝術	上菊製判	274	二、八〇	厚生閣	月四	▲航空理論一般、航空經濟學、航空思想史論飛行機の詩三十篇外三章にて論述。
鐵塔書院編	陸軍全兵器寫眞集	並四六倍判 製判	32	八、七〇	鐵塔書院	月一十	▲陸軍せんとする戰闘機の編纂、十四年式拳銃、架橋作業外百六圖。別冊解説。
正田隆	無線電話の原理と製作	洋四六倍判 布入判	246	一、〇〇	藤谷崇文館	月十	▲無線電話の原理を平易に説けるもので、電氣の話、電鈴の話外卅篇。
秋間保一郎	最新ラヂオ受信機の作り方	上四六倍判 製判	129	六、八〇	松榮堂	月七	▲ラヂオ受信機中の粹エリミネーターの作り方を説いたもの。
長沼義雄	高級エリミネーターの設計と組立	洋四六倍判 布入判	268	一、五〇	誠文堂	月九	▲製作を基礎としてエリミネーター受信機の解説と組立を説述せるもの。

ラヂオ・テレビジョン

理科學 (科學諸知識)

五五七

長沼義一	現今のラヂオ配線圖集	上四六倍判 製入判	30	一、八〇	文英堂	月八	▲實踐接續圖及び部分品配置圖三十圖を收めその性能を説く。
川野義保雄	ラヂオ受信機の故障診断法	並四六倍判 製判	71	四、三〇	文英堂	月八	▲ラヂオ受信機は如何にして故障を修理し如何にして上手に聴くかを詳述す。
藤井勝三郎	最新エリミネーター配線集	洋四六倍判 布入判	155	一、三〇	文開堂	月八	▲エリミネーターの配線を實際的に紹介せるもので、エリミネーターの解説其他。
鈴木四郎	現今のラヂオ受信機	上四六倍判 製入判	125	一、三〇	文英堂	月六	▲理論と經驗とを主としてエリミネーター受信機の原理設計組立等に就て記述す。
ラヂオ普及會編	二重放送の知識	並菊製判	33	二、三〇	普及會	月一	▲二重放送の使命(苦米地)二重放送を基點としてプログラムの展開(矢部)外一篇。
日本放送協會編	ラヂオ	洋四六倍判 布入判	820	一、三〇	誠文堂	月三	▲世界ラヂオ沿革史と現況、放送プログラム編成方針、特殊サービス其他より成る。
古澤恭一郎	ラヂオとテレビジョンの話	並三五製判	109	二、〇〇	誠文堂	月四	▲ラヂオ及びテレビジョンとは何か、ラヂオ放送の沿革其他。
加納八雄	テレビジョン	上四六倍判 製入判	174	一、三〇	正和堂	月四	▲テレビジョンの原理と其製法を平易に説けるもの。
平沼重樹	テレビジョンの組立法	洋四六倍判 布入判	169	一、三〇	朝日書房	月八	▲テレビジョンとは、實驗用テレビジョン受信機の作り方外十八章にて説述。
石原純	相対性原理の話	並四六倍判 製判	94	四、五〇	三省堂	月二	▲時間と空間、位置及運動の相対性、アインシュタインの最初の理論外十章。
池田芳郎	美しい高電壓の現象	洋四六倍判 布入判	230	二、八〇	日本評論社	月四	▲高電壓の放電、火花放電と弧光放電、大氣中の放電外七章。
神田左京	不知火・人魂・狐火	布四六倍判 製入判	314	二、三〇	春陽堂	月七	▲自然火の傳説に關する研究で、狐火、鬼火人魂、火柱、蕨火外五編。

野寺哲二郎	趣味のタンクと自動車	上四六倍判	104	一、三〇〇	三省堂	月一十	▲タンク及び自動車を寫真圖解による解説を主とする科學教科書。
大日本科學模型研究會編	最新科學模型設計圖集	上四六倍判	16	五〇	大日本科學模型研究會	月一十	▲模型飛行機製作の繪解き、グライダ―の設計、最新高級汽船模型設計外五篇。
坂本喜一	式本動物剥製及標本製作法	洋函菊	199	三、八〇〇	平凡社	月九	▲著者が永年の實驗より修得した剥製の技術を公開せるもので、動物剥製法外一篇。
加瀬勉	クロモシイライズ さびびない鐵と鋼	並四六判	72	三〇〇	三省堂	月五	▲空氣中に於ける鐵の銹、酸素を含む水に依る鐵の腐蝕外十二篇。
芥川信	クロモシイライズ 指紋の紋	並四六判	50	三〇〇	三省堂	月一十	▲指紋の沿革、指紋の生理的根據、指紋の種類、指紋の分類、指紋の價、其他。
星忠太郎	趣味の食・藥化學	洋函四六判	267	一、五〇〇	木星社	月二十	▲魚肉の化學、餅の話、聖書のマンナ考、茶と紅と白粉、便所雜考外廿八篇。
平林敏滋	鹽と人	上四六判	200	一、三〇〇	三光書院	月一	▲食鹽の科學、製鹽法の概觀、活鹽の效力とその原理、家庭と食鹽、外七篇。(増補改訂版)
加瀬勉	金屬と人生	洋函四六判	448	三、三〇〇	内田老鶴園	月五	▲金・銀・銅・鐵等有る金屬を捕へ之を三十章に分てユーモア的に述たるもの。
本多直治郎	溫泉研究	並四六判	151	四〇〇	泉日協本會	月四	▲泉源保護(杉山) 溫泉場の經營法(本多)の二篇より成る。
田村謙次郎	趣味の郵便電信電話	並四六判	37	二〇〇	育社協會	月五	▲郵便、電信、電話が如何に發達し今日如何に活動してゐるか説く。
波邊軍治	世界大發明家出世美談	上四六判	426	一、八〇〇	厚生閣	月九	▲世界の代表的發明家の物語を収めたもので印刷術活字の發明家(グーテンベルク)其他。

一五、數學

著者	書名	裝幀	定價	發行所	月行發	內容大意
中村清二	自然と數	洋函四六判	207	古今書院	月四	▲數と量、整數、數の觀念の發展、指數函數の實例外八章にて論述。
寺澤寬一	自然科學のたのめ	洋函菊	762	岩波書店	月五	▲實函數の微分、實函數の積分、微分方程式の初等解法外十一章にて論述。
國枝元治	數	並編	192	青年教育會	月一十	▲簡單な方程式、距離の測方、簡單な函數關係、負數、聯立方程式、平方根、二次方程式。
杉浦徳次郎	保險數	洋函菊	242	丁酉出版社	月七	▲利息算、週期的支拂、死亡の理論、一時拂保險料外五章より成る保險數學の研究。
福村省三	彈道ノ數	洋函菊	386	東京開成館	月七	▲彈道學研究の階梯書で、眞空、彈道、空氣中の直線運動外五章。
小坂正行	世界數學史	布函菊	400	モナス	月九	▲第一編序說第二編日本數學史概說第三編歐洲數學史一般第四編圓周率の歴史其他。
小平吉男	物理數	布函菊	467	岩波書店	月二十	▲第一卷は常微分方程式、フーリエの級數、圓錐函數の三章。
泉信一	デイリクレ級數論	洋函菊	268	岩波書店	月九	▲級數論上の準備、級數の表す函數と級數の係數外六章にて論述。

池田芳郎	中島宗治	坂井英太郎	藤岡茂	田中増太郎	高須鶴三	江崎歎藏	田島正一	渡邊義勝	下田卯市	論村良一	松室隆光
高等數學諸論概要	高等數學概説	高等數學初歩	微積分學概論	微積分網要	微積分學深義	積分學概論	積分論	微積分學	解析幾何學要論	初等幾何の講義	解析幾何學
洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊
布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判
262	252	202	108	228	151	639	191	470	379	512	221
一、八五	一、八〇	一、六〇	一、三〇	二、八〇	七、八〇	二、三〇	三、三〇	三、〇〇	三、〇〇	三、五〇	一、八〇
正興館	廣文堂	東京開成館	共立社	培風館	東洋圖書株式會社	裳華房	太陽堂	長門屋書房	弘道館	培風館	太陽堂
月九	月一	月三	月四	月四	月九	月五	月二	月九	月九	月二	月十
▲函数とグラフ、空間幾何學、積分と微分、積分の方法と應用外六章。	▲「小さい高等數學」の増補版で、數學的歸納法、確率論、函数、座標其他。	▲高等數學の一般を平易に説述せるもので、解析幾何學、微積分外一編。附實驗公式。	▲高等數學初歩の要項に就て説述せるもので、數と其の圖示外七章。	▲函数、積分の應用、指數函数及び對數、三角函数及逆三角函数外五章。	▲主として師範學校專攻科の微積分大意の教科用書として編纂せる書。	▲不定積分、定積分、第二變數を含む函数の定積分外五編にて論述。	▲積分學全般に互つて論述せるもので、不定積分、置換積分法外八章。	▲積分學の解剖書で大學程度まで説てある。不定積分、定積分、廣義定積分、應用重積分。	▲高等專門學校解析幾何學の教科書又は參考書として編述せる書。	▲高等學校高等科理科數學教授要目に準據して説述せるもので、平面解析幾何學外一編。	▲第一卷は座標、座標の變換、直線、圓、拋物線、双曲線外二章。

大室上茂	松室隆光	渡邊秀雄	高須鶴三	加藤平左衛門	杉村欣次郎	津村良一	ロバート・ベル	松室隆光	北村友圭	市浦義房	船越義房	浦口善為	上甲二郎	長澤武雄	小吉男
解析幾何學	解析幾何學	高等立體幾何學	高等立體幾何學	高等平面三角法	初等幾何學	立體解析微分幾何學	實用高等數學綱要	實用高等數學綱要	實用高等數學綱要	高等立體幾何學	圖式及び用器計算法	圖式及び用器計算法	圖式及び用器計算法	圖式及び用器計算法	圖式及び用器計算法
洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊	洋菊
布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判	布判
200	319	129	223	482	600	400	300	337	125	301	178	300	300	300	178
一、八〇	二、四〇	一、〇〇	一、三〇	一、八〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
文明社	共立社	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房	裳華房
月一	月十	月九	月二十	月二	月五	月四	月五	月四	月十	月九	月一	月五	月四	月十	月一
▲高等學校高等科圖畫科用書として編纂せる書で、平面圖學外一編。	▲尺度及び計算尺、のもぐらふ一名共線圖面近似積分法及び微分法外六章。	▲平面幾何畫法中、中學程度の問題を擇んで解説せるもの。	▲數値計算、圖計算外六篇に一通り方法を述べ數字計算を以て例示す。	▲計算尺、計數表、内挿法、根の計算法、最小自乘法、相關係數、調和分析、圖表、等。	▲高等學校高等科圖畫科用書として編纂せる書で、平面圖學外一編。	▲尺度及び計算尺、のもぐらふ一名共線圖面近似積分法及び微分法外六章。	▲平面幾何畫法中、中學程度の問題を擇んで解説せるもの。	▲數値計算、圖計算外六篇に一通り方法を述べ數字計算を以て例示す。	▲計算尺、計數表、内挿法、根の計算法、最小自乘法、相關係數、調和分析、圖表、等。	▲高等學校高等科圖畫科用書として編纂せる書で、平面圖學外一編。	▲尺度及び計算尺、のもぐらふ一名共線圖面近似積分法及び微分法外六章。	▲平面幾何畫法中、中學程度の問題を擇んで解説せるもの。	▲數値計算、圖計算外六篇に一通り方法を述べ數字計算を以て例示す。	▲計算尺、計數表、内挿法、根の計算法、最小自乘法、相關係數、調和分析、圖表、等。	

數學(數學講座・辭典・算術・珠算)

ラニニ 工學士 桂井富之助著	實 驗 式	洋菊 布判 100	三、〇〇 一、八〇	カニヤ書店	月一十	▲工學者に屢々起る多くの問題に答へんとする試みである。
ラニニ 工學士 桂井富之助著	圖 表 數 學	洋菊 布判 160	二、五〇 一、八〇	カニヤ書店	月一十	▲工業及び應用科學の種々の部門に起る問題を圖表にて少なき努力を以て解き表したものを
武藤 鐵吉	數學講座・辭典	並四六 製判 196	六〇	修數學院專	月七	▲第一卷は算術篇、代數篇、幾何篇の三篇にて説述す。
武藤 鐵吉	最新中學新制數學講座 第一卷	並四六 製判 324	六〇	修數學院專	月九	▲第二卷は三角函數相互の關係の公式を説けるもので、算術篇其他。
武藤 鐵吉	最新中學新制數學講座 第二卷	並四六 製判 102	六〇	修數學院專	月十	▲算術篇(比例式に就いて其他)代數篇(因數分解其他)幾何篇(幾何の根抵其他)
中川 千之助	算術辭典	洋四六 布判 617	特二、五〇 一、二〇	立川書店	月五	▲算術、代數、幾何の基礎知識を整理せる辭典。
藤田 藻	算術圖式算術解法	並四六 製判 420	一、〇〇	春陽社	月二十	▲四則計算、諸等數、四則應用問題、比例、歩合算外一篇にて説述。
梅口津 祐憲	算術の力	洋菊 布入判 303	二、〇〇	東洋協會	月二	▲算術科の受験準備習書として平易なる問題より順次難問題に及び解法を掲ぐ。
岩下 吉衛	暗算の新研究	洋菊 布入判 400	二、三〇	モナス	月六	▲第一章より第十六章に至る間暗算の地位、意義、效力、暗算の教材、練習、活用、其他。
奥村 算貞	珠算習教本	洋菊 布入判 140	六〇	駿々堂	月九	▲古来の珠算便法に其創意を加へた新法珠算書で、珠算の近道外七章。
山川 清	珠算學び方入門	洋菊 布入判 56	一、五〇	太陽堂	月三	▲一々實例に就いてその方法を説明せるもので、寄算、引算外七章。
更谷 龜太郎	珠算大成	洋菊 布入判 242	一、二〇	日本出版	月一	▲自學自習に適するやう系統的に説明せる書で、加法及び減法、乗法、除法外九篇。
楠本 虎四郎	珠算の遊戯應用研究	洋菊 布入判 256	一、三〇	文録社	月七	▲兒童に興味を感じつゝ、計算を行はしむる方法を説けるもので、競技外四篇。

數學(代數)

大上 茂喬	代數學演習	洋菊 布入判 425	四、〇〇 一、八〇	文明社	月四	▲現行專門學校程度代數學問題を網羅し基本定理によつて解説せるもの。合本
大上 茂喬	代數學演習	布菊 裝判 234	一、八〇 一、五〇	文明社	月十	▲現行高等專門學校の代數學のあらゆる種類の問題を遺洩なく網羅し直截簡明に解説す。
大上 茂喬	代數學演習	布菊 裝判 220	一、八〇 一、五〇	文明社	月十	▲現行高等專門學校の代數學のあらゆる種類の問題を遺洩なく網羅し直截簡明に解説す。
鍋島 信太郎	代數學の數系統	洋菊 布入判 170	一、七〇	共立社	月七	▲理論の部(正の整數外八章)歴史の部(數の起原外六章)。
森 滿	代數學研究	並四六 製判 91	三、五〇	青甲社	月四	▲絶対不等式、條件附不等引、極大極小及函數の値の變化外一章。
森 滿	代數學研究	並四六 製判 100	三、五〇	青甲社	月四	▲二次以上の聯立方程式、不定方程式及消去法外一章。
森 滿	代數學研究	並四六 製判 96	三、五〇	青甲社	月一十	▲因數分解、剰餘の定理及び其應用、約數倍數、未定係數法の四編にて説述。
越智 治成	代數學狙ひ	並四六 製判 474	一、八〇	文明社	月四	▲最近官公立各校の入學試験問題を經として設けるもので、整式の四則外四編。
越智 治成	代數學狙ひ	並四六 製判 623	一、三〇	文明社	月十	▲下巻は方程式、方程式應用問題、不等式とぐらふ、級數外二編にて説述。
星野 華水	代數學詳解	洋四六 布判 558	一、八〇 一、三〇	東京 數學研究社	月一十	▲平易を旨として詳解せるもので、整式篇、無理數及無理式外五章。

數學(代數)

白井朝治	江下俊一	中秀鳥次郎	富山房編	三省堂編輯所編	三省堂編輯所編	奈良善雄	奈良善雄	岩切晴二	水内金太郎	田中光彦	江下俊一	山崎猛一
受驗代數學の要點講義	受驗代數學解法指針	本位代數學の獨力解決	自學自習考代	受驗本位の代數	受驗本位の代數	受驗	一・二年の代數	學習改訂代數學問題選集	易わかり代數講座(一年程度)	初めて學ぶ人學生の代數學	學習代數學解法指針	學習代數學の要點講義
並四六製判	洋四六布判	洋四六布判	洋四六布判	洋三六布判	洋三六布判	洋四六布判	洋四六布判	並四六製判	並三六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判
181	269	432	376	376	360	636	322	166	300	330	284	355
六〇	六〇	八〇	六〇	六〇	六〇	二、三〇	一、三〇	六〇	六〇	一、〇〇	一、二〇	一、八〇
先進堂	輝文堂	岡村書店	富山房	三省堂	三省堂	新泉社	有精堂	培風館	東京開成館	文進堂	輝文堂書房	文花堂
五月	六月	三月	七月	六月	十一月	九月	十二月	三月	十月	二月	五月	四月
▲因數分解、剩餘定理と其の應用、一元二次方程式の根の判別方外十八章。	▲因數分解、有理整式、分數式、一元方程式外十四章にて説述。	▲代數學を平易明快に説ける参考書で、整式の四則、一次方程式外七編。	▲下巻は開方、二次方程式、不等式の續き、比及び比例外三篇より成る。	▲最近數ヶ年間の入學試験問題を殆んど網羅して解釋せるもの。	▲下巻は根と係數との關係、二次方程式の根の吟味外六篇より成る。	▲凡ゆる問題を類別して解方の通則と範例を示せるもので、剩餘定理外十九章。	▲一二年程度の問題を蒐集して説述せるもので、正數負數及び其の四則外五篇。	▲數、分數式、共通根に關する問題、一元分數方程式外卅一章。	▲普通の教科書にある問題は殆ど全部網羅しこれに機能的解答を施したるもの。	▲初學者に最もわかりやすく心掛けて表せし物、代數の總てにわたつてある。	▲因數分解、有理整式、分數式、無理式、方程式、約數倍數、不等式、判別式外八章。	▲獨學自習により代數學全般を短期間に學習出来るを目的として著したものである。

數學(幾何・三角)

青木勇藏	山田常憲	山田常憲	白井朝治	集文館編	三省堂編輯所編	奈良善雄	澤山勇三郎	森本清吾郎	田中光彦	山田常憲	健文社編輯所編	奈良善雄
代數學新傾向問題の解法	明解代數學	學習代數基本三千題考へ方	受驗幾何學の要點講義	幾何學辭典	受驗本位の平面幾何	二・三年の幾何	初等幾何學	初めて學ぶ人學生の幾何學	明解幾何學	平面三角法問題の研究	研究三角のあたま	
並四六製判	並四六製判	並四六製判	並四六製判	上四六製判	洋三六布判	並四六製判	洋菊布判	並四六製判	並四六製判	洋四六布判	並四六製判	
270	340	1120	175	299	343	221	430	300	200	459	345	
八〇	〇〇	一、八〇	六〇	一、〇〇	一、〇〇	七〇	三、三〇	一、〇〇	六、五〇	一、五〇	一、三〇	
弘道閣	弘道閣	弘道閣	先進堂	集文館	三省堂	有精堂	積善館	文進堂	弘道閣	健文社	有精堂	
六月	四月	十月	五月	五月	六月	四月	四月	四月	四月	二月	五月	
▲最近の入學試験の出題傾向にわたつて統計を執りそれに特獨の解釋を加ふ。	▲習學者受驗者等に適する様教科書順に説明されたもの。	▲現行中等學校代數學教科書の問題例題等殆んど修めてその詳解を爲したるもの。	▲合同形と相似形、比例線、圓及直線形、軌跡外三章にて幾何學の要點を説く。	▲下巻は面積、比例、軌跡、作圖題及び應用問題の五篇より成る。	▲幾何學全般を通觀し各定理の連絡統一に力を致して解釋せる書。	▲二三年の教科書に隨伴の参考書で、直線、圓形、圓外一編。	▲數學の中最も古く發達した初等幾何學に就ての研究で、平面幾何學外二篇。	▲初歩よりグラフにいたる迄總て初學者に於て理解出来る。	▲習學者受驗者に適する様教科書順に説明されて居る。	▲銳角の三角函數、正切法則及び半角公式、一般なる三角法の解法外十一章。	▲銳角の三角函數、一般角の三角函數外二編及び別冊附録問題解答。	

藤野 了祐	早大教授	平 面 三 角 法	洋四六	布判	180	一、五〇	富 山 房	月 六	▲高等學校又は専門學校の教科用書として編述したもの。
長門屋書房編	各官立大學	數學問題集	洋四六	布判	287	一、三〇	長門屋書房	月一十	▲昭和四年度以降の帝國大學入學試験の數學問題を収録して解答を施す。
室 由 之	受復習幾何代數融合問題	幾何代數融合問題	並四六	製判	381	一、五〇	成 文 社	月 七	▲速成的に融合問題の一般的知識を得られるやう解説を施せる書。
英語通信社編	昭和六年度數學問題集	數學問題集	並四六	製判	355	一、〇〇	英語通信社	月 四	▲昭和六年度高校専門學校入學試験數學問題を蒐録して模範解答を示せるもの。
數學教授法	全國高等專門學校入學試験問題集	數學問題詳解	並四六	製判	75	三、〇〇	昇 龍 堂	月 四	▲昭和六年度の全國高等專門學校入學試験數學問題集。
シグナル社編	高等專門學校入學試験問題詳解	數學問題詳解	並四六	製判	443	一、〇〇	シグナル社	月 五	▲昭和六年度專門高等學校の入學試験數學問題を蒐録詳解せるもの。

一六 醫學・衛生

醫學・醫事一般

著 者	書 名	装幀體裁	頁 數	定 價	發 行 所	月 行 發	内 容 大 意
九州帝國大學教授 小川 政 修	泰 西 醫 學 史	洋四六	布入判	578	第一書房	月 九	▲古代醫學史(古代東方民族の醫學外三章) 中世醫學史(ビザンツ醫學外二章)
アラシヤイ著 櫻 澤 如 一 譯	西 洋 醫 學 の 没 落	上四六	製入判	332	先 進 社	月 二 十	▲西洋醫學の二傾向、分析的醫學の岐路、素質體質の意義外二章にて論述。
醫學博士 大 西 清 治	勞 働 醫 學 概 論	洋四六	布入判	423	日 本 評 論 社	月 二 十	▲産業に於ける生物學の關與のあらゆる方面に觸れて論述せるもので、勞働生理外三篇。
ベルナル著 三 浦 岱 榮 譯	實 驗 醫 學 入 門	洋四六	布入判	298	興 學 會	月 六	▲實驗的推理、生物現象の研究に於ける實驗的方法の應用外一編。
今 裕 譯 編	ヒボクラテス全集	洋四六	布入判	1352	岩 波 書 店	月 五	▲フツクスの獨譯を基本として翻譯せるもので、宣誓、生活の衛生外五十三編。
醫學博士 上 條 秀 介	必 携 家 日 常 醫 學 語 集 覽	洋四六	布判	260	金 原 商 店	月 三	▲ラテン語、ギリシヤ語、獨乙語、獨乙語に於けるギリシヤ語及ラテン語系接頭語其他。
醫學博士 佐 藤 秀 三	必 携 家 日 常 醫 學 語 集 覽	洋四六	布判	180	金 原 商 店	月 三	▲醫療の要求量、醫療の供給量、醫療費の負擔、結論。

生理・解剖・組織・病理

醫學・衛生(醫學・醫事一般・生理・解剖・組織・病理)

醫學・衛生(生理・解剖・組織・病理)

藤岡巖	近世生理學史論	洋四六	布判	267	二、五〇〇	京都人文書院	月十	▲近世生理學史論、近世生理學の二百年の二篇及び醫學史的研究出で、附載。一廉價版。
杉田平十郎	電子學の生理解剖	洋四六	布判	450	二、五〇〇	新科學社	月二	▲電子學の唱導者杉田平十郎氏の専門的立脚地より觀察したる生理解剖書。
正次	解剖學	洋四六	布判	567	六、〇〇〇	太陽堂	月五	▲骨格系統、筋系統、内臟系、統循環系統外四編にて論述、附録顯微鏡的検査法。
二村領次郎	小局所解剖學	洋四六	布判	247	六、〇〇〇	金原商店	月二	▲頭部、頸部、胸部、腹部、骨盤部、上肢、下肢。
西村領次郎	新人體解剖圖譜	洋四六	布判	380	五、〇〇〇	金原商店	月九	▲挿圖二百十枚により解説。
三省堂編輯所編	女子人體解剖圖	式三六	折判	1	二、五〇〇	三省堂	月五	▲折疊式の人體解剖圖。
堀泰二	簡明組織學	洋三三	布判	100	二、七〇〇	金原商店	月五	▲細胞、原形質、核、中心小體、細胞膜、内網、狀裝置等、組織、上皮組織、支柱組織、其他。
舟岡省五	組織學總論	布三三	裝判	426	六、〇〇〇	南江堂	月二十	▲第一講に組織學總論の對象二講より八講に亘り生活物質の一般性狀及増殖の機構を講述
佐藤清	血液學之基礎	布三三	裝判	166	五、〇〇〇	南江堂	月五	▲其主力を圖解に置き記述を簡單にし軌近に於ける血液學に關する新學說を網羅す。
木村男也	小病理學總論	洋四六	布判	270	八、九〇〇	南山堂	月二	▲病理解剖學總論上卷(畸形の病理解剖、細胞の病理形態學、疾病の病理解剖上)
稻田内科同窓會編	稻田教授臨床講義集	洋三三	布判	300	三、〇〇〇	金原商店	月三	▲神經性呼吸失速症、慢性骨髓性白血病、紫斑病、十二指腸癌病の貧血、其他。

醫學・衛生(臨床醫學)

加藤義夫	小內科診斷學	洋三三	布判	358	六、五〇〇	金原商店	月四	▲病歴、一般體格、體温、呼吸器、循環器、血液、消化器、泌尿器、新陳代謝、其他。
和野義夫	血液及血液病	布三三	裝判	196	二、五〇〇	南江堂	月一十	▲中卷に收むる血液の臨床及治療、脾腫と其の鑑別診斷、症候性血液變化等。
佐伯重治	輸血實施法	布三三	裝判	121	二、〇〇〇	南江堂	月二	▲輸血に關する知識を平易に説明し、其手技に關しても用意周到に説かれて居る。
吉松駿一	〇・一cc血液微量定量法	洋三三	布判	134	一、五〇〇	南山堂	月九	▲臨床家又臨床研究室の諸君が患者診察の餘暇を利用して微量研究する方法を教へた書。
平野治	血壓診斷治療學	洋三三	布判	987	八、七〇〇	金原商店	月五	▲血壓定義、血壓の呼吸的變動、肺血液循環機械的血測定法、毛細管血壓及靜脈血壓、其他。
住吉彌太郎	肺結核と虛脫療法	洋三三	布判	210	五、〇〇〇	金原商店	月十	▲適應症と禁忌、手術に對する危険とその豫防使用瓦斯の選擇人工氣胸裝置、其他。
菅沼清次郎	肺結核人工氣胸療法	洋三三	布判	175	二、五〇〇	南山堂	月六	▲人工氣胸療法の臨床的作用及び效果外十二項より成り該療法の全知識を網羅載す。
小川蕃	簡明外科各論	洋四六	布判	293	七、〇〇〇	金原商店	月二	▲頭部外科、顔面外科、舌外科、頸部外科、甲狀腺の外科、胸腺外科、肺臓外科、心臟外科等。
小川蕃	簡明外科各論	洋四六	布判	293	七、〇〇〇	金原商店	月二	▲肝臓外科、膽汁系統外科、脾外科、胃及十二指腸の外科、腹膜外科、蟲様突起外科等。
青山徹藏	小外科總論	洋四六	布判	450	六、五〇〇	金原商店	月三	▲麻酔、無菌法、傳染ニ關スル一般事項、創傷ノ治療、一般外科技術機械的損傷、其他。
遠山肥藏	彩色皮膚病圖譜	洋四六	布判	50	一、八〇〇	南山堂	月一	▲特異なる皮膚病を選び、之を精巧なる三色版となせしもの五十表七十二圖を收む。
賀川哲夫	簡明皮膚科學	洋三三	布判	340	七、五〇〇	金原商店	月五	▲皮膚の構造、皮膚病の病理總論、皮膚治療の法式、放射線療法、皮膚炎、皮膚の急性傳染病。
佐藤彰	具體的小兒科學	洋三三	布判	246	三、八〇〇	南山堂	月五	▲上卷に引續き「呼吸器病を思ひしむる患兒(中)外十三篇を收む。」

醫學・衛生 (通俗醫學・治療法)

中村善雄	宮原立太郎	伊東淳	岡田道一	桑田欣兒	小山善太郎	佐藤法圓	清水英範	杉田平十郎	高橋正倫	高木徹親	難波巖峰	村上辰午郎
肺病は斯くすれば治る	小兒より大人まで肺の發病預防とその治療	大日本醫學協會(1) 長生順性療法	大日本醫學協會(6) 兒童惡癖虛弱矯正法	大日本醫學協會(10) 靈能開顯法一名家支術	大日本醫學協會(11) 血液循環療法	大日本醫學協會(13) 眞理治療と其方法	大日本醫學協會(15) 肺病の精神治療法	大日本醫學協會(16) 電子醫學療法	大日本醫學協會(19) カイロプラクテツクの學理	大日本醫學協會(20) 高木式斷食法	大日本醫學協會(21) 整容保健療法	大日本醫學協會(22) 精神療法
洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六
布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判
303	425	50	58	52	65	46	81	54	54	69	42	56
一、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三
主婦之友社	三成社	二松堂	二松堂	二松堂	二松堂	二松堂	二松堂	二松堂	二松堂	二松堂	二松堂	二松堂
月三	月二十	月九	月九	月九	月九	月二十	月九	月九	月二十	月九	月九	月九
▲肺結核は治癒し易い疾患、何故に肺結核と なるか外十篇にて説く。	▲小兒期より老年期に至る迄の肺の發病預防 並にその治療に關する學理を説述。	▲順性療法の外二章。順性療法の特長、順性療 法の實際外二章。	▲惡癖とは、爪を噛む惡癖、眼を開いて眠る 癖、虛弱兒童とは外十四章。	▲人には靈能がある。寂玄術の現象、諸靈法 との比較、寂玄術の實驗外四章。	▲總論、胃癌及び子宮癌の理學的治療法、二 十年間の痼疾が癒る等三章にて説述。	▲眞理治療法とその方法に就て述べたもので 疾病、治療、體験外八章。	▲肺病は精神療法に限る、肺病は何故不治と なつたか、恐怖心の驅逐法如何外七章。	▲醫學と理學、病氣と治療、電子と力線、波 動と波長外一章にて説述。	▲カイロプラクテツクの定義、カイロプロ ラクテツクの理論的基礎外三章。	▲外國の斷食研究、日本の斷食研究、高木式 斷食法の偉效外二章。	▲實際問題としての整容保健療法を説けるも ので、食餌療法外四章。	▲精神統一の必要、自己丹田呼吸の方法、物 品の方へ向く實驗外九章。

醫學・衛生 (通俗醫學・治療法)

山本精一郎	平田内蔵吉	大里俊吾	正木不如丘編	林照壽	山本介泉	野地繁久	石原保秀	池野傳吉	久保田眞種編著	清水正光	主婦之友社	大野潤一郎
大日本醫學協會(24) 肺病の發病預防と其治療	心療醫學典	日光療法問答	日光療法問答	默示療法	指て病氣を癒す法	健康増進マツサイジ法	式乾浴療法	實證強健術	萬病の治療と食養法	呼吸哲學	家庭療法全集	手記醫師を迎へるまで
洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六	洋四六
布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判
58	259	270	144	359	345	260	323	326	608	286	692	154
二、三	五、五	四、五	九	一、五	一、五	一、三	一、七	一、三	三、三	一、五	一、三	一、三
二松堂	木村書房	金原商店	三光書院	シンフォニ出版	銀座書房	日本業社	春陽堂	講談社	金星堂	人文書院	主婦之友社	文新
月二十	月二十	月三	月二	月三	月三	月二十	月三	月四	月九	月十	月二	月八
▲正確な検査法に就て述べたもので、波動論 靈感性的原理外六章。	▲心療術概論及臨床心療術の二篇にて心療に 於る綜合的方法、神經系疾患其他を論述。	▲「總論」光の化學作用光線の生物學的作用等 「各論」結核の光線療法、佝僂病の光線療法等	▲日光療法を實施する人々にとつて大切な事 項の質問に答へたもの。	▲總論(醫療と精神療法以下廿項)各論(物療 法編(廿一)精神治療編(自信力外六十項))	▲全身或は局部的に手に依る科學的操作法を 施して以て諸病を治癒せしむる方法を説く。	▲マツサイジに必要な解剖生理、マツサイジ をする時の心得外三章にて説述。	▲效果の確實な乾浴療法に就て述べたもので 醫學の功罪外九章。附各實行者の乾浴觀。	▲直ちに實行出来るやう圖解本位に強健術を 説けるもので、檢體強健術其他。	▲故田中房種氏の遺方を編めるもので、本草 藥學の勃興外六篇。	▲科學的健康法たるヨギの呼吸哲學を紹介せ るもので、哲學編外一篇。	▲雑誌「主婦之友」新年號の附録を保存用の 装幀に改めたもので、看護法外十八篇。	▲醫師を迎へるまでの應急の處置を平易に述 べたもので、準備、應用其他。

醫學・衛生(性・避妊・衛生・美容・看護)

醫學士 森田次郎	衛生堂性病科院長 杉田平十郎	西川義方	醫學博士 豊島烈	大和良作	馬島 剛	平野・ア・エルア著 平野・ア・エルア著	平野・ア・エルア著 平野・ア・エルア著	有本邦太郎	藤卷良知	額田 豊	佐伯・樋口共著 近藤・松澤共著
素人で診断及調剤治療法	慢性病と新療法	肺病全強肺健康法	肺の療養を語る	性病	母よ賢明なれ	完全なる夫婦	夫婦に於ける受胎	榮養と食品の化學	安價生活入門	衛生生活入門	新日本食品成分總覽
上四六判	並四六判	洋四六判	布四六判	布四六判	並四六判	並四六判	上四六判	洋四六判	洋四六判	上四六判	布四六判
128	136	538	328	407	264	324	450	409	272	286	286
八五	六五	二二	一、二	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三
朝日書房	新科學社	主婦之友社	四條書房	日實本業社	日實本業社	平野書房	平野書房	丸善株式會社	家庭醫學社	南江堂	南江堂
月一	月三	月五	月五	月四	月九	月二十	月二十	月一十	月一十	月五	月九
▲五十有餘の病氣を素人が診断して自分で調劑服藥し治療する事を書いたもの。	▲現代醫學上に於て未解決にある慢性病を解決し新療法を提唱したるもの。	▲一般療養篇十四章、對症療養篇十一章、衛生預防篇三章、學理と實際を兼ねた肺療養書。	▲肺結核の療養に就て述べたもので、療養の根本精神外九章。	▲性病の定義、性病の種類、泌尿生殖器の解剖及び生理外九章にて説述。	▲産兒調節に就ての知識を説けるもので、産兒制限に必要な生理學外三章。	▲夫婦の性愛生活を生理的、技巧的に詳論したもので、嘗つて發禁となつたもの(改訂版)。	▲夫婦間に於ける望しき妊娠、望しからざる妊娠、人工妊娠を詳細に論じたもの。	▲榮養及び食品の化學に就て論述せるもので人體構成物質と榮養素との關係外十五章。	▲緒論、食品經濟の學理、各食品の榮養價値の三篇にて論述せる食品經濟學。	▲本書は國立榮養研究所長佐伯博士等が多大の勞力を費し發表せる食品分析表。	▲飲食物其他有害なる色彩の次第に増加した衛生的試驗法。

衛生・美容・看護

醫學・衛生(衛生・美容・看護)

醫學博士 橋本寛敏	醫學博士 加藤 鷺翼	醫學博士 岡部 庸三郎	醫學博士 越智 眞逸	醫學博士 本間 英史	醫學博士 石原喜久太郎	醫學博士 星野 龍猪	日本女子スポーツ講堂理事 柏 八里	醫學博士 早野 實	醫學博士 峰島 尙志編	醫學博士 藤原 九十郎	醫學博士 高野 六郎	醫學博士 衣笠安藏	醫學博士 服部安藏
婦人衛生(日)	保 健 の 礎	南洋家庭衛生	健康心の衛生	體育衛生への國民的總動員	衛生視察南米紀行	はだか・日光・水	日光を浴びよ	頭腦明快法	衛生相談	家事衛生要義	豫防の出来る病氣	著色料の衛生試驗法	著色料の衛生試驗法
並四六判	並四六判	洋四六判	洋四六判	並四六判	洋四六判	背四六判	並四六判	並四六判	布四六判	洋四六判	布四六判	布三三判	布三三判
77	70	528	234	56	434	188	97	267	365	424	449	496	496
二五	二五	一、八〇	二、九〇	二、三〇	一、〇〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	二、三〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
育社協會	豫防時代社	南洋協會	京都人文学書院	日本國民會	博文館	文友堂	文友堂	春陽堂	千倉書房	文光社	四條書房	南江堂	南江堂
月五	月四	月五	月五	月八	月十	月六	月九	月六	月六	月一	月三	月九	月九
▲婦人は國民衛生の鍵を握つてゐる、主婦は何をなすべきか外四章。	▲保健思想と齒牙の衛生を解いた何人にも判り易く總振假名付の通俗衛生書である。	▲衛生篇(熱帶渡航者の注意外二節)疾病篇傳染病外四節にて論述。	▲乳の分泌と精神作用、心の平和は健康の基など二十一章、普及版。	▲體育衛生とは如何なるものか、體育衛生の大理想及大抱負外五章。	▲紐育よりアマゾン首都ベレムまでの船旅パナマ視察外十五章、附篇回顧。	▲はだかの効果、日光浴の發達、體操の話、貴き體驗其他を収む。	▲日光の効果、日光の中へ外六篇。	▲諸名士の頭腦明快・氣分轉換法、頭腦明快經濟的使用法外十四篇、普及版。	▲都新聞「衛生相談」に連載されたもので、主要なる病氣を凡て網羅す。	▲住居の衛生、衣服の衛生、食物の衛生等三篇三章にて論述、附録二章。	▲病氣を豫防する方策を説けるもので、健康と壽命、暑と病氣外十篇。	▲飲食物其他有害なる色彩の次第に増加した衛生的試驗法。	▲病氣を豫防する方策を説けるもので、健康と壽命、暑と病氣外十篇。

著者	書名	装幀	頁数	定價	送料	発行所	月行	内容大意
醫學博士 岡田道一	婦人美容衛生讀本	布四六	242	二、〇〇	〇	南江堂	五月	▲著者日常美容術師に口述する材料を基礎とし試験問題を参照した受験者の参考書。
醫學博士 初見金三郎	美容醫學と法規	洋四六	282	二、八〇	〇	金原商店	四月	▲解剖生理學、消毒學、美容衛生學、美容傳染病學、美容材料學、皮膚に使用する化粧品、
醫學博士 中尾武彦	美容試験問題答案集	洋四六	327	二、三〇	〇	大日本理容衛生學會	六月	▲試験科目の中學術的方面の試験題目を假説して其答案を例記せるもの。
南崎雄七	美容試験問題答案集	洋四六	327	二、三〇	〇	衛生學會	六月	▲美容術受験者の爲に各種問題を収録して解答を施せるもの。
奥田宗吉	美容術試験答案集	並四六	157	一、五〇	〇	美容術試験答案研究所	六月	▲美容術受験者の爲に各種問題を収録して解答を施せるもの。
日本産婆看護婦講習會編	看護婦試験問題模範解答集	並四六	282	一、八〇	〇	昭文館	十月	▲看護婦の受験準備を基礎として看護婦學の大體を述べたもの。

醫學・衛生（衛生・美容・看護）

一七、運動・趣味・娛樂

著者	書名	装幀	頁数	定價	送料	発行所	月行	内容大意
東京朝日新聞運動部長 小高吉三郎	第二朝日常務課座(8)のスポーツの話	布四六	245	二、三〇	〇	朝日新聞社	三月	▲平易に論述せるスポーツの發達史で、原始時代、歐米の變遷外一篇。
岡部平太	スポーツ行脚	洋四六	428	二、〇〇	〇	日本評論社	十一月	▲スポーツ行脚、蹴球の秋、冬の季節來る、米國の大學とスポーツ外十四篇。
スボ會編	最新スポーツ用語辭典	洋三六	454	一、六〇	〇	モナス	十一月	▲全スポーツに亘つての用語を網羅して解説せる辭典。
人見絹枝	女子スポーツを語る	洋四六	224	一、五〇	〇	人文書房	十月	▲女子と運動競技、日本女子オリズムピク大会、日本記録と世界記録外二十篇。
澤田敏雄	プロレタリア・スポーツ携必	並三六	447	八〇	〇	同人社	一月	▲プロレタリア・スポーツの技術的指針たることを主眼とせるもので二章より成る。
野口源三郎	競技運動の心理	布四六	423	二、三〇	〇	目黒書店	五月	▲視力の利用法、距離及び運動速度の知覺、第六感と競技外十四章にて説述
松本鳴枝樓	近世大試合	布四六	392	一、八〇	〇	輝文堂書房	十一月	▲剣道、柔道、角道、野球、拳闘、水泳、レスリングの最近の大試合觀戰記。
日本學生陸上競技聯合會編	解説スポーツ用語辭典	布三五	640	一、五〇	〇	日實業社	十月	▲野球、テニス、ラグビー、水泳其他スポーツの全領域に亘つて網羅せる語彙を収む。

運動・趣味・娛樂（運動一般）

運動・趣味・娯楽(野球・庭球)

東京運動協會編	運動競技三十種	並四六 製判	247	一、八〇	正和堂	三月	▲最近スポーツ三十種の解説で、運動競技の知識、野球、競走其他。
朝日新聞社編	運動年鑑 昭和六年版	並四六 製判	572	一、二〇	朝日新聞社	四月	▲野球の部、庭球の部、陸上の部、水上の部外十七部。別冊附録各種運動競技規則全集。
朝日新聞社編	野球	並四六 製判	174	四、五〇	朝日新聞社	三月	▲野球の競技方法及びその發達史を説けるもので、野球の歴史其他。
飛田穂洲	野球人國記	布四六 裝入判	617	一、八〇	誠文堂	七月	▲血と涙に彩られたる古き野球兒の經歷逸話集で、野球の上代史外四篇。
飛田穂洲	野球・人・漫筆	背四六 洋布入判	327	二、〇〇	人文書房	八月	▲震災、功成り名遂げて、運動場裏の死、野球の巨人大隈侯外隨筆四十七篇。
腰木壽	私野球	布四六 裝判	490	二、〇〇	三省堂	五月	▲現在の野球に至る過程、野球の理論、實際批評、チームの構成要素、其他數十項。
岡田源三郎	野監督の心裏	布四六 裝判	261	一、三〇	三省堂	九月	▲指導上の苦心、實戦上の駈引等野球のメンタル・サイドを主として述べたもの。
庄野義信編著	六大學野球全集	並四六 製判	550	一、五〇	改造社	九月	▲本邦球界六十年の沿革史をその裏面に潜む挿話珍談と共に叙述せるもの。
庄野義信編著	六大學野球全集	並四六 製判	526	一、三〇	改造社	十月	▲中巻は昭和二年春季より昭和四年秋期迄六シーズン間の試合状況を収む。
庄野義信編著	六大學野球全集	並四六 製判	520	一、三〇	改造社	十一月	▲昭和五年以後今日までの六大學野球全史を収む。
運動通信社編	六大學野球リレー戦史	並四六 製判	52	二、〇〇	共和堂	六月	▲日本野球界の代表的試合たる六大學野球リレー戦の歴史を述べたもの。
横井春野	六大學野球の極意	並四六 製判	225	一、二〇	野球界社	四月	▲六大學リレー戦に於ける感奮の場面を描寫せるもので、超人的のプレーヤー外七十篇。

運動・趣味・娯楽(野球・庭球)

伊丹安恒	ルースの野球指導	洋四六 布判	110	一、〇〇	春陽堂	九月	▲法政、電燈、明治、立教、東京帝國、早稲田大學の校歌應援歌を収む。東京帝國、早稲田大學の極意に就て説けるもので、キヤッチボール、練習の順序外十四篇。
横井春野	野球の極意	上四六 製判	190	八、〇〇	文豪閣	三月	▲本壘打王ベリアルスのコーチ振りを紹介せるもので、投手の守備外卅二篇。
誠文堂編	投手	洋三六 布判	376	特五、六〇	誠文堂	五月	▲投手の心意氣(飛田忠順) 投手としての保健(小川正太郎) 外十四篇。
誠文堂編	捕手	洋三六 布判	370	特五、六〇	誠文堂	五月	▲私のアンダーメスロウの研究(菅瀬一馬) 投手生活の收獲(繩岡修二) 外十六篇。
誠文堂編	一壘手	洋三六 布判	306	特五、六〇	誠文堂	五月	▲投手指導法(伊達正男) 私の捕手練習法(小川安) 外十三篇。
誠文堂編	二壘手	洋三六 布判	305	特五、六〇	誠文堂	五月	▲一壘手としての諸條件(有田富士夫) 一壘手のカバリー(松木謙次郎) 外十三篇。
誠文堂編	三壘手	並三六 製判	338	特五、六〇	誠文堂	五月	▲二壘手の内野リレー(横澤三郎) 内野飛球の處理法(川瀬進) 外十四篇。
誠文堂編	遊撃手	洋三六 布判	307	特五、六〇	誠文堂	六月	▲三壘ゴロの捕り方(神吉英三) 三壘手とコントロール(村川克巳) 外十二篇。
誠文堂編	外野手	洋三六 布判	306	特五、六〇	誠文堂	六月	▲遊撃手としての私の經驗(田部武雄) 私の遊撃守備(牧野直隆) 外十四篇。
誠文堂編	野守備	洋三六 布判	356	特五、六〇	誠文堂	六月	▲外野手篇總説(押川清) 右翼手としての私の守備(水原義明) 外十五篇。
誠文堂編	野撃	洋三六 布判	319	特五、六〇	誠文堂	五月	▲打擊篇總説(神吉英三) 私の打擊法(宮武三郎) 長打法(杉田屋守) 外十三篇。
誠文堂編	野撃	洋三六 布判	381	特五、六〇	誠文堂	五月	▲五番打者私觀(河合君次) 危機打者に關して(伊丹安恒) 外十五篇。

